やさしい　たのしい　おもしろい

みんな元気な
農産物づくり
《第4版》



JA大阪北部キャラクター
ほくちゃん
JA OSAKA-HOKUBU®

JA大阪北部

https://www.ja-osakahokubu.or.jp/ JA大阪北部 検索

ごあいさつ

「農産物づくり第4版」発行にあたり

組合員の皆様にはますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、当JA各事業に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、当JAでは地域農業の振興による農家所得の向上を目指し実践に取り組んでおります。さらに農産物直売所「ほく彩館」において、安全・安心で新鮮な農産物提供に向けて組合員の皆様とともに取り組んでいきたいと考えております。

つきましては、今後ともこの冊子をご活用いただき、日々の農産物づくりに役立てていただければ幸いと存じます。

なお、今後も皆様方の情報を取り入れ、より良い冊子づくりを考えておりますので、一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

2025年2月
大阪北部農業協同組合

目次

Ⅰ．主な病害虫の写真 …… 2

Ⅱ．農薬の安全使用 …… 6

Ⅲ．水稲 …… 8
1．キヌヒカリ（中山間部）…… 8
2．ヒノヒカリ（平坦部）…… 10
3．きぬむすめ …… 12

Ⅳ．野菜 …… 14
①果菜類
1．いちご …… 14
2．オクラ …… 16
3．かぼちゃ …… 18
4．きゅうり …… 20
5．すいか …… 22
6．ズッキーニ …… 24
7．とうもろこし …… 25
8．トマト …… 26
9．なす …… 28
10．ニガウリ …… 30
11．ピーマン …… 32

②葉茎菜類
1．アスパラガス …… 34
2．エンサイ …… 36
3．おおば（シソ） …… 38
4．オカワカメ …… 39
5．キャベツ …… 40
6．こまつな …… 42
7．しゅんぎく …… 43
8．たまねぎ …… 44
9．チンゲンサイ …… 46
10．菜ばな …… 47
11．にら …… 48
12．ねぎ …… 50
13．はくさい …… 52
14．ブロッコリー …… 54
15．ほうれんそう …… 56
16．ミズナ …… 58
17．レタス …… 60

③根菜類
1．かぶ …… 62
2．ごぼう …… 64
3．さつまいも …… 65
4．さといも …… 66
5．じゃがいも …… 68
6．だいこん …… 70
7．にんじん …… 72
8．ニンニク …… 74
9．ヤーコン …… 75

④豆類
1．エンドウ …… 76
2．えだまめ …… 78
3．さやいんげん …… 80
4．そらまめ（未成熟）…… 82

⑤菌類
1．シイタケ …… 84

Ⅴ．果樹 …… 86
1．果樹苗木の植え方 …… 86
2．果樹の整枝・剪定の方法 …… 88
3．いちじく …… 92
4．うめ …… 94
5．温州みかん …… 96
6．かき …… 98
7．くり …… 100
8．さんしょう …… 102
9．びわ …… 104
10．ぶどう（種なし栽培）…… 106

Ⅵ．花き類 …… 108
1．けいとう …… 108
2．コスモス …… 110
3．つつじ …… 112
4．夏ぎく（小ぎく）…… 114
5．葉ぼたん …… 116
6．ひまわり …… 118

用語解説 …… 119

参考資料
①使用単位の相互関係 …… 127
②主な病害の耕種的防除法 …… 128
主な害虫の耕種的予防法 …… 128
③散布液の希釈量早見表 …… 129
農薬の登録で誤認しやすい適用作物 … 129
④好光性種子と嫌光性種子 …… 130
マルチの種類と効果 …… 130
⑤野菜の肥料の効かせ方のタイプ … 131
主な作物・野菜が好む土壌pH … 131
⑥栽培を楽しもう！…… 132

I 主な病害虫の写真

（写真提供 大阪府病害虫防除グループ・協友アグリ（株））

1. 発生・被害の多い水稲の病害虫

主な斑点米カメムシ類

出穂までは、畦畔、休耕田のエノコログサなどのイネ科雑草に生息。その前後に水田に侵入して、乳熟期にかけて籾を吸汁し、斑点米となり、米の品質を低下させる。高温小雨の夏に多発。

トゲシラホシカメムシ



体長5～7mm。
肩が尖っている。



ホソハリカメムシ



体長9～11mm。
全体に黄褐色。



クモヘリカメムシ



体長15～17mm。



アカスジカスミカメ



体長5～6mm。背中の
太い条、触角、脚も赤い。



イネカメムシ



体長12～13mm。
大型で茶褐色。



カメムシ類に吸汁された斑点米



中央に吸った跡、白い円の外側に
黒い縁取りができる。

トビイロウンカ

盛夏～秋口にかけて水田で急激に増殖し、「坪枯れ」被害を引き起こす。



トビイロウンカ



坪枯れの様子

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の卵塊と成貝

田植後20日間の柔らかい苗が食害される。水深4cm以下の浅水では貝が活動できない。年々、発生地域が河川や水路を通じて拡大しつつある。



ジャンボタニシの卵塊



ジャンボタニシの成貝

コブノメイガの成虫と幼虫

幼虫は葉を縦に巻き、内側から薄皮を残して食害するため、多発すると葉先が一面に白くなる。
（8月中旬～9月末に多発）


コブノメイガ成虫（体長約1.5cm）


コブノメイガ幼虫（体長約1.5cm）

ツマグロヨコバイ（成虫）とイネアオムシ（幼虫）

ツマグロヨコバイが多発すると、虫の排泄物にすす病が発生して、葉が黒く汚れる。
イネアオムシは、多発すると幼虫が葉脈を残して、葉を食いつくす。

ツマグロヨコバイ（雄）


体長約5mm

ツマグロヨコバイ（雌）


体長約6mm

イネアオムシ（幼虫）


体長2～2.5cm

いもち病

葉に感染すると紡錘形の病斑ができ、症状が進むと葉が枯れる。穂に感染すると白穂になり、
白穂の中の籾は充実しなくなる。気温22～26℃、多湿で日照不足の時に多発する。


葉いもちの様子


穂いもちの様子

内穎褐変病（ないえいかっぺんびょう）

籾の片側（内穎）が着色する病気で、近年発生が増加している。出穂前後に、高温で降雨があれば
発生が増える。


発病した穂の様子


発病した籾の様子

2. 野菜や花で発生・被害の多い害虫

オオタバコガ

幼虫が果実内部や蕾に食入するため、防除が難しい。多くの作物を加害し、8～9月に最も被害が多い。防除対策は、被害果（蕾）を早期発見して、幼虫を捕殺する。薬剤防除は、若い幼虫の時期に行う。

オオタバコガ幼虫



体長最大約4cmに。

トマトを加害する幼虫



なすの被害果



ダイコンシンクイ（ハイマダラノメイガ）

夏～秋作のキャベツ、はくさい、ブロッコリーなどで育苗中や定植直後に被害を受けると、芯止まりや生育障害を受ける。芯や葉柄の内部に食入するため、発見や防除が遅れたり、薬剤がかかりにくい。

ダイコンシンクイ幼虫



体長最大約14mmに。

ダイコンシンクイ成虫



開張約17mm。

マメハモグリバエ

食害痕などにより、葉菜類や花き類の見栄えが悪くなり、商品価値が落ちたり、光合成能力が低下して苗物などの生育や品質が低下する。

成虫



体長約2mm。

幼虫



体長約2.5mm。



成虫が葉を吸汁したり、産卵するためにできた痕（吸汁産卵痕）【しゅんぎく】



幼虫が葉の中を食べ進むためにできた痕（食害痕）【トマト】

ミカンキイロアザミウマ

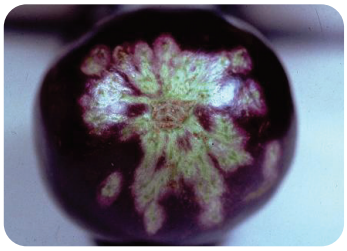
葉に寄生して吸汁するため色が抜け、葉裏は光を反射して銀色に光ったり、葉が縮れて奇形になる。果実では、表面にサメ肌状の傷ができる。

ミカンキイロアザミウマの雌成虫



体長：1.4～1.7mm。

水なすの被害



産卵痕。

きくの被害



花弁が褐色かすり状。

3. ヨトウムシ類の幼虫

ヨトウガ

若齢幼虫



頭は黒褐色、体色は淡緑。

中齢幼虫



頭は黄褐色、体色は灰黄。

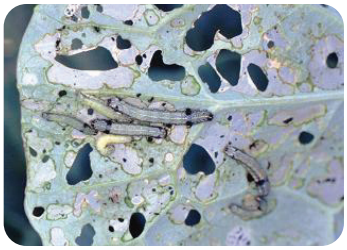
老齢幼虫



体は灰黒色で約5cmにも。

ハスモンヨトウ

若齢幼虫と中齢幼虫



体は緑色から黒色までさまざまで、頭のすぐ後ろに1対の黒い斑点がある。

老齢幼虫



体長4cmにも。

シロイチモジヨトウ

中齢幼虫



老齢幼虫



老齢幼虫



体は淡緑色から褐色で、老齢幼虫では体長約3cmにもなる。

Ⅱ 農薬の安全使用

農薬を正しく使用するための ルール

あなたは、どんな農薬散布をしていますか？

病害虫の発生状況をよく見て、どんな農薬が必要か確認する。

①作物の種類は？
②病気、害虫、雑草などの種類は？（被害の様子、被害の程度、発生に気がついた時期は？）
⇒被害の様子がわかる実物があればわかりやすい。
③今までに行った対策は？

◆病害虫の発生を予想しながら散布すると、無駄な散布、手遅れの散布を減らすことができます。

必要量だけ購入する。

①使用面積、希釈倍数・使用量。
②有効期限を考える。

散布後は、噴霧器やホース等をよく洗う。

前に使った農薬が残って混じってしまうと、散布するつもりが無くても農作物に付着し、適用外農薬が残留分析で検出されます。

購入する前、使用する前にラベルを良く読んで、農薬の使い方を確認する。

①使用できる作物
②適用のある病害虫
③使用方法（希釈倍率、使用量など）
④使用時期（収穫前使用制限日数）
⑤使用できる上限回数
⑥使用上の注意

◆農薬のラベルには、小さい字ですが、適正使用の情報が満載。

農薬を使用するときは、周辺への飛散に注意する。

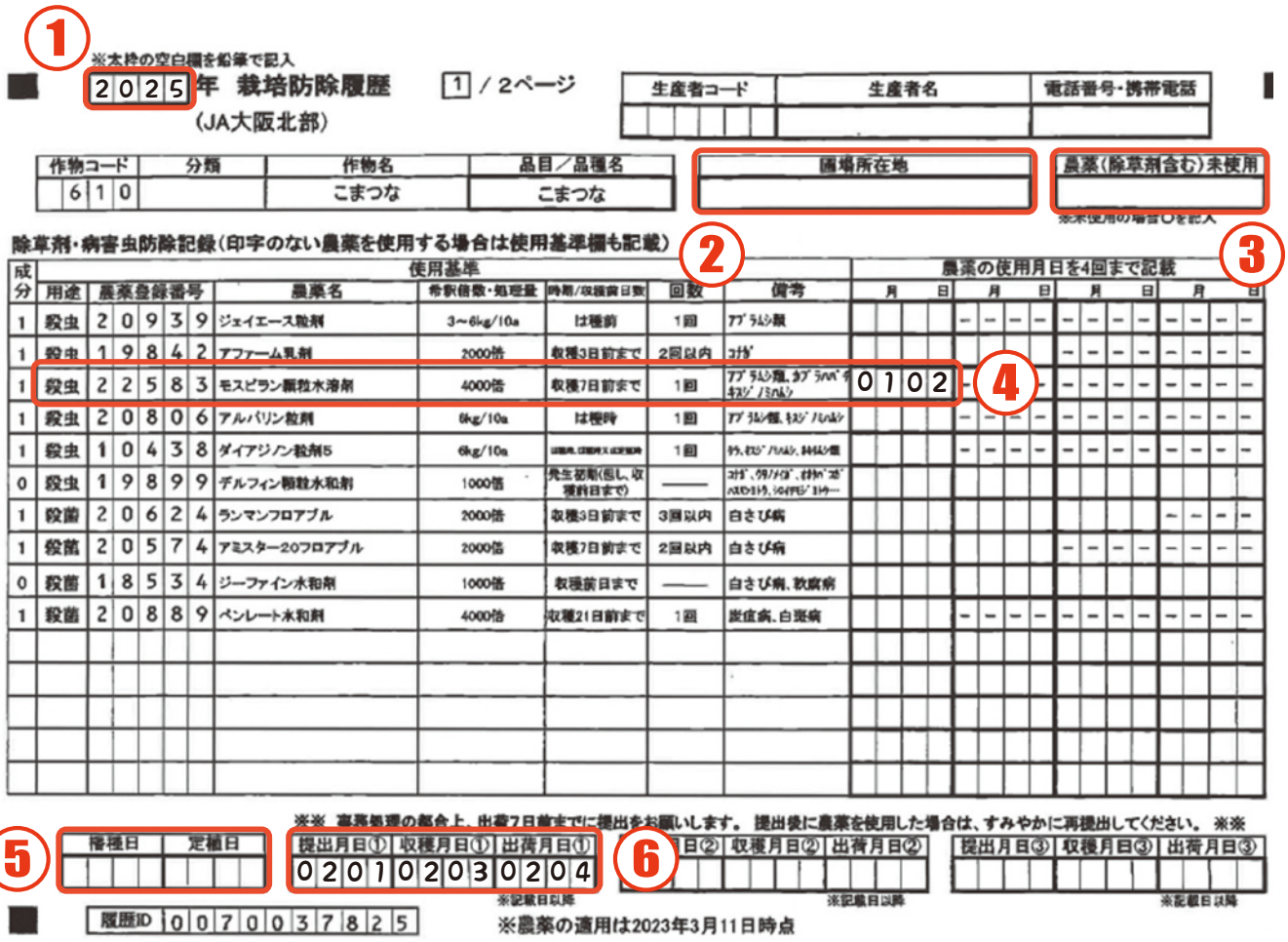
田んぼや果樹園、街路樹などの散布する周辺への農薬の飛散を抑えなければなりません。もし、飛散して他の作物にかかってしまった場合、法律違反となる恐れがあります。飛散のリスクを減らすため、対策をしましょう。
①風向きに注意し、風の強いときは散布しない。
②作物だけにかかるよう、作物に近い位置から散布圧力を抑えて散布する。
③粒剤等飛散が少ない農薬や、飛散を抑制するノズルを使用する。

⚠ご注意 病害虫の診断は、判断が非常に難しい場合があります。詳しくは農協や農薬販売店または公共の指導機関にご相談ください。

大阪府農作物病害虫防除指針 ホームページ

生産履歴の記入方法

（JA大阪北部 農産物直売所「ほく彩館」の場合）



①
※太枠の空白欄を鉛筆で記入
2025年 栽培防除履歴 1 / 2ページ
（JA大阪北部）

生産者コード	生産者名	電話番号・携帯電話

作物コード	分類	作物名	品目／品種名
610		こまつな	こまつな

②圃場所在地	③農薬（除草剤含む）未使用

※未使用の場合○を記入

除草剤・病害虫防除記録（印字のない農薬を使用する場合は使用基準欄も記載）

成分	用途	農薬登録番号	農薬名	使用基準 希釈倍数・処理量	時期／収穫前日数	回数	備考	農薬の使用月日を4回まで記載 ③ 月 日	月 日	月 日	月 日
1	殺虫	20939	ジェイエース粒剤	3～6kg/10a	は種前	1回	アブラムシ類				
1	殺虫	19842	アファーム乳剤	2000倍	収穫3日前まで	2回以内	コナガ				
1	殺虫	22583	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	1回	アブラムシ類、タバココナジラミバイオタイプQ、ミナミキイロアザミウマ	0102 ④			
1	殺虫	20806	アルバリン粒剤	6kg/10a	は種時	1回	アブラムシ類、キスジノミハムシ				
1	殺虫	10438	ダイアジノン粒剤5	6kg/10a		1回	ネコブセンチュウ、ハモグリバエ類、ネキリムシ類				
0	殺虫	19899	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	発生初期（垂し、収穫前日まで）	――	コナガ、クワノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ハイイロチョウ				
1	殺菌	20624	ランマンフロアブル	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	白さび病				
1	殺菌	20574	アミスター20フロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	白さび病				
0	殺菌	18534	ジーファイン水和剤	1000倍	収穫前日まで	――	白さび病、軟腐病				
1	殺菌	20889	ベンレート水和剤	4000倍	収穫21日前まで	1回	炭疽病、白斑病				

※※ 集荷処理の都合上、出荷7日前までに提出をお願いします。 提出後に農薬を使用した場合は、すみやかに再提出してください。 ※※

⑤

播種日	定植日

⑥提出月日①	収穫月日①	出荷月日①
0201	0203	0204

※記載日以降

提出月日②	収穫月日②	出荷月日②

※記載日以降

提出月日③	収穫月日③	出荷月日③

※記載日以降

履歴ID 0070037825

※農薬の適用は2023年3月11日時点

①提出年を記載します。

②圃場所在地を記載します。

③農薬（除草剤を含む）を使用していない場合は○印を記載します。

④農薬使用欄
使用農薬が見つからない場合、帳票の空白欄に登録番号、農薬名、月日を記載してください。

⑤播種日、定植日、移植日など作物により記入内容が異なります。
該当する月日を記載してください。

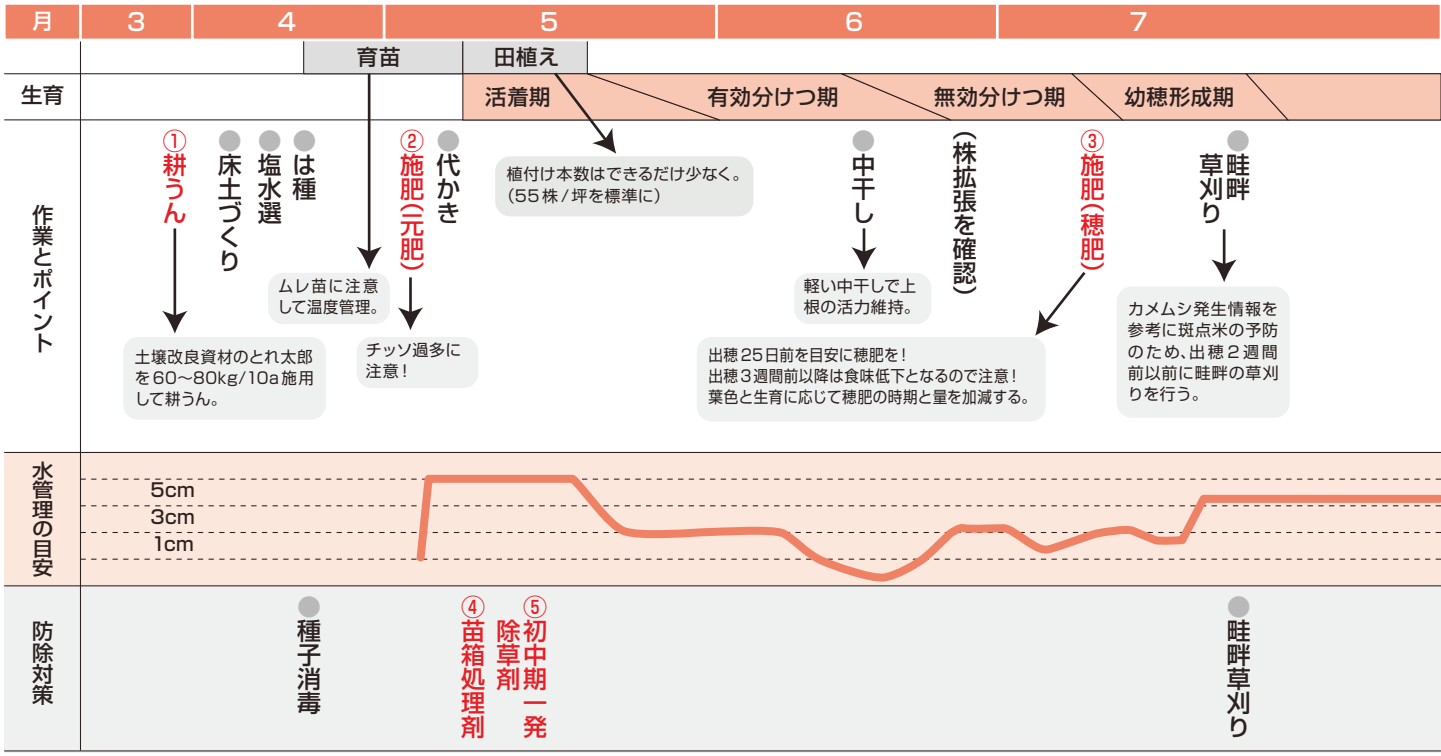
⑥提出月日、収穫月日、出荷月日。1枚の帳票で3回まで提出が可能となります。
提出日、収穫月日、出荷月日は必ず記載してください。

※出荷物の圃場・品目ごとに、出荷1週間前には提出してください。また、その後農薬を使用した場合は、その都度提出してください。

履歴記帳は「安全・安心な農産物づくり」の第一歩です。
出荷される方は必ず記帳しましょう。

Ⅲ 水　稲

水稲・キヌヒカリ（中山間部）



施肥事例（10a当たり）

①秋～早春の土づくり

- 稲刈り後、稲わら（生）約500kgと石灰窒素15～20kgを施用して耕うん。
- 3月にとれ太郎を60～80kgを施用して耕うん。または鉄次郎（又はケイカル）100kgとようりん40kgを施用して耕うん。

施肥設計例（春～夏）

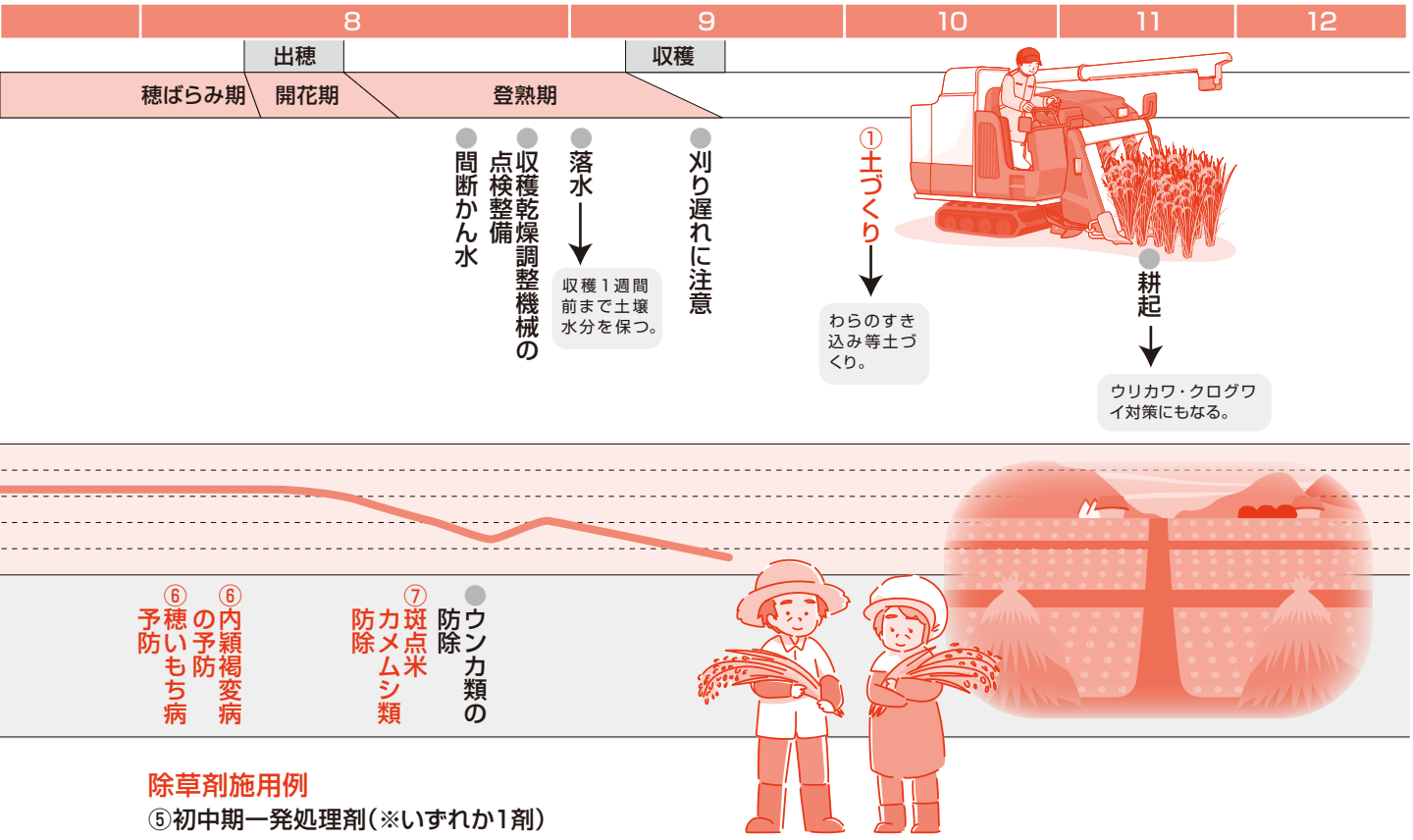
項目／肥料名	元肥	穂肥	成分量		
			チッソ	リンサン	カリ
②苦土入り化成肥料12-16-14	40kg		4.8kg	6.4kg	5.6kg
③化成肥料17-0-17		20kg	3.4kg		3.4kg
計			8.2kg	6.4kg	9.0kg

施肥設計例（元肥一発栽培）

項目／肥料名	元肥	成分量		
		チッソ	リンサン	カリ
②ユーコート202（早生用）	45kg	9.9kg	4.5kg	5.4kg

病害虫防除例

項目／農薬名	主な対象病害虫	使用量	使用時期（収穫前日数）／使用回数
④サンスパイク箱粒剤	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類など	50g/箱	移植3日前～移植当日
④デジタルメガフレア箱粒剤	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、カメムシ類、ウンカ類など	50g/箱	移植3日前～移植当日 ※カメムシ類は小型カメムシが主体で本田防除は必要
⑥ブラシン粉剤DL	いもち病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、稲こうじ病	4kg/10a	21日前まで／2回以内
⑦スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	3kg/10a	7日前まで／3回以内
⑦スタークル豆つぶ	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g/10a	7日前まで／3回以内



除草剤施用例

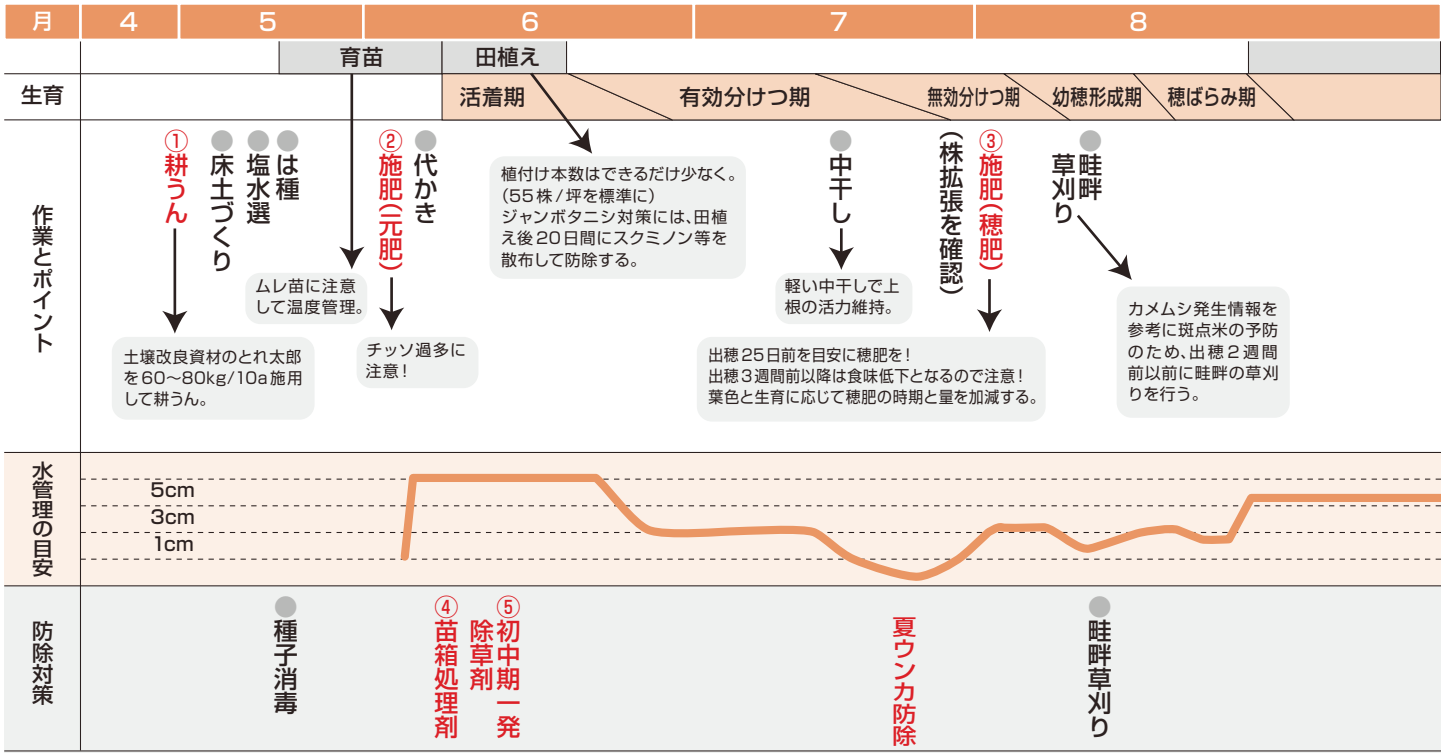
⑤初中期一発処理剤（※いずれか1剤）

農薬名＼項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
ジェイソウル 1キロ粒剤	1kg 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ（2.5葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ミズガヤツリ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ（2葉期まで）、セリ（再生始期まで） 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離（発生前）	湛水散布または無人航空機による散布 ※移植時は田植同時散布機で施用
エンペラージャンボ	小包装（パック） 10個（500g） 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ（3葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ（3葉期まで）、ミズガヤツリ（5葉期まで）、セリ（再生始期まで） 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離（発生前）	水深を5cm以上にして水田にパックのまま投げ入れる。 ※移植時は田植同時散布機で施用
バッチリフロアブル	500ml 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ（2.5葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ（2葉期まで）、クログワイ（発生始期まで） 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離（発生前）	原液湛水散布または水口施用 ※移植時は田植同時散布機で施用

初期除草剤（雑草が特に多い場合は、中後期除草剤との体系処理も検討してください）

農薬名＼項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
シング乳剤	500ml又は 300ml〔少量散布〕 本剤のみ	①代かき時～移植7日前まで（500ml） ②代かき時～移植7日前と田植直後～移植後30日まで（300ml） 〈田植後に使用する除草剤との体系で使用〉 〔1年生雑草〕ノビエ（1葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕マツバイ、ホタルイ	原液湛水散布

水稲・ヒノヒカリ（平坦部）



施肥事例（10a当たり）

①秋～早春の土づくり

- 稲刈り後、稲わら（生）約500kgと石灰窒素15～20kgを施用して耕うん。
- 3月にとれ太郎を60～80kgを施用して耕うん。または鉄次郎（又はケイカル）100kgとようりん40kgを施用して耕うん。

施肥設計例（春～夏）

肥料名＼項目	元肥	穂肥	成分量		
			チッソ	リンサン	カリ
②苦土入り化成肥料12-16-14	40kg		4.8kg	6.4kg	5.6kg
③化成肥料17-0-17		20kg	3.4kg		3.4kg
計			8.2kg	6.4kg	9.0kg

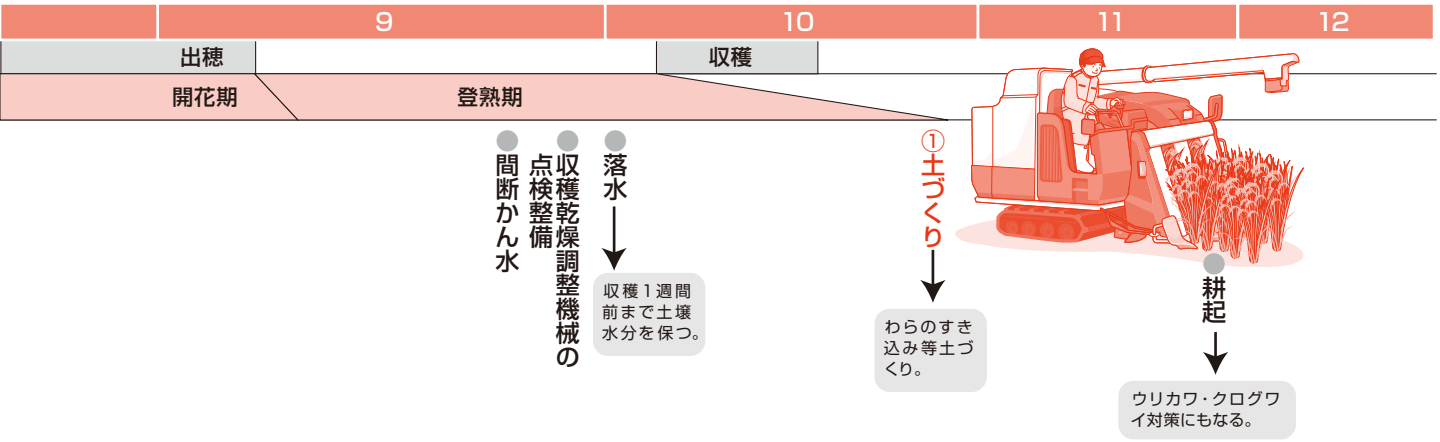
施肥設計例（元肥一発栽培）

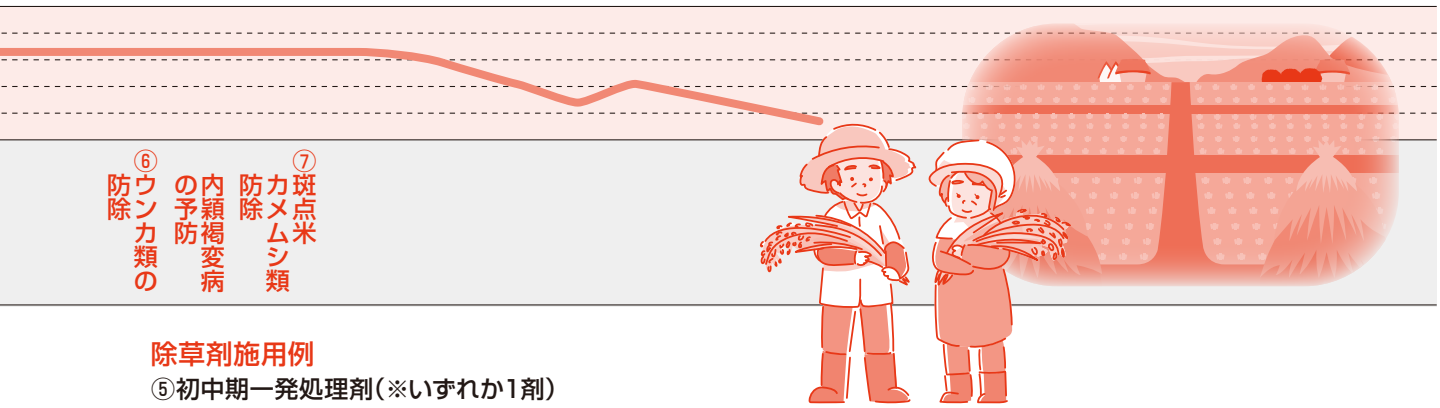
肥料名＼項目	元肥	成分量		
		チッソ	リンサン	カリ
②ユーコート202（中晩生用）	45kg	9.9kg	4.5kg	5.4kg

病害虫防除例

農薬名＼項目	主な対象病害虫	使用量	使用時期（収穫前日数）／使用回数
④ブーンゼクテラ箱粒剤	イネミズゾウムシ、ウンカ類、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガなど	50g/箱	は種時前（覆土前）～移植当日／1回
⑥パダントレボン粒剤L㊗	ウンカ類、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ	3kg/10a	30日前まで／3回以内
⑥アプロードパダン粒剤㊗	ウンカ類幼虫、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ	3～4kg/10a	30日前まで／4回以内
⑦スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	3kg/10a	7日前まで／3回以内
⑦スタークル豆つぶ	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g/10a	7日前まで／3回以内

㊗は劇物の農薬です。





除草剤施用例

⑤初中期一発処理剤（※いずれか1剤）

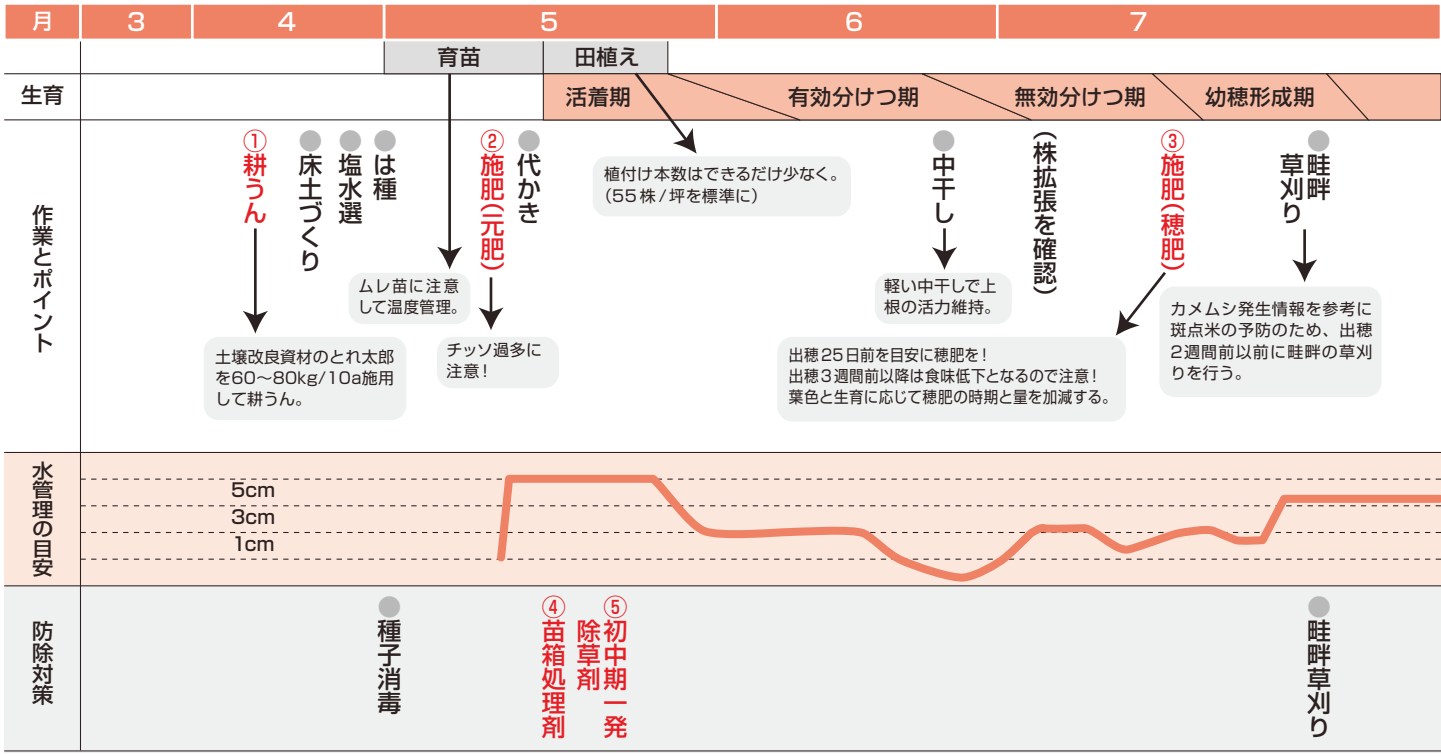
農薬名＼項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
ジェイソウル 1キロ粒剤	1kg 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ（2.5葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ミズガヤツリ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ（2葉期まで）、セリ（再生始期まで） 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離（発生前）	湛水散布または無人航空機による散布 ※移植時は田植同時散布機で施用
エンペラージャンボ	小包装（パック） 10個（500g） 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ（3葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ（3葉期まで）、ミズガヤツリ（5葉期まで）、セリ（再生始期まで） 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離（発生前）	水深を5cm以上にして水田にパックのまま投げ入れる。 ※移植時は田植同時散布機で施用
バッチリフロアブル	500ml 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ（2.5葉期まで）、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ（2葉期まで）、クログワイ（発生始期まで） 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離（発生前）	原液湛水散布または水口施用 ※移植時は田植同時散布機で施用

初期除草剤（雑草が特に多い場合は、中後期除草剤との体系処理も検討してください）

農薬名＼項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
シング乳剤	500ml又は 300ml〔少量散布〕 本剤のみ	①代かき時～移植7日前まで（500ml） ②代かき時～移植7日前と田植直後～移植後30日まで（300ml） 〈田植後に使用する除草剤との体系で使用〉 〔1年生雑草〕ノビエ（1葉期まで）、その他水田1年生雑草	原液湛水散布

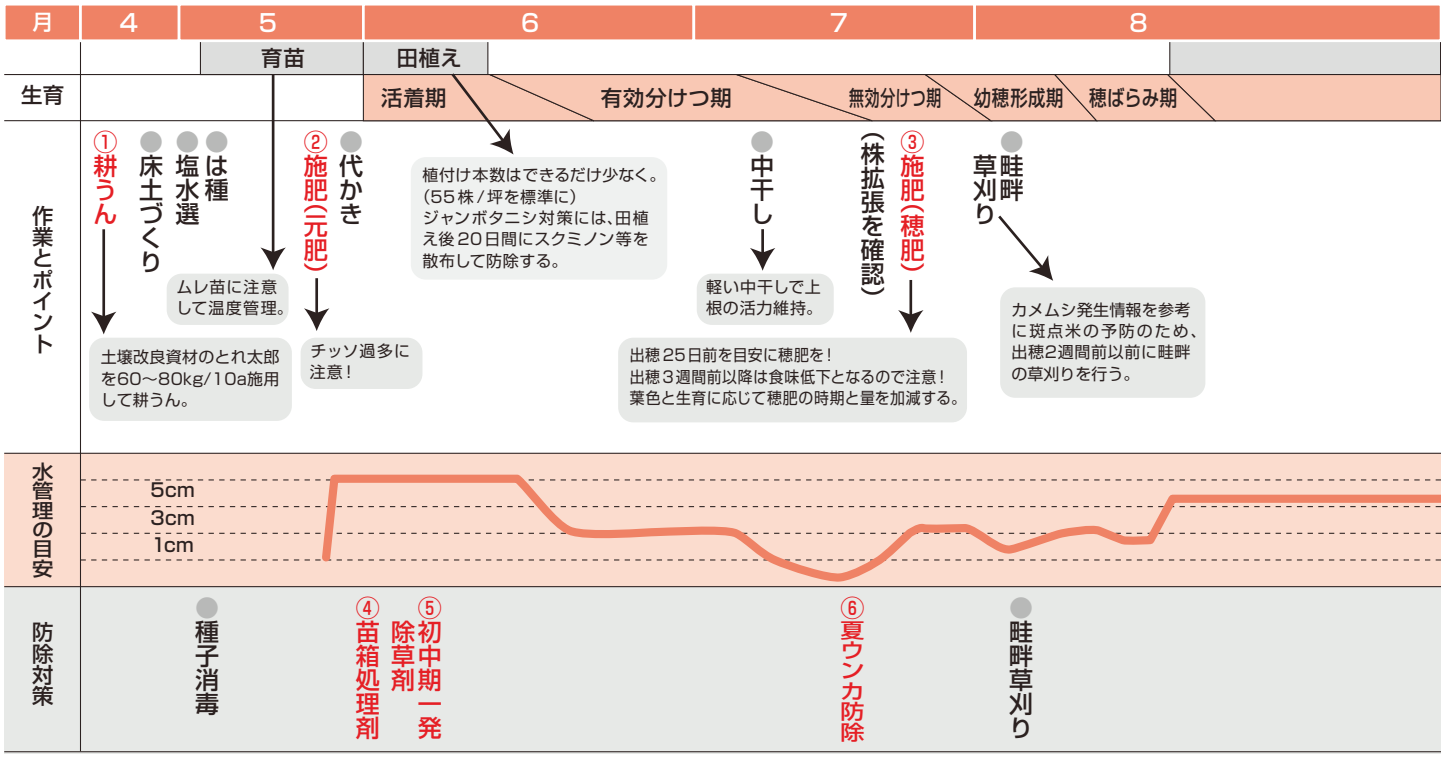
水稲・きぬむすめ（中山間部）

施肥事例はヒノヒカリに準ずる。
病害虫防除例・除草剤施用例はキヌヒカリに準ずる。



水稲・きぬむすめ（平坦部）

施肥事例・病害虫防除例・除草剤施用例はヒノヒカリに準ずる。



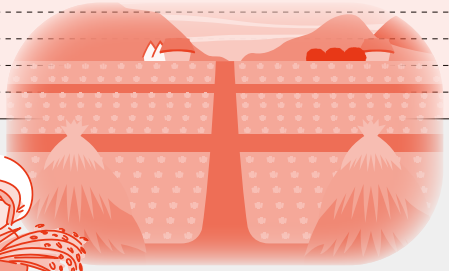
8 | 9 | 10 | 11 | 12

出穂 | 収穫

穂ばらみ期 | 開花期 | 登熟期

- 間断かん水
- 収穫乾燥調整機械の点検整備
- 落水 → 収穫1週間前まで土壌水分を保つ。
- 刈り遅れに注意
- ①土づくり → わらのすき込み等土づくり。
- 耕起 → ウリカワ・クログワイ対策にもなる。







- ⑥穂いもち病の予防
- ⑥内穎褐変病の予防
- ⑦斑点米カメムシ類防除
- ウンカ類の防除

9 | 10 | 11 | 12

出穂 | 収穫

開花期 | 登熟期

- 間断かん水
- 収穫乾燥調整機械の点検整備
- 落水 → 収穫1週間前まで土壌水分を保つ。
- ①土づくり → わらのすき込み等土づくり。
- 耕起 → ウリカワ・クログワイ対策にもなる。

- ⑥ウンカ類の防除
- 内穎褐変病の予防
- ⑦斑点米カメムシ類防除

Ⅳ 野　菜

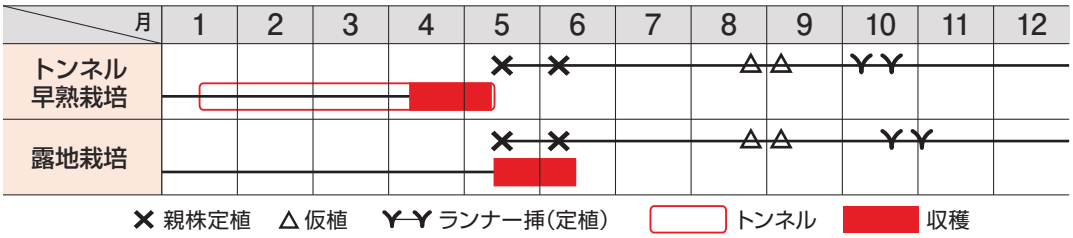
①果菜類

1. いちご

果菜類《バラ科》原産地：北アメリカ

日本へは江戸時代にオランダから伝わった。
子どもからお年寄りまで人気。ビタミンCに富み、
香気・甘味・酸味の三拍子がそろう。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 苗づくりから栽培する場合は、本ぽ1アール(100㎡)で、イチゴ苗を約600株作付ける。そのためには、親株床が20㎡で親株を20株用意する。仮植床も20㎡必要。
- 花芽は低温・短日条件になる秋に分化する。冬には休眠して生長を停止して、一定の低温期間を経ると休眠から覚め、生長し始める。
- 寒さに強いが、開花中の花は0℃になると寒害をうけて枯死してしまう。
- 根は肥やけを起しやすいので、有機質肥料を中心に施肥する。

成功のポイント!

葉がしっかりして色つやがよく、根がよく張った苗を、浅く植える。決して深く植え付けないこと。

作り方

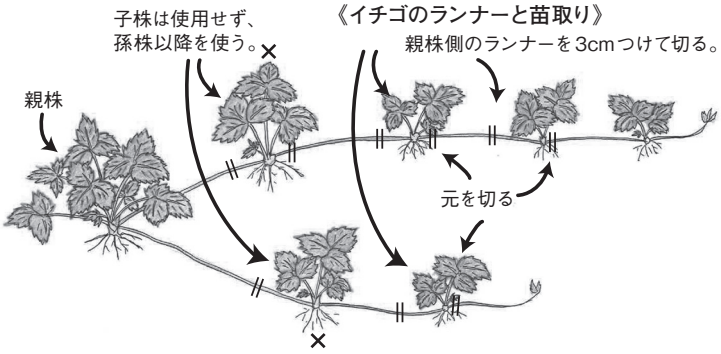
親株の植えつけ《5月下旬～6月上旬》

- 苗　選　び：親株は無病の生育の良い株を選び、1株当たり30～40株を目標に子苗を作る。
- 親株床準備：うね幅2m、株間50cm。親株定植の2週間前に、20㎡当たり菜種油粕2kgを施用。(なるべくイチゴを栽培したことのない排水の良い畑を選ぶ。)
- 植え付け：クラウンが隠れない程度の浅植えにする。
- か　ん　水：植え付け後は十分かん水をする。親株床が乾燥すると、ランナー(子づる)の発生が悪くなる。
- 追　　肥：追肥は液肥2号200gを500倍で6～7月に2回散布する。
- 子苗の発生：7月下旬以降に発生した強いランナーを、混み合わないように誘引し、子苗を発生させる。

育　苗

●仮 植 時 期：8月末～9月上旬に、うね幅150cmで株間15cm×条間15cmで4条に仮植する。この時、深植えは禁物。

●苗の大きさ：展開葉が3～4枚の苗（子苗をランナーから切り取るとき、親株側からのランナーを約3cmつけて切り取る）



●日　覆　い：活着するまでは、黒寒冷紗でトンネル被覆し、朝夕十分かん水する。

●施　　肥：活着後、条間に「いちご有機666」を2kg（20㎡あたり）施用する。

●下 葉 か き：新葉の展開が旺盛になったら、古い葉はかき取る。

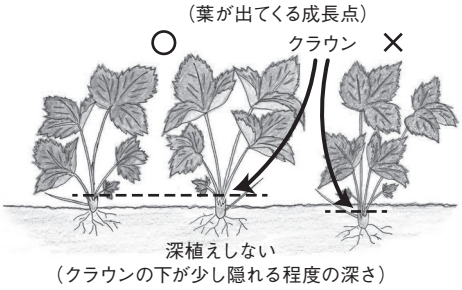
本　ぽ

●定 植 時 期：10月中旬～下旬（定植後は十分にかん水し、活着を促す。）

●苗の大きさ：本葉6～7枚の苗

●うね幅×株間：120cm×30cm
2条千鳥植え

●植え付け方：いちごは、親株から出たランナーが伸びる方向に花が咲き、実がなる性質があるため、約3cm残したランナー側をうねの内側に向けて植えると、花房が通路側に出る。クラウンが隠れない程度の浅植えとする。



●施　肥　例　（1アールあたり）

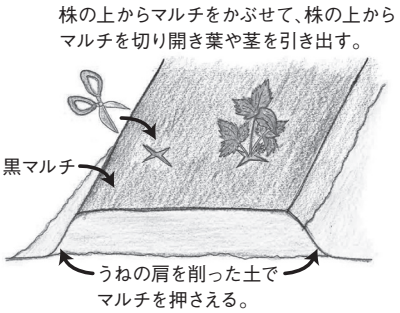
元　肥		追　肥　いちご有機666
◎堆　　肥	200kg	◎第1回目：8kg
◎苦土石灰：	10kg	（定植半月後に条間に溝を切り施用する）
◎いちご有機666：	8kg	◎第2回目：4kg
◎ようりん：	3kg	（1月上旬頃）

成功のポイント！

イチゴの根は肥焼けしやすいので、元肥は植えつけの半月以上前に施し、15cmくらいの深さにすき込んでおく。

●葉　か　き：日当たりと風通しをよくするため、枯れ葉、古葉をとる。

●ポリマルチ：1月下旬に、降雨後の土が十分湿った時に、黒色ポリでうねを被覆する。（乾燥を防ぎ、生育が早まり収量が多くなる。）



2. オクラ

果菜類《アオイ科》原産地：東北アフリカ

日本では初めは観賞用として栽培。
刻んだ時にぬめぬめした粘り気が出るが、この粘り気の正体は
食物繊維で、コレステロールを減らす効果をもっている。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
移植栽培				●—	×—		■	■				
直まき栽培				●—	●—		■	■				

●— 播種　× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

●種皮がかたく吸水しにくいうえ、発芽適温が高いので、早まきは避ける。早まきや早植えをする場合はトンネルなどでの保温が必要。

●少々畝が乾いても葉がしおれないので、水不足に気づかないことがある。肥料不足と乾燥は、生長が悪くなり、品質の低下を招くので注意する。

●葉が大きいので株間を広くしがちだが、密植にして増収を図る。

作　り　方

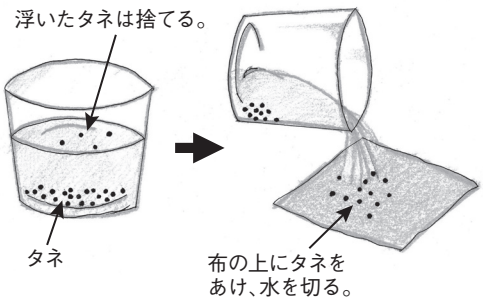
●畑の準備：うね幅100cm、株間30cm、1アールあたり約320株

●施　肥　例　（1アールあたり）

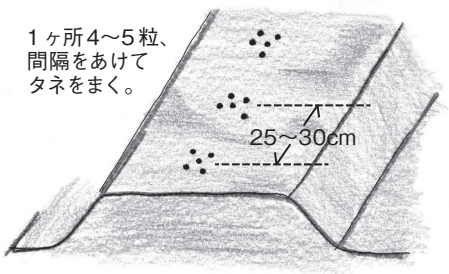
元　肥

◎堆　　肥　　：200kg
◎苦土石灰　　：　8kg
◎ようりん　　：　2kg
◎大阪北部エコ有機3号：　15kg

●種の準備：種の皮が硬いので、種は一昼夜水につけてからまく。浮いた種は捨てる。



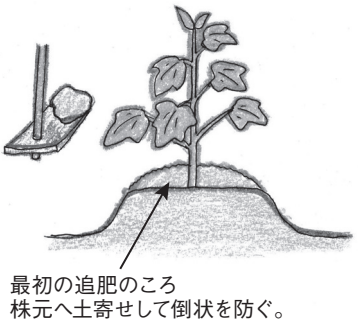
●種　ま　き：早くまきすぎると低温で芽が出ず、種が腐ったり、初期の生育が悪くなったりする。一般には４月下旬～５月上旬に種をまく。
１か所に４、５粒まき、1cmの厚さに土をかける。

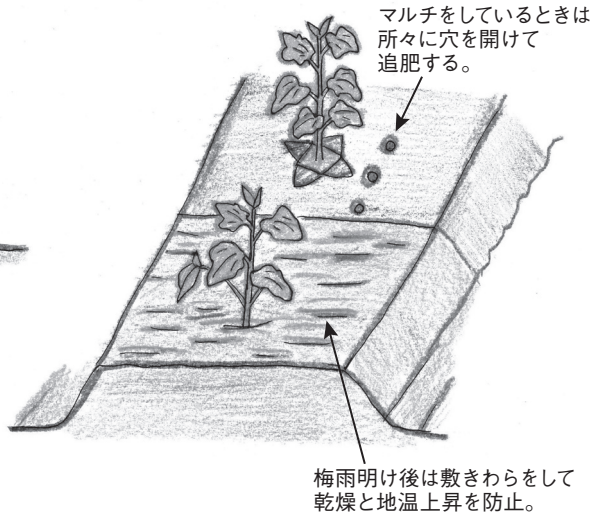


●間　引　き：本葉が2枚のころ、1カ所2株に間引く。間引く株は地際からハサミで切り取り、残す株の根を傷めないようにする。

●追　　肥：生育初期から茂り過ぎないようにするため、追肥は1番果を収穫するころから15～20日間隔を目安に大阪北部エコ有機3号3kg（1アールあたり）施す。

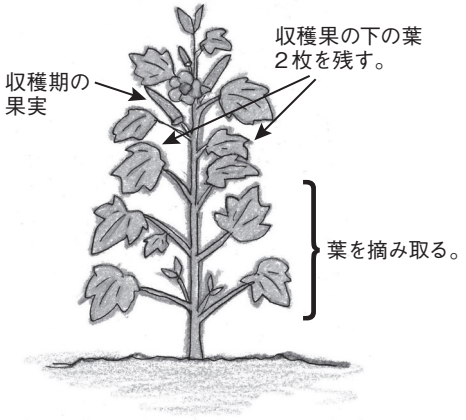
●わき芽かき・摘葉：株元からわき芽が出てきたときは、主枝の生長を妨げないように早めに摘み取る。また、収穫が進んできたら、不要な下葉を摘み取って株元の風通しを良くする。





●土寄せ・敷きわら：梅雨明け後には畝の乾燥を防ぐため、わらや枯れ草を畝全体に敷いておく。

●収　　穫：さやの長さは五角オクラが7～8cm、丸オクラが15cm程度。収穫が遅れると硬くなるので注意する。

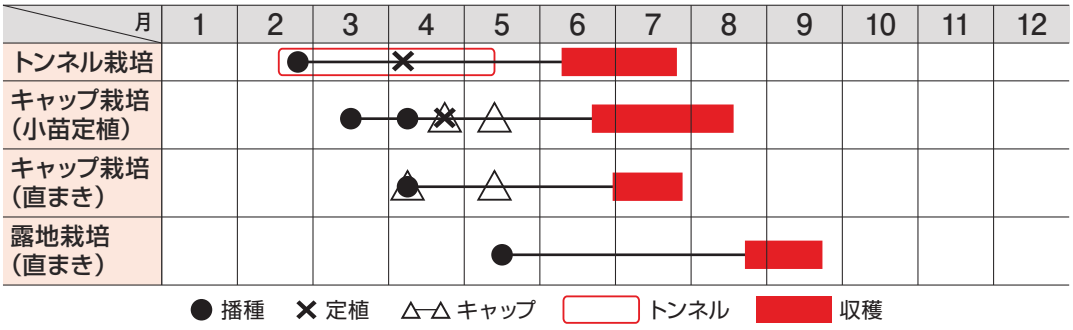


3. かぼちゃ

果菜類《ウリ科》原産地：アメリカ大陸、熱帯アジア

室温での長期保存ができ、
粘膜を丈夫にするカロテンや、抵抗力をつけるビタミンが含まれ、
風邪にも強くなる栄養豊かな野菜。

栽培カレンダー



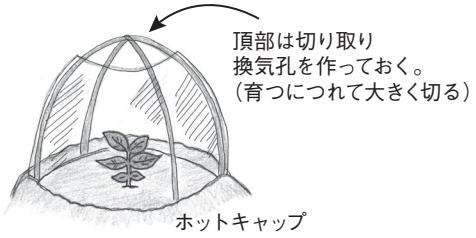
栽培のポイント

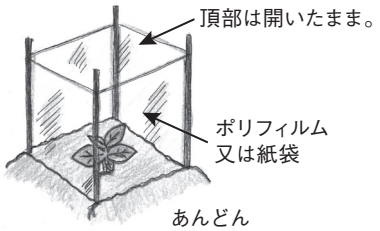
- 土壌病害や連作に強く、育てやすい。しかし、茎葉に発生する疫病に弱いため、畑の排水を良くする。
- つるがよく伸びるので、生育前半の整枝や誘引をていねいにする。
- 確実に実をつけるために、朝早く雌花の柱頭に雄花の花粉をつけてやる。
- 元肥が多過ぎると「つるぼけ」状態となり、果実のつきが悪くなる。着果後は、追肥をして肥料不足にならないようにする。

作り方

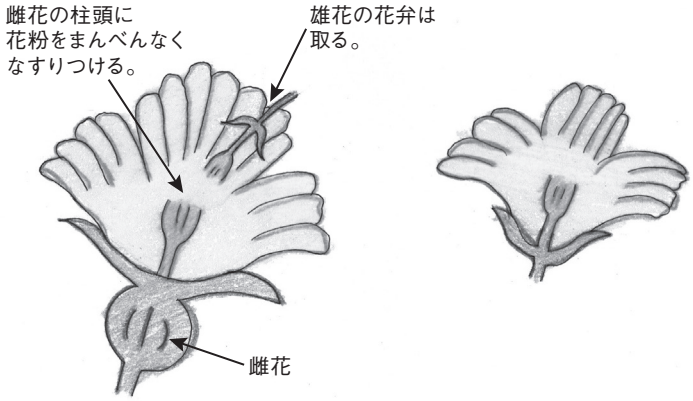
- 育苗管理：普通は移植栽培を行う。しかし、4月以前に種をまく場合は、ビニールトンネル内で育苗する。晩霜の心配がなくなれば直まきも可能である。
  育苗期間は、ポット育苗の場合で通常１ヶ月程度かかる。
- は種準備：1アールあたり0.3～0.4dlの種子を準備する。無病の土と完熟堆肥を混ぜてトロ箱や12cmポットに詰めた後、ビニール被覆して地温を高める。トロ箱の場合は条まきとし、12cmポットでは1粒ずつ種をまき2cm程度の覆土をする。育苗場所は、日当たりの良い場所を選ぶ。
- は種後の管理：発芽後は徒長を防ぐため、かん水は少なくする。
  発芽までの温度は25～28℃と高いが、発芽後は徐々に温度を下げて、日中22℃、夜間10～20℃を目安に管理する。
- 畑の準備：植付け1ヶ月前に、1アールあたり完熟堆肥200kg、苦土石灰10kgを入れて耕うんし、幅3mの広いうねをつくる。植付け10日前に、元肥としてうねの中央1m幅に、大阪北部エコ有機3号を15kg施用し、混ぜておく。

●定　　植：本葉3～4枚頃が適期である。株間100cm程度とし、定植後は十分にかん水して敷きわらをする。晩霜の心配がなくなるまで、キャップかあんどんで霜除けをする。





●摘心、整枝：本葉4～5枚の頃に親づるを摘心し、子づるは2～3本仕立てとする。
●人工受粉：着果を安定させるため、朝10時頃までに人工受粉をする。



人工授粉

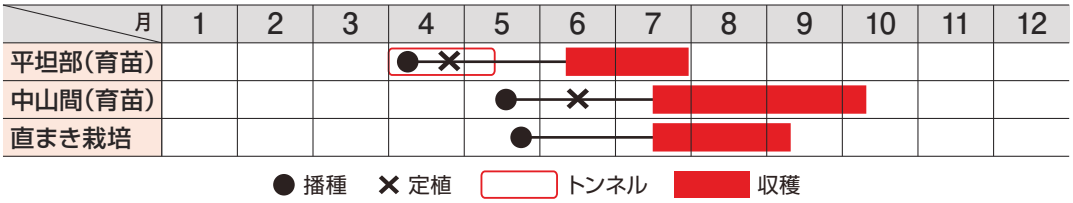
●摘　　果：10～13節に着果させてそれまでの1番花、2番花は取る。
●玉　直　し：収穫10日前に果実全面が着色するよう、果実の向きを変える。
●追　　肥：中耕をかねて追肥する。果実がにぎりこぶし大の時が適期で、1アールあたり大阪北部エコ有機3号を5kg施す。
●収　　穫：開花後45～50日たって、果梗がコルク化して、果実に爪がさしにくいほどに硬くなったときを見計らって収穫する。収穫が遅れると味が落ちる。

4. きゅうり

果菜類《ウリ科》原産地：インド

みずみずしく、パリパリした歯ざわりの夏野菜。
生で食べると熱を冷まし、
煮て食べると利尿効果もある野菜。

栽培カレンダー



栽培のポイント

●生育適温は15～30℃で、平坦部では５月上旬以降になる。それより早く種をまく場合は、ビニールでトンネル被覆する。
●風が当たると茎や葉が折れやすいので、支柱を立てて誘引する。
●梅雨明けは乾燥で弱りやすいため、十分かん水する。

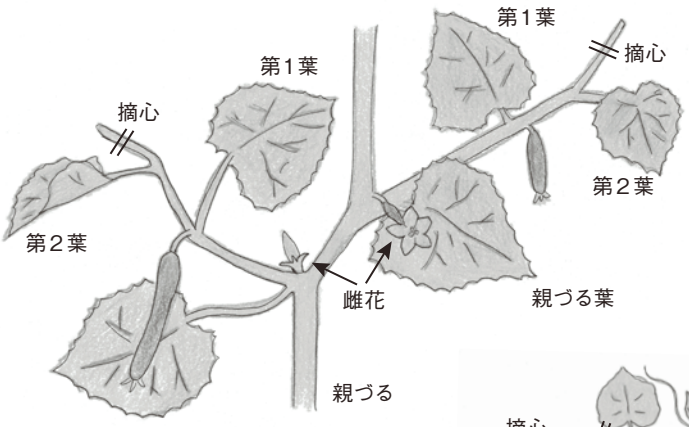
品　種

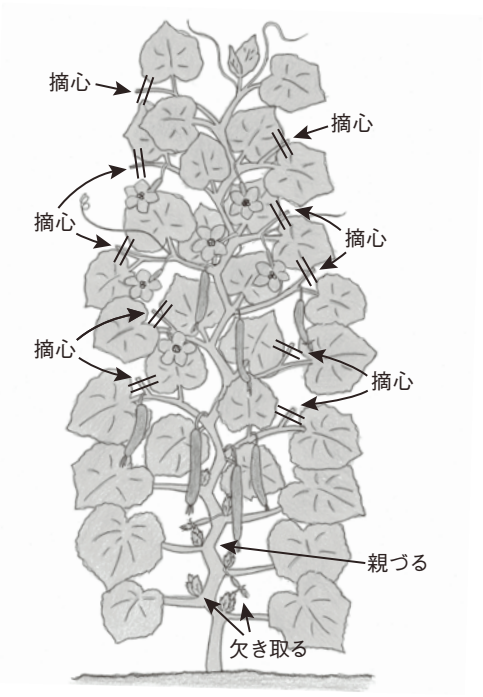
●夏すずみ、Ｖアーチ等の白いぼ品種。シャキット等の四葉系。フリーダム等のいぼなし品種。大阪府原産の毛馬きゅうりは、半白の黒いぼきゅうり。
●台木は、きらめき、鉄かぶと等の台木用のかぼちゃ等に接ぐ。

作　り　方

●は　　種：移植、直まきでも栽培は可能だが、連作などで、つる割れ病の発生する畑では、接ぎ木苗を使う。
移植する場合は、9cmポットに種を２～３粒まき、夜温15℃以上、幼苗期は18℃以上になるようにビニールトンネルで被覆する。発芽するまでは密閉し、発芽したら30℃以上にならないように換気する。本葉３～４枚の苗にする。
直まきする場合は、１アールあたり0.2dlの種子を準備する。（１カ所に、２粒ずつ点まきし、覆土し、本葉展開時に１本に間引く。）
●畑の準備：1アールあたり完熟堆肥200kg、苦土石灰10kgを施用して耕し、うね肩幅90cmで幅180cmのうねを立てておく(通路は広めにとる)。元肥としてうねに大阪北部エコ有機3号を30kg施用し混ぜておく。
●定　　植：本葉3.5枚程度が定植時期。株間60cmで2条に、鉢から苗を抜き取り、根鉢をくずさないように植える。定植後は株のまわりに十分にかん水する。
●土壌被覆：定植後、地温の上昇、土壌の乾燥と病害虫の発生を防ぐため、黒マルチや稲わらでうね面を被覆する。またウィルス病予防のため、シルバーマルチで被覆しても良い。

● 誘引・摘葉・摘心：180cmの高さに支柱を立て誘引するか、キュウリネットを張る。5節以下の側枝（子づる）は全て取り、主枝（親づる）は手の届く高さで摘心する。
側枝は1～2果着果させ、その先は2節で摘心する。茎が太くなってから摘心すると、草勢が弱るので遅れないようにする。
病気の発生している下葉や老化葉を取り除き、採光・通風を良くする。中位節の側枝を発生させるため、上位節が混み合って大きな葉が出てきたら摘葉し、日当たりを良くする。





● 追　　肥：月1回程度、1アールあたり大阪北部エコ有機3号を10kgずつ、根傷みを防ぐため株元から離して施用する。

● 収　　穫：収穫が遅れると、草勢が弱るので取り忘れないようにする。草勢が弱ったときは、早取りして負担を軽くする。

5. すいか

果菜類《ウリ科》原産地：南アフリカ

果糖やブドウ糖を多く含み、
夏の炎暑で疲れた身体を癒してくれる。「日本の夏の風物詩」、
「夏の果物の王様」とも呼ばれる果実的野菜。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
キャップ栽培			●	✕	△		■	■				
露地栽培（購入苗利用）					✕			■				

● 播種　△–△ キャップ　✕ 定植　■ 収穫

栽培のポイント

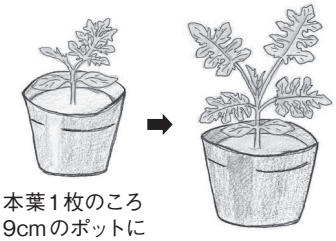
- 生育適温が夜間15℃以上、昼間28～30℃と高いので、日当たりのよい場所を選ぶ。また高うねにして、過湿を防ぐ。
- 連作すると、つる割病が出やすいので、4～5年以上の輪作を守る。
- ユウガオ台などに接ぎ木すると病気に強くなり、連作も可能。
- 深植えをしないこと。とくに接ぎ木苗は、接合部がなるべく地面より高くなるように。
- 着果後に追肥を行って、果実を肥らせる。

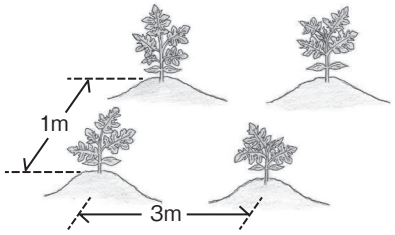
成功のポイント！

元肥で、チッ素成分が効きすぎるとつるぼけして、着果が悪くなるので、緩効性の配合肥料を控えめに施す。

作り方

- は　　種：3月下旬～4月上旬に、12時間水に浸けた種を、トロ箱に3～4cm間隔に置き、厚さ1cmの覆土をする。その上に濡らした新聞紙をかぶせ乾燥を防ぐ。
  発芽適温が25～28℃なので、温床を作り育苗する。
- 育　　苗：本葉1枚頃に9cmポットに移植する。育苗中は、苗を徒長させないように、かん水を減らす。十分に光を当てて、葉が重ならないようにポットを広げる。育苗後半は、定植後の活着がスムーズになるように徐々に温度を下げる。
- 定植準備：うね幅3m、株間1mに植付けるため、定植2週間前に、直径40cm、深さ30cmの穴を掘り、元肥を入れ埋め戻して土を盛っておく。定植3～4日前に十分かん水してから、保温のためマルチやキャップをしておく。



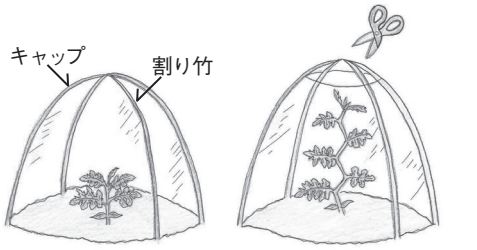


●定　　植：本葉5枚で育苗約30日頃が適期で、晴れた暖かい日に、深植えにならないように定植する。大きくなった苗は、定植3～4日前に本葉4～5枚を残して、親づるを摘心しておく。

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥（定植２週間前）

◎堆　　肥　　：200kg
◎苦土石灰　　：　5kg
◎大阪北部エコ有機３号：　15kg
◎ようりん　　：　3kg



大きくなればテントの頂部を切り取り換気する。

追　肥

◎1番果の着果を確認してから、2回に分けて施す。すいかの根はつるが伸びている所まで伸びているので、追肥は株元を避け、つるの先端に施す。

◎第１回目：大阪北部エコ有機３号5kg
◎第２回目：大阪北部エコ有機３号5kg
（果実がこぶし大になった頃）

誘引と整枝



●摘心・整枝：数本の子づるが出て、30～40cmに伸びた頃、揃った子づるを3～4本残し、他は取り除く。敷きわらをして、その上に子づるを広げる。

●着果・摘果：子づるの16～20節に着果させる。15節までに着果したものは「す入り果」になりやすいため、変形果とともに摘果し、1株で3～4着果させる。

●人 工 受 粉：曇天や雨天の日に雌花が開花した時は、朝早めに必ず受粉作業をおこなう。

●玉　直　し：果径が15cmぐらいの時に、果実全面が着色するよう果実前後のつるを持ち上げて果実の向きを変える。

●収　　穫：大玉は開花後45～50日、小玉は35～40日で収穫できる。

6. ズッキーニ

果菜類《ウリ科》原産地：北米大陸

生食には不向きで熱を加えて調理するのが基本。
ビタミン類やカロチンが豊富。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培			●	●✕	✕	■	■	■				

● 育苗　✕ 定植　■ 収穫

栽培のポイント

- 生育適温は18～25℃で高温をきらう。
- 葉が大きく葉柄が長いので、強風や台風により株や果実の損傷が大きくなる。
- 単一品種のみでは交配用の雄花が足りなくなる場合があるので、雄花の多い品種を1～2割混植すると着果率を高めることができる。

品　種

- 主に栽培されている円筒形（長棍棒状）の品種は緑色系統がほとんどで、黄色系統が一部ある。
- 緑色系統の主要品種は“ダイナー”、“ラベン”、“ベルナ”などがあり、黄色系統では“オーラム”などがある。

作　り　方

- 育苗管理：9cmポットに4～5粒まいて土をかぶせ、手で軽く押さえて水やりする。本葉1～2枚の時に2本に間引きし、本葉2～3枚で1本立ちにする。
- 畑の準備：うね幅150～200cmで高うねにする。株間60cmの1条植え。うねの片側の端に植えて，反対側の端の方向につるを誘引する。
- 施肥例　（1アールあたり）

元　肥		追　肥
◎堆　　肥	：200kg	大阪北部エコ有機３号
◎苦土石灰	：　10kg	◎1番果の肥大期から1回あたり
◎大阪北部エコ有機3号	：　20kg	4kgを２週間ごとに施用する。

- 交　　配：雌雄異花のため、人工交配が必要である。交配作業は朝9時ごろまでに終了させる。定植後20～30日すると雌花の開花が始まるので、雄花を確保するために、直まきでは播種時期を一部早めたり、ポット育苗ではポットのままで苗をおいておくことで雄花を先に開花させることができるため、苗を余分に仕立てておく。
- 整　　枝：子づるはほとんど発生しないため，特に整枝の必要はない。古くなった下葉や病気に侵された葉は葉柄の根元から取り除き、風通しをよくする。
- 収　　穫：果長20cm程度になったら収穫する。キュウリと同様に、果実の肥大が早いので穫り遅れないよう毎日収穫を行う。

7. とうもろこし（スイートコーン）

果菜類《イネ科》原産地：メキシコからアメリカ北部

もぎたての味が最高で、鮮度が命。
夏の家庭菜園の人気者。ビタミンB_1 B_2、リノール酸が豊富で、
ゆでてよし、焼いてよし。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培（育　苗）			●	●	×		■					
露地栽培（直まき）					●			■				

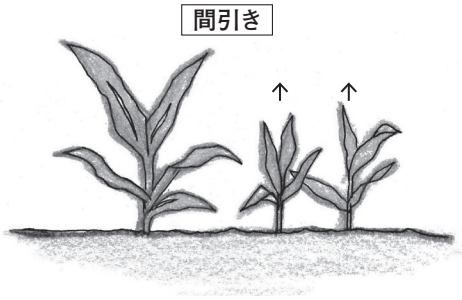
● 播種　× 定植　□ トンネル　■ 収穫

栽培のポイント

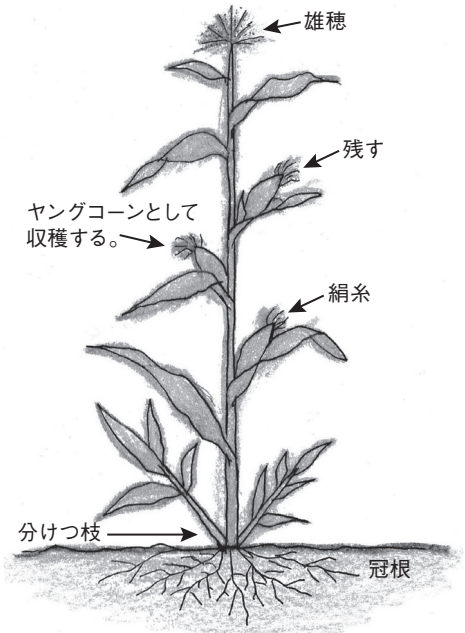
- 日当たりの良い所が適している。根は病害虫に強いので、畑の輪作作物として好適。
- 受粉のため、ある程度まとまった面積で密植した方が粒の付きが良い。
- しかし、違う品種を近くに植えると、他品種の花粉を受粉して品質が低下する。
- アワノメイガの対策には、雄穂が出る前後一週間に殺虫剤を散布する。

作　り　方

- 施　　肥：は種1週間前に、1アールあたり完熟堆肥200kg、苦土石灰10kgを全面に散布しておく。元肥として大阪北部エコ有機3号を20kg全面に散布して、すき込む。うね幅150cm程度とし、雑草対策のため黒マルチをする。
- は　　種：マルチに穴を開け、株間30cm、2条まきで、1か所に3粒ずつまく。
- か　ん　水：発芽までは十分かん水する。その後は乾いたらかん水する程度。しかし、絹糸が出る2週間前から収穫までは、水が必要で乾燥しすぎないように注意する。
- 間　引　き：本葉3～5枚の頃に生育の良い株を残し、他はナイフで根元から切り取る。



- 無除けつ栽培：株元から小さな茎が分けつするが、取らずにそのままにする。
- 収　　穫：収穫適期は3～4日と短い。
  収穫適期は、絹糸が出始めてから20日過ぎで絹糸が黒褐色に変わった頃に先端をむいて、粒を確認



雌穂の残し方

8. トマト

果菜類《ナス科》原産地：南米アンデス山地

ビタミンCに加え、カロテンも豊富。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平坦部		●	―	✕	―	―	■	■				
中山間部			●	―	―	✕	―	■	■			

● 播種　✕ 定植　□ トンネル　■ 収穫

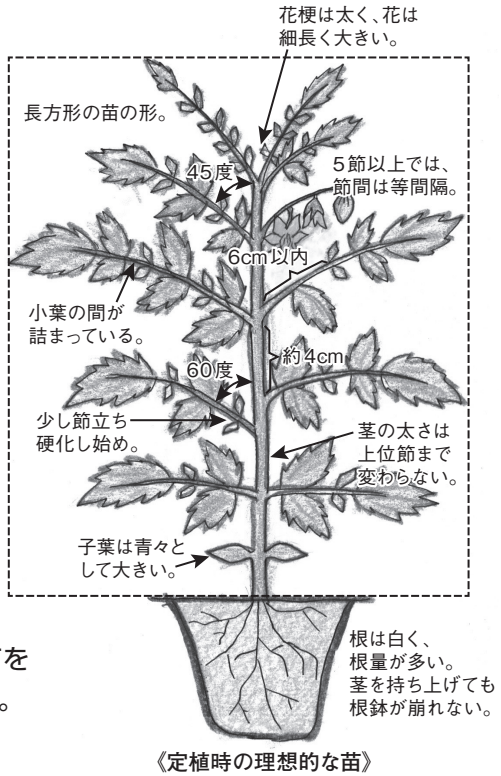
栽培のポイント

- 生育期の昼温が高すぎると、花粉の機能が低下して着果不良となる。
- 肥料の効きすぎは落花の原因となるので、元肥のチッソを控え草勢を抑える。
- 1段目花房の1～2花が咲き始める頃定植する。若苗を植えると、早くから肥料や水を自由に吸って、草勢が強くなりすぎて、実どまりや果形が悪くなりやすい。
- 着果を安定させ草勢を落ち着かせるため、1～3段花房のホルモン処理を行う。
- ウイルス病予防のため、アブラムシを早期防除する。

作　り　方

育苗管理

- 種　ま　き：128穴のセルトレイに種子をまく。は種する時期が低温のため、温床や暖かい所で発芽させる。地温を日中28～30℃、夜間23℃に設定し、湿度を保つと4～5日で発芽する。施設がない場合は、彼岸を過ぎて暖かくなってから種まきをした方が良い。
- 発芽後の管理：発芽後は、徒長を防ぐため最低夜温を15℃にする。さらに移植まで徐々に下げて、丈夫な苗に育てる。
- 移　　植：本葉2.5枚、種まき後25日位で、15cmポットに移植する。根付くまでは夜温を14℃まで上げるが、その後は徐々に下げて本葉5枚からは8～10℃を最低夜温の目処に、徒長を防ぐ。
- 本ぽの準備：定植の1週間ほど前に、堆肥や元肥を施用して耕うん・うね立てをして、マルチで地温を上げておく。



《定植時の理想的な苗》

本ぽの管理

●定　　植：うね幅150cmのうねを立て、株間40cmで2条植えにする。
（植付け本数は、約330株）

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥		追　肥
◎堆　　肥	:300kg	◎大阪北部エコ有機3号:5kg／回
◎苦土石灰	: 15kg	
◎ようりん	: 6kg	
◎大阪北部エコ有機3号	: 15kg	

第1回目の追肥は、第3花房の開花が始まった頃に、その後は20日おきに施用する。但し、草勢が強く生長点付近の茎が太い場合は、追肥を少し遅らせたり施肥量を減らす。

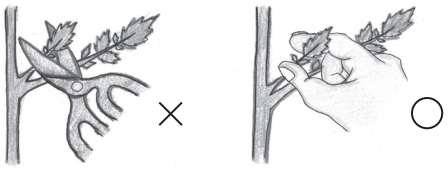
●整枝と誘引：わき芽は全て摘み取り、主枝1本に仕立てる。花房が支柱の反対側になるように誘引する。最終収穫予定花房の上の葉、2～3葉を残して摘心する。

●ホルモン処理（着果増進）：トマトトーンを低温時（20℃以下）50倍、高温時100倍に希釈し、霧吹きで各花房が3～5開花した頃に花房を手でつまみ、芽や幼葉にかからないように花が濡れる程度に噴霧する。

●摘　　果：果径が2cmの頃、1花房に3～5果になるように摘果（変形果は出来るだけ取る）。果実が500玉～ゴルフボール大の時に摘果する。1、2段は3果、それ以降は4果が基本。

●摘芽・摘葉：わき芽は早めに摘み取る。特に花房直下のわき芽は強いので摘み遅れないようにする。但し草勢が強い場合は、摘芽を遅らせて草勢を落ち着かせる。通風を良くし病害の発生を抑えるため、収穫した果房の下葉は、少しずつ摘む。

摘　芽



はさみで切るとウイルス病が伝染する恐れがある。

●疫病予防のため、敷きわら・マルチをする。

●ウイルス罹病株の除去：発病株は早めに抜き取り、周囲への伝染を防ぐ。

9. な　す

果菜類《ナス科》原産地：インド東部

漬けて、焼いて、炒めて、煮てよし。
揚げ物、生食にも向く、多くの用途がある野菜。
在来の地方品種が多いのも楽しみ。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル栽培	●	●		×	×							
露地栽培（購入苗利用）					×	×						
露地抑制栽培（購入苗利用）							×					

● 播種　× 定植　□ トンネル　■ 収穫

栽培のポイント

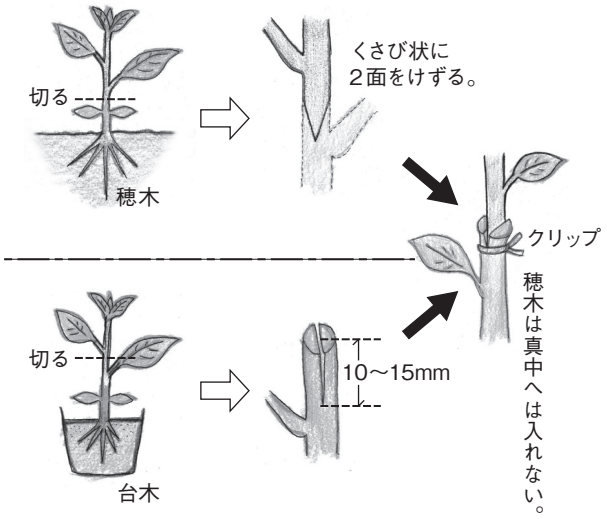
- 生育適温は夜温で15～18℃。10℃以下では生長が著しく悪くなる。昼温は28～30℃でよく育つ。又、乾燥を嫌うので、敷きわらとかん水をする。
- 高温を好むほうなので、早植えは禁物。5月の連休後の方が遅霜の危険が少ない。
- 日照不足は果実の着色不良となるので、込み合った葉を取り除き、果実に光を当てる。
- 肥切れをさせない。又、初期の樹勢を強く育てる。

作　り　方

育　苗

●は　　種：穂木（千両二号など）は、トロ箱などの育苗箱に5cm間隔に条を切り、2cm間隔で種をまく。台木（赤ナスなど）は、穂木より2～5日早めにばらまきし、穂木より少し大きく育てる。それぞれ覆土後、十分かん水する。
台木は、本葉が1～2枚の頃に3号ポットに鉢上げする。

●接　ぎ　木：は種後35日頃（台木は本葉3～4葉、穂木は本葉2.5～3葉）に割り接ぎを図のように行う。



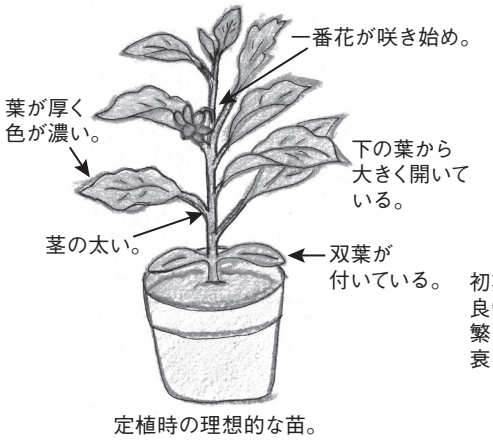
●鉢　上　げ：接ぎ木後1ヶ月頃に、15cmポットに鉢上げし大苗に仕上げる。

定　植

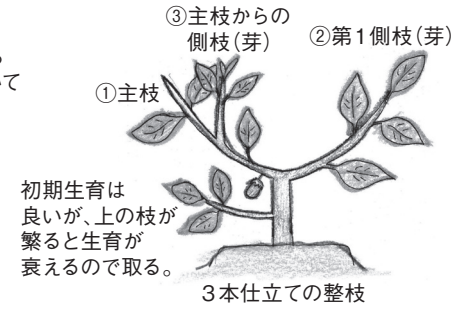
●う　ね　幅：150～180cm
●株　　間：50cm　1条植（130～180株／1アール）
●定　植　苗：1番花が開花直前の苗が良い。（下図参照）
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥		追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎堆　　肥	：200kg	◎1回目（定植後20日頃）：5kg
◎苦土石灰	：　10kg	◎2回目以降（15日おき）：5kg
◎化成肥料14-10-13	：　15kg	

●整　　枝：1番花（果）の着く主枝と、その直下から出る側芽、さらに主枝の1～2番花（果）前後から出ている強い側芽を伸ばして、3本に仕立てる。それより下の芽は早めに摘み取る。



定植時の理想的な苗。



3本仕立ての整枝

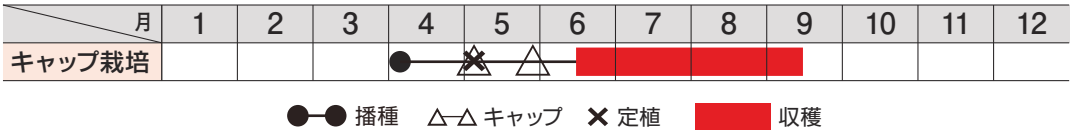
●支柱立て・誘引：栽培期間が長く、草丈も高くなるため、丈夫な支柱を立て、針金を引き、ポリテープで枝をつり上げ誘引する。
●敷わら・かん水：梅雨明け以降は乾燥防止のため、敷きわらとかん水をする。
●ホルモン剤処理：夜温の低い6月中旬までは結果しにくいので散布するほうがよい。
●更 新 剪 定：7月下旬に主枝1／3～1／2で切る。（良質の秋なすが収穫できる）

10. ニガウリ

果菜類《ウリ科》原産地：東インド、熱帯アジア

ニガウリ（ゴーヤ）はグリーンカーテンとしても使われる
人気の野菜。豊富なビタミン・ミネラルに加えて
血糖値や血圧を下げる効果にも注目。

栽培カレンダー



栽培のポイント

●種は発芽しにくいので種の先端を爪切りやペンチなどで傷をつけてからまく。
●開花日からおよそ15～25日経ち、果実の形が完成したら収穫する。

品　種

●短太系：島さんご、太れいし　果長20～25cmと手頃な短太タイプ。
●青長系：さつま大長　果長が約35cmのビッグサイズのニガウリ。
●白　系：白れいし　苦みが少なく食べやすい白皮のれいし。

作　り　方

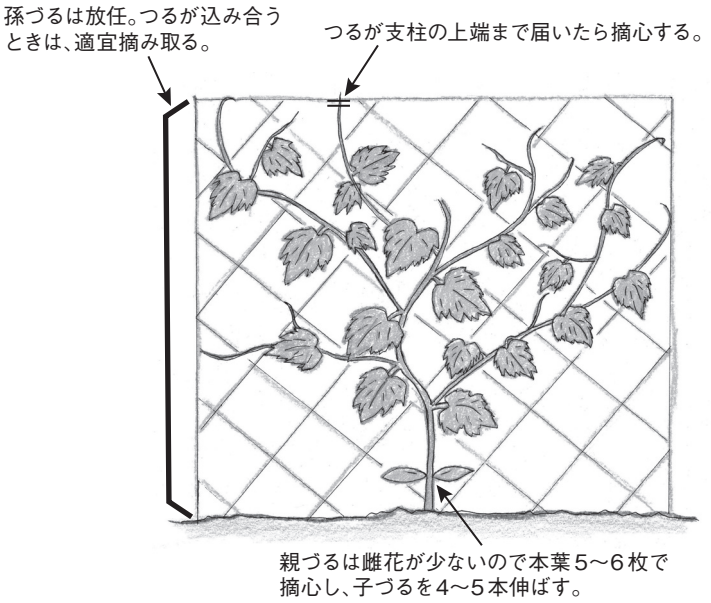
●種　ま　き：発芽が極めて悪いので種の先端に傷をつけてから、ぬるま湯に一昼夜浸しておくと発芽しやすくなる。
●苗　作　り：9cmポットに2、3粒の種をまき、1cmくらい覆土する。早まきではトンネルで保温する。発芽適温は25～28℃で夜は18℃を目安に管理する。苗が徒長しやすいので水のやりすぎに注意して、土の表面が乾いたらたっぷりかん水する。
●畑の準備：うね幅150cm、株間100～150cm
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥　：200kg
◎苦土石灰　：　10kg
◎大阪北部エコ有機3号：　20kg

追　肥　大阪北部エコ有機３号
◎1番果の肥大期から1回あたり4kgを10日～2週間ごとに施用する。

●定　　植：育苗日数約30日、本葉3.5枚程度が定植適期。定植は活着を促すために晴天の午前中に行う。

●支柱立て・整枝：2m程度の支柱を立て、キュウリネットを張ってつたを絡ませる。親づるは本葉5～6枚くらいで摘芯し、子づるを4～5本のばして誘引する。生育が旺盛になると、つるが込みあって着果が悪くなり収穫が減少するので、込みあっているつるを摘みとり、光線の入りを良くする。



●か　ん　水：ニガウリは高温や乾燥に強いが、気温の高い日が続くとしおれて生育不良をおこし果実の肥大が悪くなったり、曲がり果が多くなるので定期的なかん水を行う。

●収　　穫：開花日から15～20日たち、果実の肥大が止まったころが収穫適期。若くても十分利用できるので、果色の緑色または白色が鮮やかなうちに、早めに収穫するようにする。



11. ピーマン

果菜類《ナス科》原産地：熱帯南アメリカ

トウガラシの甘味種で、
ビタミンC、カロテンが豊富。カラフルな品種も加わって、
人気倍増中の野菜。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル栽培		●	―	✕		■	■	■	■			
露地栽培（購入苗利用）				✕	✕	―	■	■	■	■		

● 播種　✕ 定植　□ トンネル　■ 収穫

栽培のポイント

- 適夜温が18～20℃と高く、育苗～定植後にかけて低温にあうと生育が悪くなるので、十分に暖かくなってから植える。
- 枝が細く風に弱い。特に果実が多く着くと枝が折れやすいので、支柱を立て誘引する。
- 果実が一斉に多く着いたときは、思いきって若どりをして、草勢を回復させる。
- 連作を嫌うので、ナス科野菜を作った場所では4～5年は作付けしない。

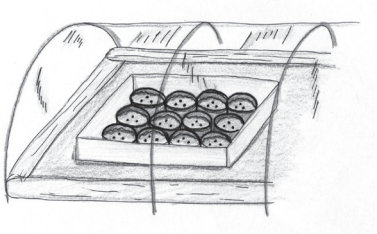
成功のポイント！

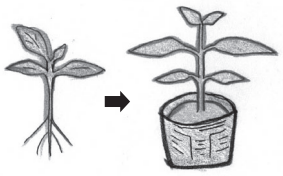
①購入苗は小さく、早く売り出されることが多いので、暖かい場所で大きい鉢で再育苗し、十分に暖かくなってから畑に植える。
②元肥は溝を深く掘って施し、根を深く張らせる。肥料の効きすぎは落花の原因となり、実止まりを悪くするので注意する。

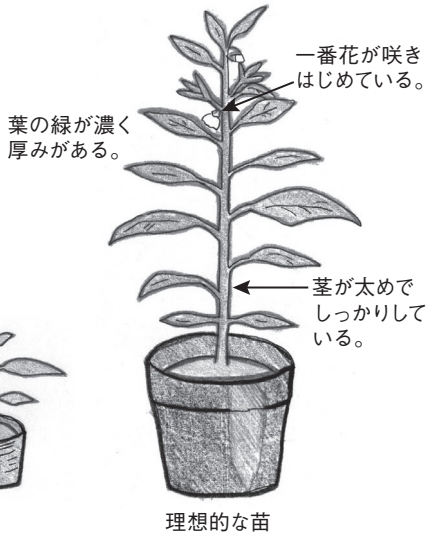
作　り　方

育　苗

- 発芽適温が28～30℃と高いため、種を苗箱に条まきし、温床のあるトンネル内に並べる。本葉1枚の頃に、12cmポットに移植する。
  昼温が35℃以上に上がらないようにトンネル内を換気する。







理想的な苗

畑の準備

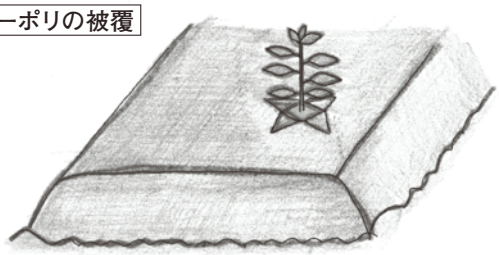
うね幅120～150cm、株間45～50cm、1条植え。十分かん水してからマルチを張り、地温を上げておく。

定植後

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥		追　肥	大阪北部エコ有機3号
◎堆　　肥	：200kg	◎1回目	：1番果着花時 4kg
◎苦土石灰	：　10kg	◎2回目以降	：15日おき　4kg
◎大阪北部エコ有機3号	：　30kg		

シルバーポリの被覆



アブラムシの飛来を防ぎ、ウイルス病の発生を抑える。

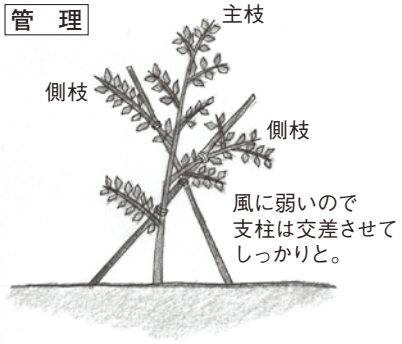
●整　　枝：本葉8枚目頃から出る側枝2本と主枝1本で3本仕立てにする。

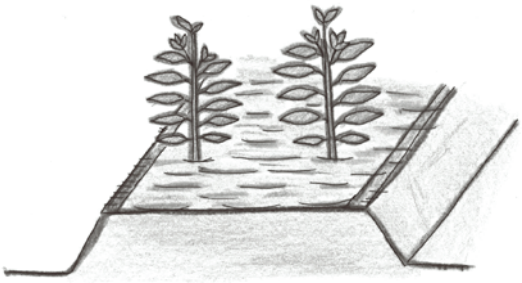
●支 柱 立 て：生育期間が長く、草丈が高くなるので、ポリテープなどで主枝をつり上げ誘引する。

●せ　ん　定：枝や葉が混みあってきたら、枝を間引いて日当たりを良くする。

●敷　わ　ら：乾燥は落花の原因となる。乾燥防止のために梅雨明け後はマルチの上と通路に敷きわらをする。

管　理





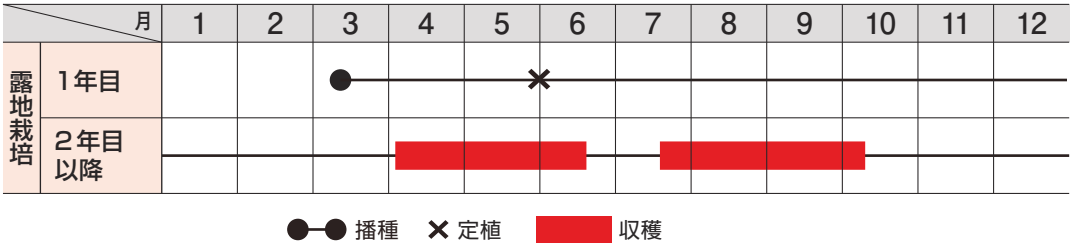
敷わらと梅雨明けからのかん水で、夏の乾燥を防ぐことが大切。

1. アスパラガス

葉茎菜類《キジカクシ科》原産地：南ヨーロッパ

前年に栄養をたくわえた根株から出た若茎を、葉が出る前に食べる。
たんぱく質、糖質、ビタミン各種、食物繊維が多く、
高血圧予防のルチンも含む。

栽培カレンダー



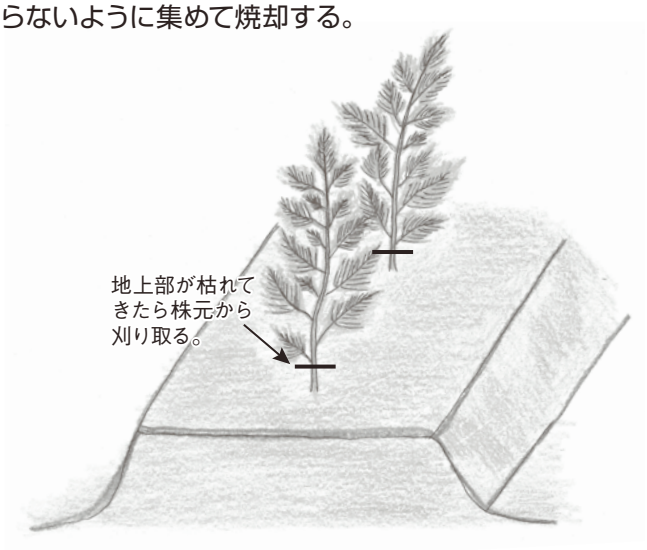
栽培のポイント

●生育適温は15～20℃である。30℃以上では生育が衰え、5℃以下では休眠に入る。
●土壌が乾燥すると生育が衰えるため、土壌はやや多湿状態で管理することが好ましい。
●アスパラガスは雌雄異株で、どちらかといえば雌株より雄株のほうが太くなり、本数も多く収穫できる。

作　り　方

●苗　作　り：発芽しにくいので、種はまく前に1昼夜ぬるま湯につける。育苗は3号ポットに2～3粒まき、十分かん水する。
●畑の準備：丁寧に管理を行えば、10年以上収穫できるので、定植前の土づくりは十分行う。
うね幅120cm、株間40cm
うねの高さ30cm、
1アールあたり約40株
●施　肥　例　（1アールあたり）
元　肥
◎堆　　肥　　：400kg
◎苦土石灰　　：　8kg
◎大阪北部エコ有機3号：　20kg
●マルチ・定植：定植前に地温の確保と雑草対策のために、畝立て後に黒マルチを敷き40cm間隔に直径10cmの穴を開ける。発芽30日後くらいの苗を、株元が1～2cm埋まる程度に植え付ける。植え付け後、十分かん水する。1年目は、株を育てる年なので、収穫せずに全て茎を伸ばすが、8月中旬以降に伸びた茎、細すぎる茎、病気にかかった茎は取り除く。
●支柱立て：育った茎葉が倒れるのを防ぐため、うねの両脇に支柱を立てて、ポリテープや針金を張る。

●冬期の管理：冬になり地上部が枯れてくると株元から茎葉を刈り取り、病原菌の越冬場所にならないように集めて焼却する。

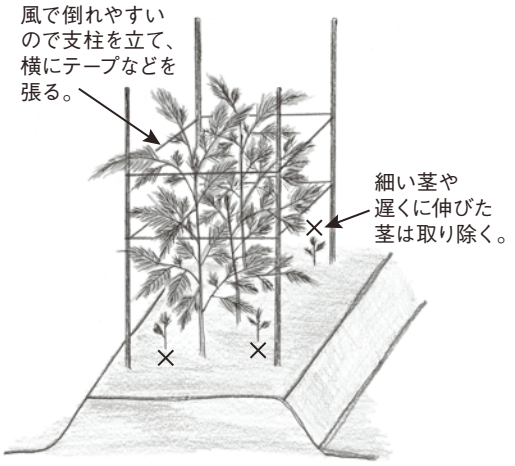


●追　　肥：3回に分けて施す。第1回目は11月頃茎葉を刈り取ったあと（冬肥）、第2回目は6月立茎開始時期（夏肥）、第3回目は8～9月の秋芽が出る前（秋肥）とする。1アールあたり、冬肥が大阪北部エコ有機3号5kg、夏肥が大阪北部エコ有機3号6kg、秋肥が苦土入り化成肥料8-8-8 5kg施す。

●2年目以降の管理：新芽が伸びてくる春までに黒マルチを取り除く。3月に元肥をうね表面に施し、うね間の土と軽く混和する。マルチとして完熟たい肥300kgを施用する。

25cm程度に伸びてきた若茎は地際から刈り取り全て収穫する。

約１ヶ月収穫した後、太さ1cm程度の茎を１株あたり４～６本確保し、残りの若茎は収穫する。下枝を取り除き、風通しと採光をよくする。また葉が完全に展開したら、高さ140cm程度で先端を摘心する。摘心後に発生するわき芽は取り除く。



成功のポイント！

夏場になると茎枯病・斑点病等が発生しやすくなる。特に茎枯病はアスパラガスには致命的な病害なので殺菌剤を定期的に散布して防除する。薬剤防除だけでは茎枯病の被害は十分に防げないので、茎や葉が茂りすぎないよう適時整理を行うなど、総合的に防除しなければならない。

2. エンサイ

葉茎菜類《ヒルガオ科》原産地：熱帯アジア

別名、空芯菜（クウシンサイ）。
サツマイモの葉をやや細長くしたような葉形で、夏の暑さに負けず、
よく育ち、つるを摘んでもすぐ再生する強健野菜。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
直播き					●播種	●播種	収穫	収穫	収穫			

栽培のポイント

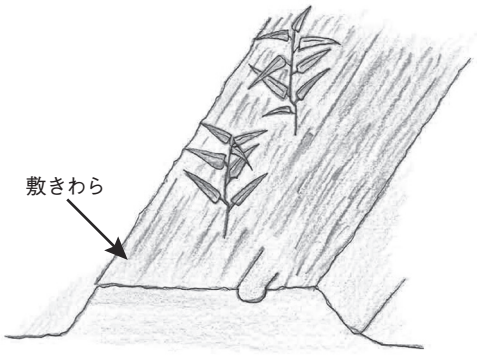
●発芽温度が20～25℃で寒さに弱く、日当たりが良い場所を好む。
●元来、水辺に生育していたため、なるべく湿った場所で栽培すると良い。
●登録農薬がまだ少ないので、ヨトウ類などは初期防除に努める。

作　り　方

●畑の準備：うね幅100cm、株間30cm、1条植え。
●施　肥　例　（1アールあたり）

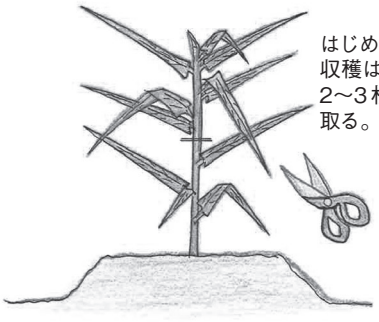
元　肥
◎堆　　肥　　：200kg
◎苦土石灰　　：　10kg
◎大阪北部エコ有機３号：　15kg

●種　ま　き：種子は1昼夜水につけておくと発芽のそろいがよくなる。まき穴1ヶ所に3粒ずつ種まきし、覆土をして十分かん水する。
●間　引　き：種まき7～10日後に1回目の間引きをする。目安としては双葉が展開した頃に生育の良い苗を2本だけを残す。本葉が2～3枚のころ2回目の間引きをして1株にする。
●追　　肥：1回目の追肥は草丈が15～20cmに伸びたころ、1アールあたり大阪北部エコ有機３号を2kg施す。2回目以降は葉色と収穫量を見ながら1回につき、1アールあたり大阪北部エコ有機３号を1kg程度施す。
●その他の管理：乾燥に弱いので株元に敷きわらをし、十分かん水する。整枝は基本的に行わないが、強い枝は芯を止め脇芽を伸ばすようにする。



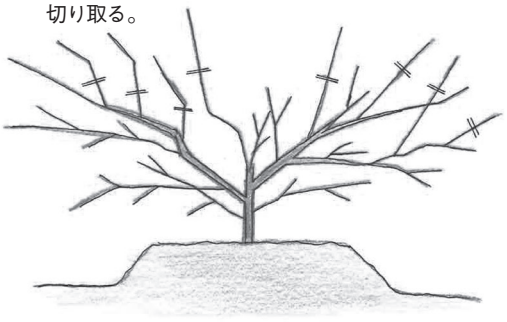
1回目の追肥は草丈が15～20cmに伸びたころ、
浅い溝を掘って施す。株元は敷きわらをして乾燥を防ぐ。

●収　　穫：つる先4～5節くらいを含む若い茎葉を25cm程度に切って収穫する。太い茎は硬く品質が劣るので、茎の細い枝を収穫する。少しあくがあるのでホウレンソウと同様にさっと茹でて油いためやおひたしなど各種料理に利用する。



はじめのころの収穫は根元の葉の2～3枚残して切り取る。

つるが全面にはびこってきてからの収穫は、適宜立ち上がった葉先15cmくらいの長さに切り取る。



成功のポイント！

つるが込み合いすぎると軟弱な芽しかとれなくなるので、密になったところを刈り取って整理し、つる立ちをまばらにしてやる。

3. おおば(シソ)

葉茎菜類《シソ科》原産地：中国西部

ビタミンなどのミネラル豊富な香辛野菜。
独特の香りには食欲増進、消化促進、殺菌効果がある。
和食のつまあるいは薬味として欠かせない。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
直まき				●	―	●	■	■				

●―● 播種　■ 収穫

栽培のポイント

●高温性で生育適温は25℃。夏の乾燥には弱く、霜にも弱い。
●5月以降に乾燥した天候が続くと、ハダニ類やアブラムシ類が発生しやすい。また、8月下旬からハスモンヨトウの飛来が増えるので、早期防除に努める。
●品種：通常多く用いられるのは緑色の「青ジソ」と赤紫色の「赤ジソ」。それぞれに葉が縮れる「ちりめん青」と「ちりめん赤」がある。

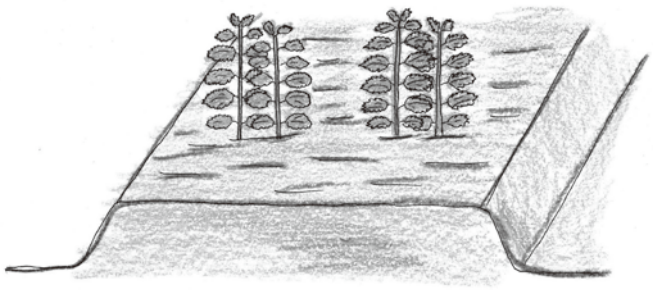
作　り　方

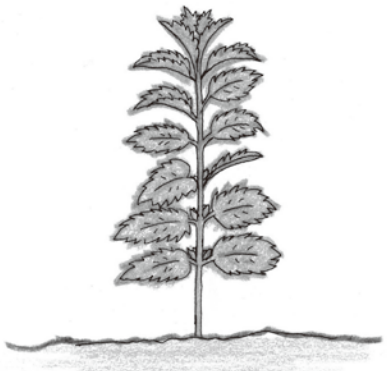
●畑の準備：うね幅120cm、株間40cm、条間60cm、2条植え。
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥　：200kg
◎苦土石灰　：　10kg
◎菜種油粕　：　10kg
◎大阪北部エコ有機3号：　18kg

追　肥　大阪北部エコ有機3号
◎1回目：本葉6～7枚頃に4kg
◎2回目：収穫始め頃に4kg

●種　ま　き：種子は1昼夜水につけておくと発芽のそろいがよくなる。まき穴1ヶ所に5～8粒ずつ種まきし、うすく覆土をする。発芽までは乾燥しないようにかん水する。
●間　引　き：本葉1～2枚時に1回目の間引きをする。本葉が5～6枚のころ2回目の間引きをして、1ヶ所2本立ちにする。
●敷きわら・かん水：乾燥に弱いので株元に敷きわらをし、時々かん水する。
●収　　穫：草丈が40cm以上（葉が10枚以上着いたころ）になれば、下の葉から摘み取って収穫する。





葉が10枚以上ついたころ、
下の葉から摘み取って収穫。

4. オカワカメ 葉茎菜類《ツルムラサキ科》原産地：南アメリカ

葉のほかにむかごや茎も食べられる。
葉は加熱するとぬめりが出てワカメに似る。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培				●		×						

● 播種　× 定植　収穫

栽培のポイント

●つるがよく茂るため、株間を広く取る。
●生育後半はつるが増え重くなるため、支柱は筋交いや斜めの支えをして頑丈にする。

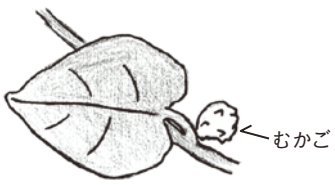
作　り　方

●育 苗 管 理：4月上旬ごろ、9cmポットにむかごを1粒ずつまいて土をかぶせ、手で軽く押さえてかん水する。育苗中は土が乾いたらかん水する。
●定　　植：水はけ、日当たりのいい場所にうね幅90cm～100cmで畝を立て、株間100cm～120cmで1条植えにする。ポット苗にむかごを植えて約1か月後、葉が3～5枚ほどに増えてきたら定植する。
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥：100kg
◎苦土石灰：　15kg
◎大阪北部エコ有機3号：10kg

追　肥　大阪北部エコ有機３号
◎5月～９月の間、1回あたり3kgを月に一度ごとに施用する。

●誘引・摘心：1.5～2mほどの支柱を立て、キュウリネットを張ってつるを誘引する。支柱はできるだけ頑丈なものにする。つるが50cmほどに伸びたら摘心し、脇から伸びる新芽をネットに誘引する。葉の収穫時に、つるが混み合う部分は適宜つみ取る。
●収　　獲：葉の大きさが7～8cm程度になり、厚みが出てきたころが収穫適期。1枚ずつ手やはさみでつみ取る。
●開　　花：9月中旬ごろから花が咲く。花が咲くと葉の生長が止まり新芽がつきにくくなるため、収穫時期を延ばしたいときは早めに花をつむ。
●むかごの保管：収穫が終わるころ、葉のつけ根にむかごがつき始める。むかごを来年の栽培に利用するときは、プランターの土の中に埋める等して乾燥しないように気を付けて保管する。
栽培終了後、寒さで枯れる前に地中に残った球根に盛り土をして越冬させると、翌年新芽が出て再度栽培できる。

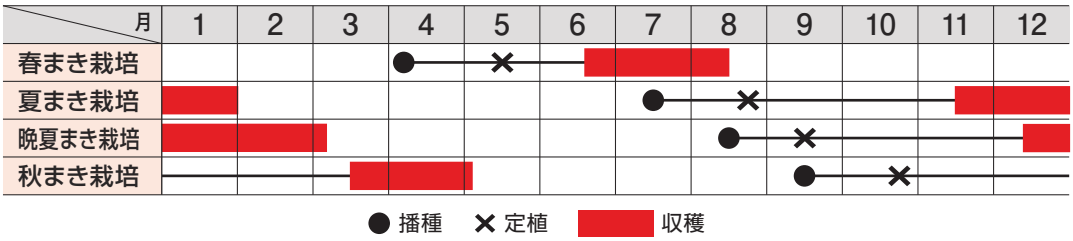


5. キャベツ

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：地中海・大西洋岸地方

ビタミンCも多く、
胃腸障害によいビタミンUが多いのが特徴的。アミノ酸組成にもすぐれ、
生でよし、煮てよしの健康野菜の王者。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 夏まきは、黒い寒冷紗を被覆し、気温を下げて育苗する。
- 秋まきは、春先とう立ち（抽台）のないよう、品種のは種適期を守る。
- 春まきは、寒い時期に保温なしで種子をまくと、とう立ちする。
- 結球始め頃までに施肥を終わらせる。

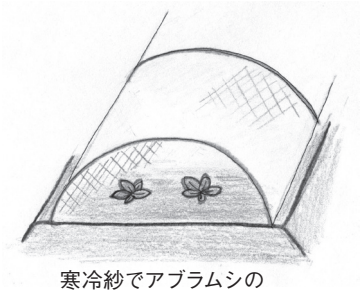
品　種

- 春・夏まき栽培：初秋、彩風（タキイ）、YRしぶき２号、松波（石井種苗）など。
- 晩夏まき栽培：彩音（タキイ）、渡辺早生丸（渡辺採種）など耐寒性品種。
- 秋まき栽培：YR春空、春波、北ひかり（タキイ）、など晩抽性・耐寒性が強い極早生品種。

作　り　方

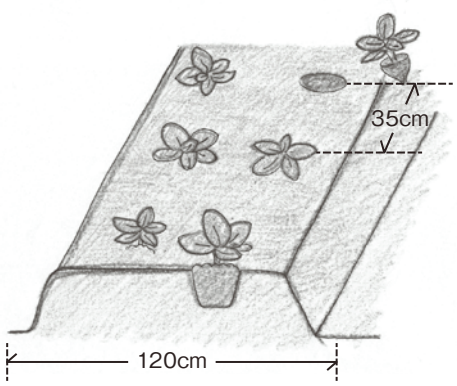
育　苗

- 本ぽ１アールあたり、苗床５㎡を準備する。
- は種前に、苦土入り化成肥料8-8-8 1kgを施し、耕しておく。
- 10cm間隔に浅く溝をつけ、均一に種をまき、
  軽く覆土する。
- 稲わらなどで覆ってから十分かん水する。
- ダイコンシンクイの幼虫が生長点付近の葉や芯を
  食害して、芯止まりになり収穫できなくなるため、
  発芽前に防虫ネットや寒冷紗（2mm目合）で、
  トンネル被覆して成虫（蛾）の侵入・産卵を防ぐ。
- かん水は朝に行い、夕方は土が少し乾く程度にする。
- 発芽揃いの頃から、葉が重なり合わないように
  2～3回に分けて間引きする。



寒冷紗でアブラムシの
飛来を防ぐ方法。

本ぽの管理《1アールあたり》



● 植 え 付 け：うね幅120cm、株間35cm、
　　2条千鳥植え
● 定植苗の大きさ：本葉5～6枚
● 施　肥　例　（1アールあたり）
　　元　肥（定植10日前までに）
　　◎堆　　肥　　：200kg
　　◎苦土石灰　　：　10kg
　　◎苦土入り化成肥料8-8-8：　20kg
　　追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
　　◎1回目：定植15日後に8kg
　　◎2回目：定植30日後に8kg
　　※春まきでは元肥中心、秋まきでは追肥主体で施肥する。
● 中耕・除草：追肥の時期とあわせて中耕・除草作業をおこなう。
● 収　　穫：手でおさえて、固くしまってきたら収穫する。穫り遅れて雨に当たると
　　裂球するので注意する。

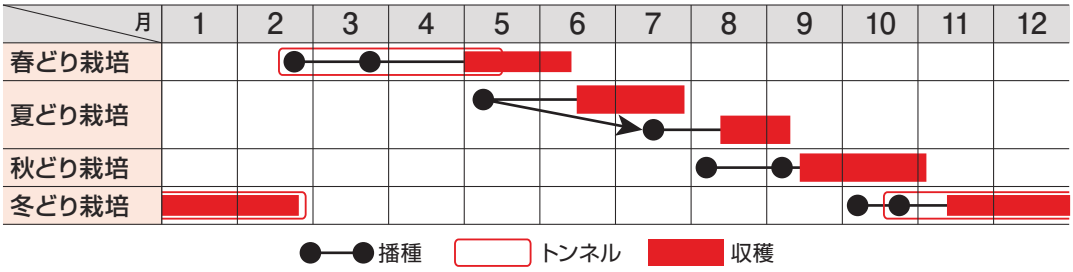


6. こまつな

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：中国、日本

カブから分化した最も古い漬け菜の一つで、
東京小松川で生産されたのが名前の由来。栽培しやすく、
栄養豊富で各種料理に用いられる。

栽培カレンダー



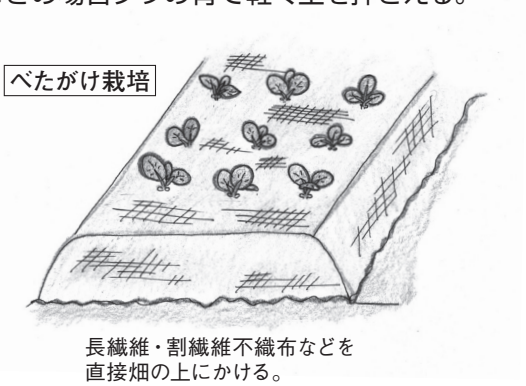
栽培のポイント

- 寒さ暑さに強く、特に冬の青物の少ない時期でも、比較的栽培しやすい。
- 連作障害が出にくい野菜で、完熟堆肥を施し、土を膨軟にすると品質がよくなる。
- 栽培期間が短いので、果菜類やネギ類などとの間作、混作も可能。

作　り　方

●う　ね　幅：120～150cm　3～4条まき、桑間15～20cm

●は　　種：は種機か手まきで条まきする。手まきの場合クワの背で軽く土を押さえる。
白い寒冷紗をうね全体を覆う
ようにかけた後、かん水する。
不織布のべたがけ栽培は防虫、
保温、防風効果がある。



長繊維・割繊維不織布などを
直接畑の上にかける。

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥

◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　10kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：20kg

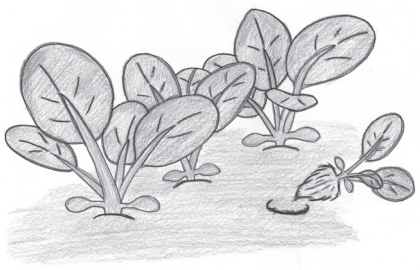
追　肥

※葉色が黄色の場合、出荷7～10日前に尿素を1kg追肥するとよい。

●間　引　き：1回目は子葉が展開したころ株間2cmに間引く。2回目は本葉2～3枚ごろに株間5cm間隔に間引く。

●か　ん　水：多湿になると徒長し、病気も発生しやすくなる。かん水は原則として本葉3～4枚（草丈約10cm）までとする。
生育後半は土壌を乾燥気味に保つ。

●収　　穫：生育日数で、高温期は20～25日、
低温期は70日以上で収穫となる。
草丈20～25cm程度になったら
根も一緒に抜きとり収穫する。

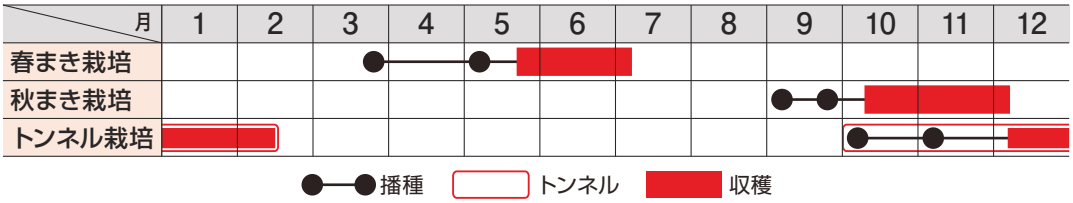


7. しゅんぎく

葉茎菜類《キク科》原産地：地中海沿岸地方

冬から春にかけての鍋物に欠かせない。
わき芽が旺盛に伸びるので、摘み取りで長期間収穫もでき、
家庭菜園に最適。

栽培カレンダー



栽培のポイント

●生育適温は15～20℃だが、夏は寒冷紗を、冬はビニール被覆で年中栽培できる。
●高温、長日でとう立ち、開花するので、5～8月の栽培は難しい。生育を促して、とう立ちする前に収穫するよう、生長を早める管理が大切。
●品種：現在最も広く栽培されている中葉種は大きく分けて2つのタイプがある。根元から株が張る株張り種と節間が伸びやすく枝を摘み取っていく摘み取り種がある。

作り方

●は　　種：元肥を全面に施用して耕うん後、幅120cmのうねを立てる。浅い溝を20cm幅で4条切り、条まきする。軽く平ぐわで土を押さえ、切りわらなどで被覆してからかん水する。

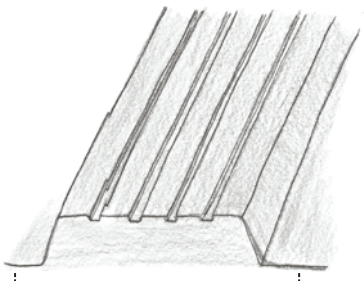
●施肥例（1アールあたり）

元肥
◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　10kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：20kg

（摘み取り種のみ）
追肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目収穫後に5kg

●間引き：1回目は本葉1～2枚のときに株間3cm程度に間引く。2回目は本葉3～4枚のときに株張り種は株間10cm、摘み取り種は株間15～20cmに間引く。

●かん水：乾燥に弱いので、かん水につとめる。



畝たて方法（条まき）



8. たまねぎ

根菜類《ヒガンバナ科》原産地：中央アジア、地中海沿岸

独特の香りと刺激臭は肉や魚の臭みを消し、
また甘みを増し、多くの料理に使われる。生食にも向き、
現在、年間の消費量が最も多い野菜。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき栽培（早生）					■				●	×—×		
秋まき栽培（中晩生）						■			●		×—×	

● 播種　×—× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

●球は、長日で温度が上がると肥大する。しかし品種により差があり早晩性が決まる。
●秋に早まきして生長した大きな苗で越冬すると、春のとう立ち（抽台）が増える。品種ごとの、は種適期があるのでそれを守る。
●追肥が遅れると、球の肥大・成熟が遅れたり、貯蔵性が悪くなる。

品　種

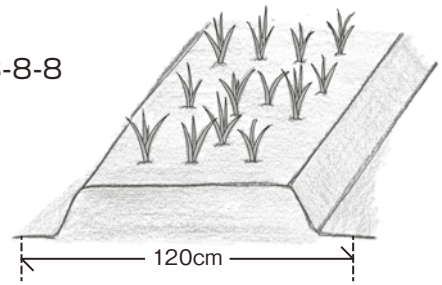
早生品種：ソニック、マッハなど。
中生品種：ターボ、OK 黄など。
中晩生品種：ネオアース、ケルたまなど。
一般的には、早生よりも中生、中晩生の方が強健で収量が多い。辛みの少ない生食用に、赤紫色系のくれない、猩々赤など。

作　り　方

育　苗

本ぽ１アールあたり、苗床５㎡を準備する。

●苗　　床：は種2週間前に、堆肥10kg、苦土石灰500g、苦土入り化成肥料8-8-8 １kgを全面にまいて、耕うんし、うね幅120cmの苗床を作っておく。

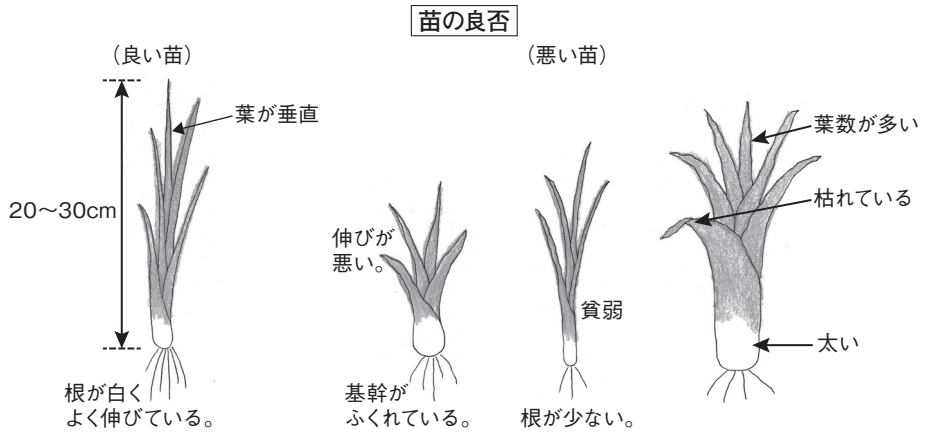


●は　　種：は種日は、極早生品種（9月8～10日）、早生、中生品種（9月15～20日）、晩生品種（9月23～9月30日）頃が目安だが、品種により異なるので注意する。
は種量は0.4dℓで、苗床に5～6cm間隔に条まきする。は種後は、軽く押さえて切りわらか土で薄く覆土し、さらに寒冷紗等でべた掛けし、発芽を揃える。発芽が始まれば、早めに寒冷紗を取り除く。本葉２枚頃までは、晴天の日にかん水をする。

●間　引　き：苗の混みすぎた所を間引き、除草し、苗が倒れないように株元に土寄せをする。

本ぽの管理

●定 植 準 備：定植の2週間前に、元肥を全面に施用して、幅120～150cmのうねを立てる。

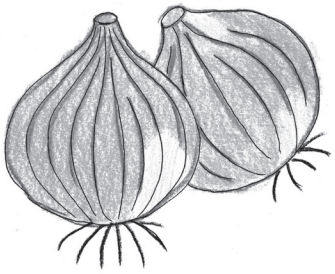


●定　　植：早生品種は10月下旬、中生品種は11月、晩生品種は11月中旬～12月に、株間12cm、条間25cmの4条に植えて、かん水し活着を促す。苗は本葉3枚で、苗地際の径が4～5mm程度のものを、浅植えする。

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥	追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎苦土石灰：10kg	◎1回目：定植後20日頃に7kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：7kg	◎2回目：1月中旬～下旬に7kg
◎ようりん：　2kg	◎3回目：3月上旬に7kg

●収　　穫：地上部が70%程度倒伏した晴天日に行う。
1～2日天日干しした後、雨の当たらない場所で貯蔵する。

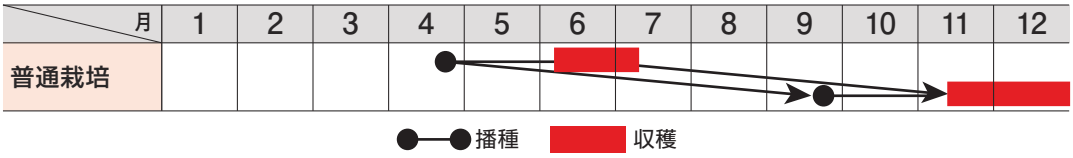


9. チンゲンサイ

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：中国

中国野菜で、煮ても色あせず煮崩れせず、人気がある。

栽培カレンダー



栽培のポイント

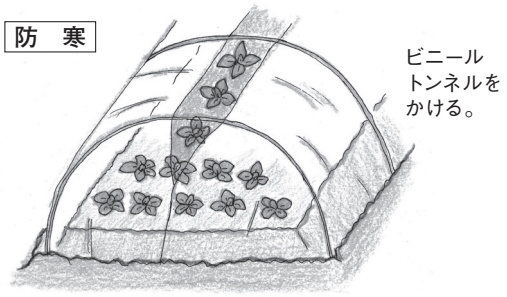
- 涼しい気候を好み、秋まきが栽培しやすいが、耐寒性・耐暑性があり、早春から秋まで栽培できる。土壌の適応幅は広いが、乾燥には弱い。
- 生育は春まき50日、秋まき60～70日、冬のトンネル栽培でも80日で収穫できる。
- 低温で花芽分化し、その後の長日でとう立ち、開花するので、春まきは13～14℃以上の温度が必要である。

成功のポイント!

葉が重なり合わないよう間引いて株間を確保する。混みすぎると、尻部のふくらみのあるよい株には仕上がらない。

作　り　方

●は　　種：元肥施用して耕うん後、うね幅110cm、条間15cmで条まきする。高温期には条間を広げる。露地の早春まきは、とう立ちに注意する。



●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥

◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　10kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：10kg

●間　引　き：本葉が2枚頃から間引きを行い、最終15cmの株間にする。



10. 菜ばな

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：ー

栄養価が高く、ビタミンA（カロテン）、
ビタミンCやカルシウムなどを多く含む緑黄色野菜で、
漬物やおひたし、あえものなどに利用。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
直まき（早生種）	■							●―	――	――	■	■
普通（中生種）	■	■	■						●―	―×	―×	■

●― 播種　× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

●早まきすると病気にかかったり、年内に伸びすぎて寒害を受けやすくなる。また、遅まきでは株の生育が悪く、小株のうちに花が咲き収量が落ちてしまうので適期に種まきをする。冬に入るまでにできるだけ生長させておくと、太くやわらかい良質の花蕾を収穫できる。

●直まきの方が根の張りがよく、生育も早くて栽培しやすいが、幼苗期に虫害や乾燥による生育のムラができやすい。

作　り　方

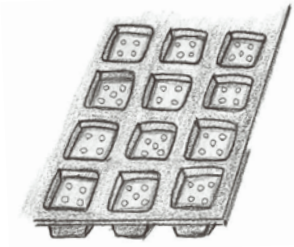
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　15kg
◎ようりん：　 2kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：15kg

追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目　　：本葉が7～8枚目の頃に4kg
◎2回目以降：花茎が伸び始めたときに4kg
　　その後は月1回ごとに4kg

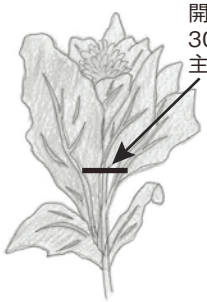
●早　生　種：うね幅100cm、株間30cm、2条まきか条間30cm、株間30cmの点播（1カ所4～5粒）とする。播種量は1アールあたり8mℓ。種が隠れる程度に軽く覆土し、その上を手で軽く押さえ鎮圧し、かん水を十分に行う。本葉2～5枚展開時までに2～3回に分けて間引きを行い、株間が30cmくらいになるようにする。この際、病害虫に侵されていない、正常な1株を残す。

●中　生　種：セルトレイに1穴あたり4～5粒のタネをまき、軽く覆土する。育つにつれて間引き、本葉2枚のころに1本にする。播種後30日くらいで本葉4～5枚の時に、根を切らないように気をつけて、うね幅120～150cm、株間35cmの2条植えで1アールあたり約400株にする。苗が活着するまでは十分に乾燥に注意してかん水する。



128穴のセルトレイで苗を作る。

●収　　穫：早どりせず花蕾が大きく膨らむまで待って、開花直前の30cmくらいに伸びた主茎を茎葉のついたまま摘みとる。開花してからでは収穫遅れ。その後は、側枝が伸びてくるので、12～15cmに伸びた花茎を開花前のやわらかい時に収穫する。

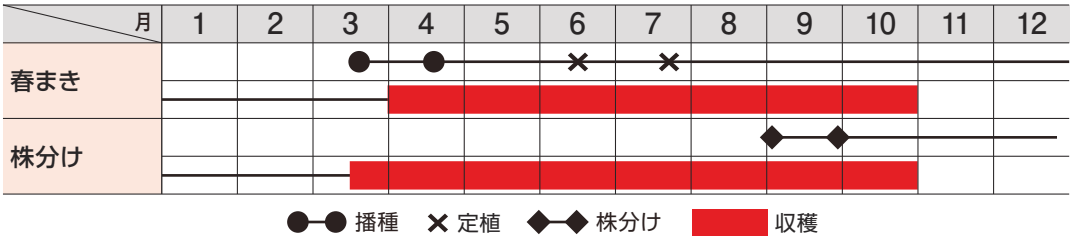


11. にら

葉茎菜類《ヒガンバナ科》原産地：中国西部

栄養価が高く、匂い成分のアリシンが免疫機能を高め、
疲労回復に役立つ。また、整腸作用があり、昔から胃腸に効く
野菜として親しまれてきた。

栽培カレンダー



栽培のポイント

●一度植えると2～3年収穫できる。大株になったら株分けする。
●涼しい気候を好み、生育適温は10～25℃。冬には地上に出ている部分は枯れるが春になると新しい葉が生えてくる。
●酸性土と過湿を嫌うので、土壌の酸性土を調整し、有機質肥料を使って排水と水持ちの良い土づくりを心がける。日当たりはそれほど要求せず、半日陰でも育つ。

作　り　方

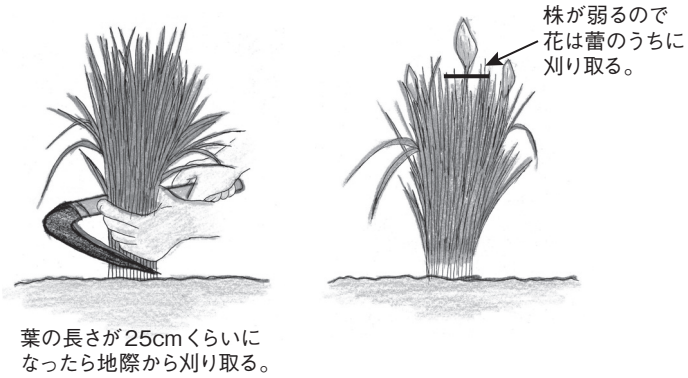
●苗床の準備：本ぽ1アールあたり10㎡の程度の苗床を準備する。種まき1か月前に、苗床10㎡当たり苦土石灰2kgと完熟たい肥3kgを全面に施す。種まき1週間前までに苦土入り化成肥料8-8-8　400gを全面に施して混和し、畝立てする。
●苗　作　り：板などを使ってすじをつけ、15～20cm間隔の条まきにする。種をまいた後は、うすく土をかけ、敷きわらか寒冷紗をする。10～12日後に発芽するので敷きわらを取り除く。土が乾いたら水をやるようにする。本葉が2～3枚になった時、苦土入り化成肥料8-8-8 300gを追肥する。
●畑の準備：うね幅60cm、株間20cm、2条植え
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥

◎堆　　肥　　：300kg
◎苦土石灰　　：　10kg
◎ようりん　　：　 6kg
◎大阪北部エコ有機3号：　10kg

●定　　植：苗が20cmくらいになったら本ぽに植えつける。植え溝をつけて、苗は4～5本ずつまとめて、20cmくらいの間隔で植えていく。根が外に出ないように丁寧に植えつける。
●追肥・土寄せ：追肥は植えつけ後20日とその40日後に1アールあたり苦土入り化成肥料8-8-8を4kg施す。追肥後は倒伏や雑草の発生を防ぐために、土寄せを行う。植えつけ後は毎年9月と4月を目安に追肥する。
●収　　穫：4～10月、葉の長さが25cmくらいになったら収穫する。

●とう切り：8月ごろになるととう立ちして花が咲く。そのまま放っておくと株が弱るので蕾のうちに茎を刈り取る。



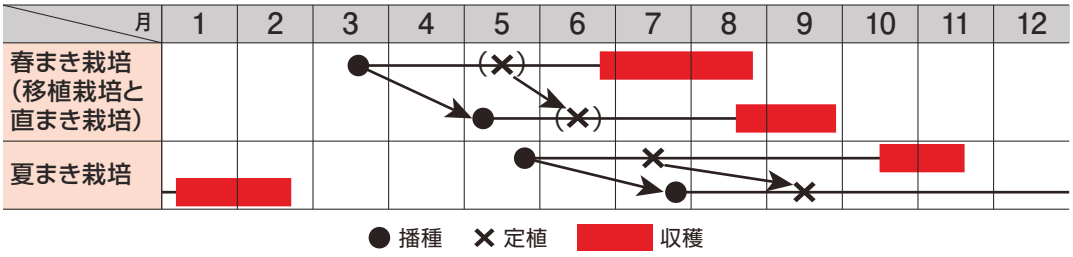
●株　分　け：3～4年たつと葉が細くなってくるので休眠中に株分けする。備中鍬などで株を掘り起こし、1株ずつに分け、大きさをそろえて小さい株は捨てる。分けた株は苗を植え付けた時と同じように4～5本ずつまとめて植えつける。

12. ねぎ

葉茎菜類《ユリ科》原産地：中国

体を暖め疲労を回復する薬用植物として
古くから栽培されている。もとは冬野菜だが、
今は周年栽培され、利用方法も広い。

栽培カレンダー



栽培のポイント

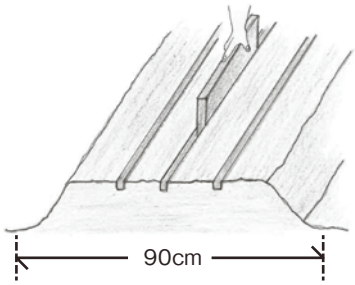
●酸性土壌に弱いので、苦土石灰を施す。
●水はけが良く、しかも保水性のある土を好むため、堆肥等を十分に施す。
●葉ねぎは、根が細く少ないので乾燥に弱い。また窒素肥料を与えすぎると、葉が大きくなり、折れやすく病気にもかかりやすいので注意する。

品　種

収穫が6～9月のものは暑さに強い「奴」を、10～5月のものは寒さに強い「九条」を使う。近年、細系が好まれ、博多万能ねぎなどの小ねぎや分けつしない1本ねぎなども注目されている。

作　り　方

●苗床準備：本ぽ1アールあたり、20～30㎡の苗床を用意する。10㎡あたり、堆肥20kg、苦土石灰1kgをまいて耕しておく。
●うね立て：苦土入り化成肥料8-8-8 1kgをまいて、うね幅90cm（まき幅2cmの浅溝3～4本切る）のうねを立てる。



●は　種：は種量（本ぽ1アールあたり）は、春まき…3dℓ、夏まき…5dℓ古い種は発芽率が低下するので1年で使い切る。条まきで厚さ6～8mmの覆土をして、切りわらをかけ十分かん水する。春まき栽培はビニール被覆で保温を、夏まき栽培は寒冷紗被覆で暑さ対策をする。
●苗床での追肥：液肥の300倍液をかん水代わりに施用する。
●苗の大きさ：本葉3～4枚、草丈20cm苗を定植。

本ぽの管理

●定　　植：幅90cmのうねに、株間15cmで5～7本ずつを1株にして、2条植えする。

●施　肥　例　（1アールあたり）

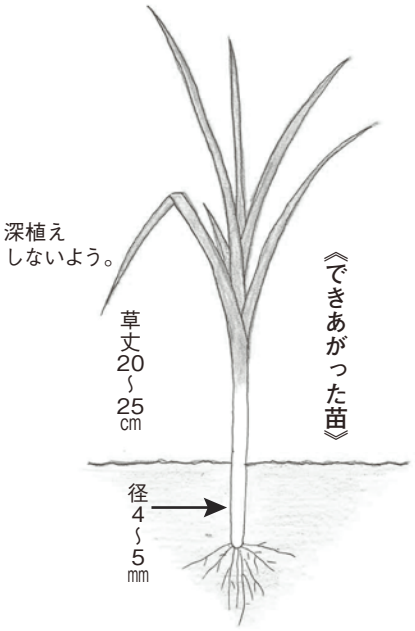
元　肥
◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　15kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：15kg

追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目　　：定植30日後に5kg
◎2回目以降：1ヶ月ごとに5kg

●中耕･土寄せ：追肥と同時に中耕、除草をかねて土寄せを行う。

●か　ん　水：《生育初期～中期》
やや多めにかん水を行う。
《生育中期～後期》
土壌表面が乾いたらかん水をする。
《収　穫　期》
収穫1週間前頃からは出来るだけかん水は控える。

●その他の管理：夏期に栽培する場合は、条間にわらを厚く敷き乾燥を防ぐ。冬期には凍害を防ぐため、晩秋に株元に土寄せをしておく。



13. はくさい

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：中国北部

ビタミンCが豊富で、繊維のやわらかさと
淡白な持ち味で冬野菜の代表。あく抜きもなく、胃にやさしく、
手軽に炒め物、鍋物、漬物に。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき栽培（早生）								●	✕		■	■
秋まき栽培（中～晩生）	■							●	✕		■	■

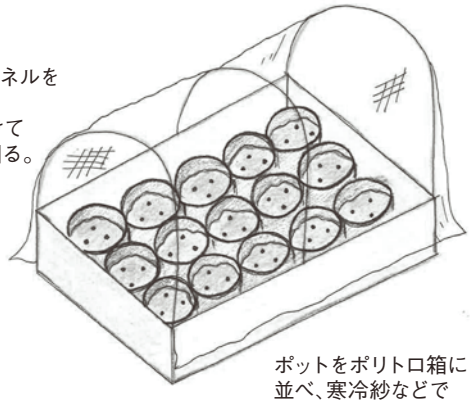
● 播種　✕ 定植　■ 収穫

栽培のポイント

- 根は細いが、深く伸びるので高うねにする。うね間に水が溜まらないように注意する。
- 品種のは種適期を守る。13℃以下の低温で花芽ができ、それ以降は葉数が増えず十分結球しないことがある。冷涼地帯ほど早まきして、寒くなるまでに葉数を確保する。
- 肥切れさせないように追肥する。
- 早まきすると、ウイルス病の発生が多いのでアブラムシ防除につとめる。

品　種

「無双」、「冬峠」、「金将」、「黄ごころシリーズ」「晴黄シリーズ」（黄芯系）（いずれもタキイ）
はくさいは早晩性（収穫までの日数）によって多くの品種があるため、作型や気象条件等を考慮して品種を選ぶ。



作　り　方

育　苗

ポット育苗又はペーパーポット育苗

- 9cmのポリ鉢やペーパーポットに有機物に富んだ床土を入れ、2～3粒づつまく。
- 風通しのよい涼しいところに並べ、乾燥防止のため白寒冷紗をトンネル被覆する。
〔アブラムシ、ダイコンシンクイの被害防止にも役立つ〕

●間　引　き：本葉2～3枚頃に、1本に間引く。

本ぽの管理

●う　ね　幅：120cm、株間40cmで2条千鳥植え。

直播き

●は　　種：1カ所に3～5粒ずつまいて薄く覆土し、乾燥防止に寒冷紗を敷いてからかん水をする。

●間　引　き：1回目は本葉2枚の頃3本に、2回目は本葉7～8枚の頃、1本に間引く。

定　植

●定植苗の大きさ：本葉4～5枚。

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥

◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　15kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：20kg

追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8

◎1回目：本葉6～7枚頃に5kg
◎2回目：結球始め頃に5kg

●中耕・土寄せ：生育初期に株間やうねの肩を削って中耕、除草を兼ねて土寄せする。

●排　　水：秋雨の続くとき、うね間に水を溜めないよう排水につとめる。

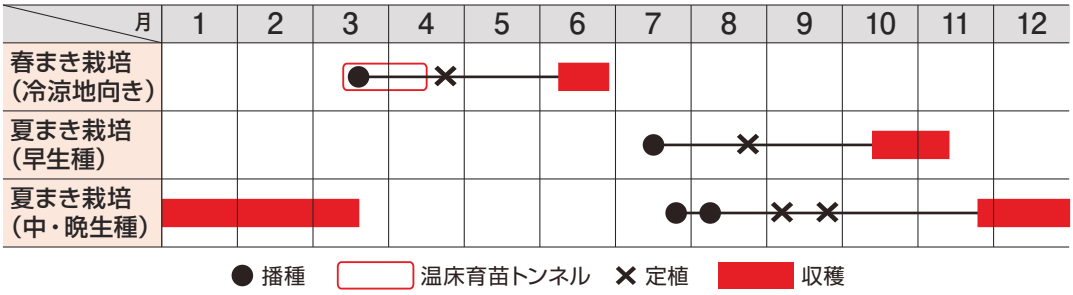
JA OSAKA-HOKUBU

14. ブロッコリー

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：地中海東部沿岸

栄養バランスにすぐれ、
特にビタミンCはレモンの２倍。美容と健康に欠かせない
代表的な緑黄色野菜として需要が増大。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 25℃以上では生育が劣り、5℃以下では生育が停止する。定植苗は必ず若苗を植える。
- 湿害に弱く、根腐れや枯死しやすいので、畑の排水を良くする必要がある。特に生育初期から中期にかけて湿害を受けやすい。

品　種

極早生種：短期間で収穫するので、肥料は元肥を主体に初期生育を旺盛にして、出蕾までに十分な株をつくる。（シャスター等）

中早生種：極端な早まき、遅まきは避ける。元肥をやや多めに施し、最後まで肥料が切れないようにする。（緑嶺、ハイツ等）

中晩生種：生育期間が長いので、元肥と追肥の割合は半々とし、出蕾期以降も肥料が切れないようにする。（グリーンビューティー等）

成功のポイント！

大きく充実した花蕾を収穫するには、しっかりした茎葉を着けさせることが大切。そのため元肥の堆肥・肥料を十分に与えておく。

作　り　方

育　苗（キャベツに準ずる）

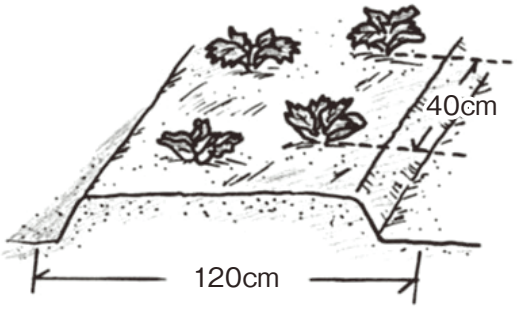
- 苗床の害虫防除：ダイコンシンクイ（蛾）の幼虫が苗の生長点付近の葉や芯を食べて芯止まりとなる。そのため、は種後～発芽前に寒冷紗（2mm目合）でトンネル被覆して、成虫の飛来、産卵を防ぐ。



寒冷紗でダイコンシンクイの飛来を防ぐ方法。

本ぽの管理

●植 え 付 け：うね幅120cm、
株間40cm、
2条千鳥植え。



●定植苗の大きさ：本葉5～6枚。
（植え傷みを避けるため、
苗床へ十分かん水して、
根鉢を多くつけて植え
付ける。）

●か　ん　水：定植が夏の乾燥期のため、
植え付け後は活着と初期生育を促すため、十分かん水をする。
また花蕾の肥大期に乾燥すると、収量や品質が悪くなる。

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥

	堆　肥	苦土石灰	苦土入り化成肥料8-8-8	ようりん
極早生・中早生	200kg	10kg	20kg	2kg
中晩生	200kg	10kg	18kg	2kg

追　肥

	肥料名	1回目	2回目
極早生・中早生	苦土入り化成肥料8-8-8	10kg	
中晩生	苦土入り化成肥料8-8-8	8kg	8kg

●1回目は定植 7～10日後、2回目は花蕾発生前に施す。
●追肥は、肥料切れしないように速効性の肥料を早めに施す。
●頂花蕾のみ収穫する作型では、頂花蕾が見え始めるまでに最終の
追肥を終えるようにする。

●中耕・土寄せ：涼しい気候になると、急速に生育が早まり倒れやすくなるため、中耕除草を兼ねて株元に土寄せを行う。

●収　　穫：収穫適期は、冬でも7日程度と短い。花蕾周辺にすき間が出始めた頃。側花蕾を収穫する場合は、頂花蕾を収穫後、2回目の追肥をする。

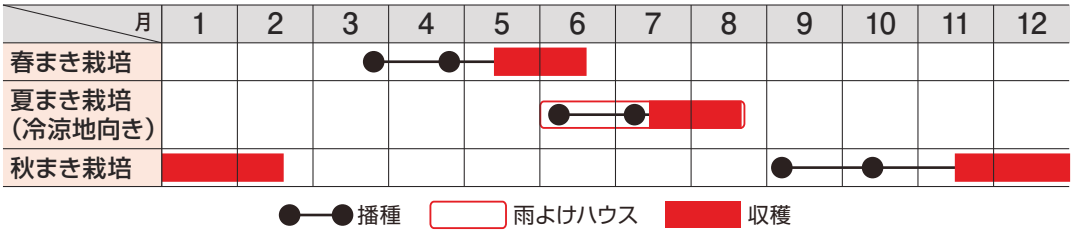


15. ほうれんそう

葉茎菜類《ヒユ科》原産地：コーカサス地方

各種ビタミンや鉄分、カルシウムなどに富む栄養野菜。
造血作用があるため、貧血の改善や予防に。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 耐寒性は強く0℃でも生育を続け、−10℃の低温にも耐える。
- 高温には弱く、20℃以上になると生育が悪くなる。酸性土壌には野菜のうちでは最も弱いほうで、pH5.2以下ではほとんど育たないので、苦土石灰で土壌酸度を調整する。
- 春はとう立ち（花芽ができる）が発生しやすいので、品種の選定に注意する。また、早めに収穫する。
- 夏の高温下では立枯病の発生が多く作りにくい。

成功のポイント！

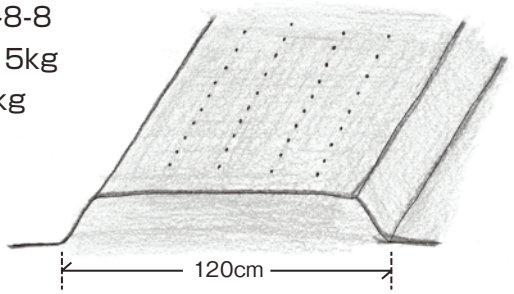
酸性と畑の排水不良はほうれんそうの大敵。石灰による酸度矯正と周囲に排水溝を設け、畑の表面排水につとめる。

作り方

- うね幅：120cm。
  - 水田などの排水の悪いところは、高うねにして、条数を減らす。4条まき、条間15cm。
- 株間：秋まき5cm、春まき7〜8cm。
- 施肥例（1アールあたり）

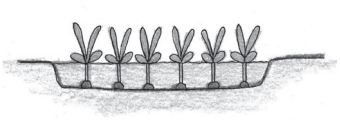
元肥
◎堆肥：200kg
◎苦土石灰：20kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：15kg

追肥 苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目：草丈5〜6cm頃に5kg
◎2回目：草丈12cm頃に5kg

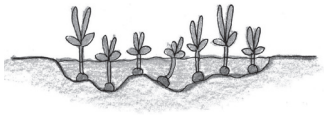


●間　引　き：本葉3枚の頃、間引きしてガッチリした株に仕上げる。軟弱徒長株はとう立ちを早めたり、べと病発生の原因になる。

種まき



まき溝が平らだと覆土の深さも発芽も揃う。

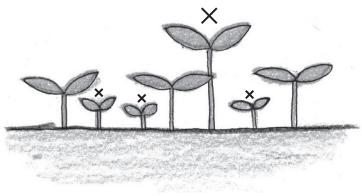


まき溝に凸凹があると覆土の厚さが不揃いになり発芽もバラバラ。その後の生育もムラになる。



覆土に凸凹があると水が低い所にたまって立枯れを起こしやすく、発芽が不揃いになりやすい。

間引き



発芽遅れの株や生長が早すぎる株の込みすぎた所を間引いて株間を揃える。

●その他の管理：台風や豪雨にたたかれ、根が傷められた時には尿素の100倍液を葉面散布して、草勢の回復を図る。

16. ミズナ

葉茎菜類《アブラナ科》原産地：日本

臭みの無い淡白な味わいと歯ざわりが特徴で、
和え物、鍋物、サラダ、汁物、煮物などにひろく用いられる。
関西地方では古くから常用されてきた葉野菜。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき								●	―	―	■	■
秋まき	―	―	■						●	―	―	―

●―● 播種　■ 収穫

栽培のポイント

●水を多く与えないとよいものができない。株元に敷きわらなどをして水分保持に努め、畝を乾かさないよう冬季でも水やりに注意する。

●ウイルス病には強くないので、生育初期からアブラムシの防除を徹底する。

作り方

（大株どり）

●畑の準備：うね幅120cm、株間35cm
条間35cmの2条植え

●施肥例（1アールあたり）

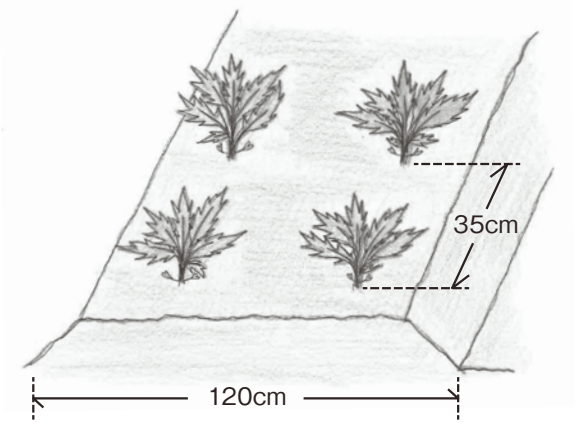
元肥
◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　15kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：8kg

追肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目：本葉5～6枚頃に3kg
◎2回目：1回目から約25日後に3kg

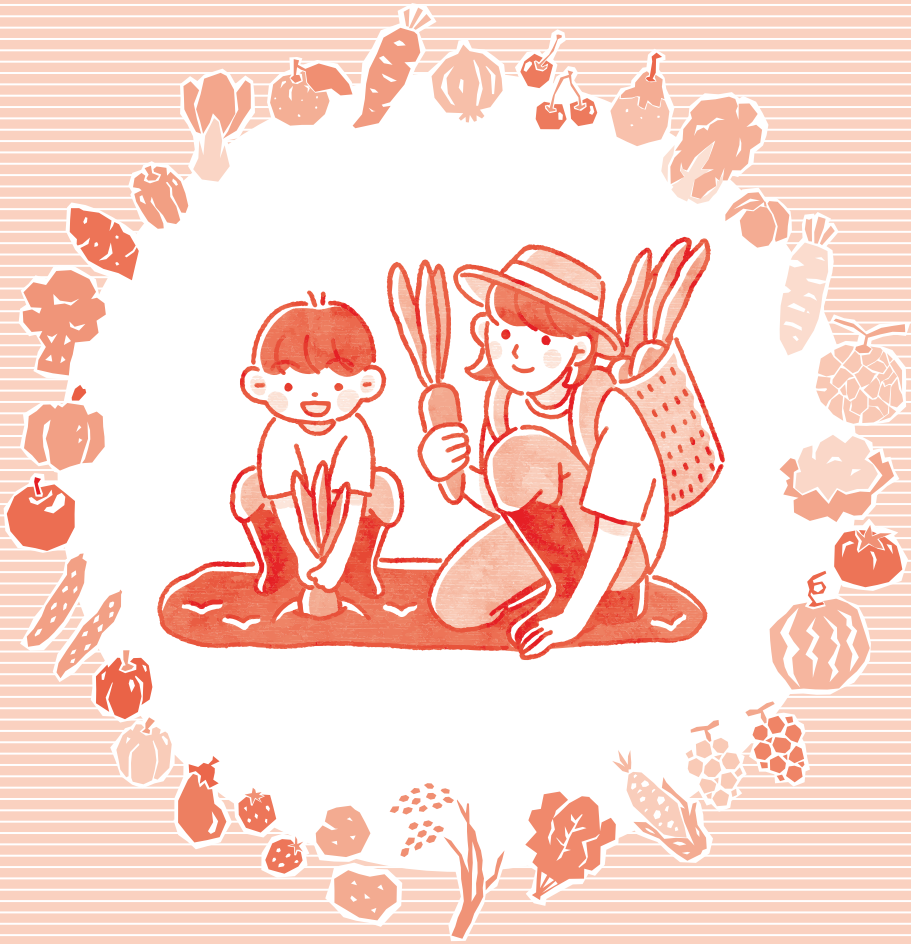
●種まき：まき溝をつけて3cmくらいの間隔で条まきにする。薄く土をかける。

●間引き：1回目は子葉が開ききったころ、込みすぎた株や伸びすぎた株を間引く。
2回目は本葉2枚のころ、株間5～6cmに間引く。

●収穫：収穫後のしおれが激しいので午前中に収穫し、
10℃前後で保存する。



やさしい農産物づくり



農業者向けLINEにて防除等の情報を配信しています!!

病害虫防除は、発生前や発病初期の対応が大切です。組合員のみなさまが作られる作物を守るため、タイムリーな情報をお届けしますので、

是非、お友だち登録をお願いいたします！

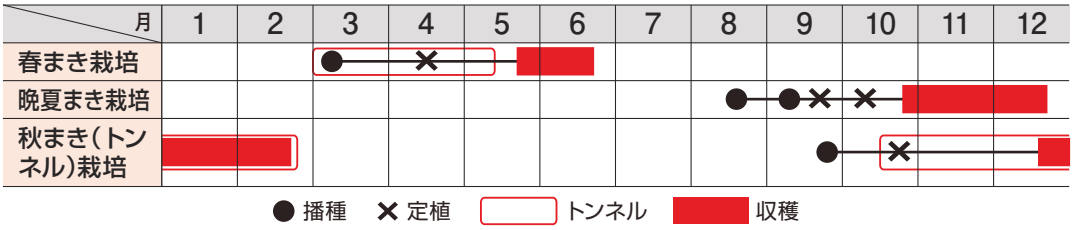


17. レタス

葉茎菜類《キク科》原産地：地中海沿岸、西アジア

サラダに不可欠。生で食べればバランスの良いヘルシー野菜。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 涼しい気候を好み、栽培適温は15～22℃。生育前半は、－5℃ぐらいに下がっても枯れないが、結球期に入ると凍害を受けやすい。
- 暑さには弱く、27℃以上になると正常な結球はせず、腐敗株が多くなる。
- 高温、長日下で種まきをすると、とう立ち・開花しやすい。そのため特に夏まき栽培では、品種の選択を誤らないこと。

作り方

育苗

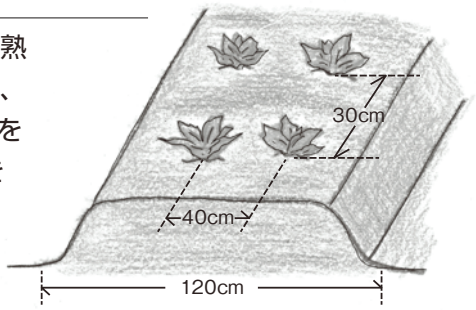
成功のポイント！

レタスの種子は発芽適温である18～20℃以外の条件では、極端に発芽率が下がる。発芽は好光条件を好み、覆土は乾燥しない程度にうすくする。

- ポット育苗：本数が少なければ9cmポットに直接まいてもよい。3～4粒播種し、1本仕立てにして本葉4～5枚で定植する。
- 間引き：本葉1枚の頃、葉が触れ合わない程度に間引く。
- 移植：苗床は本ぽ1アールあたり約6㎡準備して、1㎡あたり堆肥2kg、苦土石灰を約80g、苦土入り化成肥料8-8-8を約60g施用し、耕うんする。本葉2～3枚で、この苗床に10cm間隔に植え付ける。または9cmポットに移植する。

定植後の管理

- 施肥：定植2週間前に、1アールあたり完熟堆肥200kgと、苦土石灰を10kg、元肥として大阪北部エコ有機3号を10kg施用し、幅120cmのうねを立てる。



●定　　植：本葉4～5枚の苗を株間30cm、条間40cmの2条千鳥に定植し、十分かん水する。老化苗にならないように、適期定植する。肥効や土壌水分の急激な変化を防ぐため、マルチ栽培が適する。
秋どりでは虫よけ効果のあるシルバーマルチ、冬どりでは黒マルチを利用する。
高温期はあらかじめ不織布等を被覆し、地温を低下させておいても良い。



本葉4～5枚の
苗に仕上げ、
本畑へ植えだす。

●か　ん　水：活着から結球まではやや多めとし、充実した外葉を展開させる。結球後は、軟腐病等の発生が増えるので、かん水を控える。

●追　　肥（秋まきのみ）：追肥は結球始め頃までで、葉色や生育状況に応じて、かん水を兼ねて液肥を散布する。または結球始めまでに1アールあたり苦土入り化成肥料8-8-8を10kg施用する。

成功のポイント！

収穫が平均気温10℃頃の低温期（降霜・降雪期）に入る栽培では、結球期に入ったらビニールで保温被覆する。

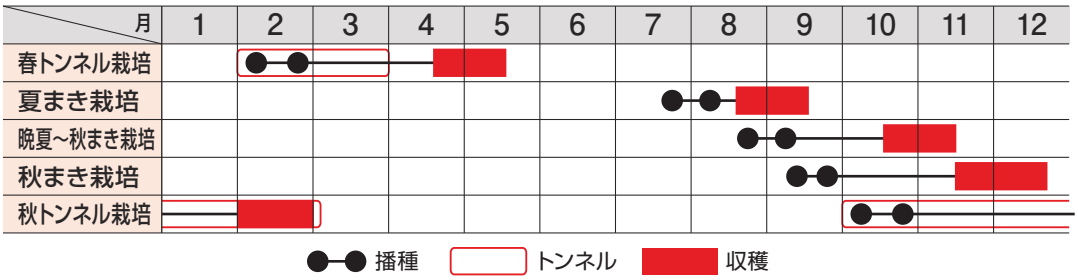
●収　　穫：結球した頭部を軽く押して、硬く感じる頃が収穫適期。
切り口から出る乳液は、水をひたした布などでふき取る。

1. かぶ

根菜類《アブラナ科》原産地：ヨーロッパ

日本へは縄文時代後期に伝わった野菜で
多彩な地方品種がある。だいこんほど土に深く入らず、
収穫も早くできるので家庭菜園向き。

栽培カレンダー

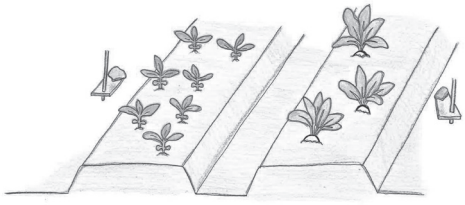


栽培のポイント

- 涼しい気候を好み、生育適温は15～25℃。寒さにはかなり強いが、暑さには弱く、根の肥大が悪くなり品質も劣ってくる。
- トンネル栽培で防寒し、夏の高温期は寒冷紗で被覆すれば年中栽培できる。
- 生育期間が短いので、畑の輪作作物として利用しやすい。収穫が遅れるとすが入る。
- 良品質、多収のため、作付け前に完熟した堆肥をすき込む。
- 早めに間引きを行い、生育が遅れないようにする。根が浅いので、乾燥に弱い。

作り方

	〔大かぶ〕	〔小・中かぶ〕
うね幅：	100cm	120cm
まき方：	2条点まき	4条すじまき
株間：	30cm	10～12cm



施肥例（1アールあたり）

元肥

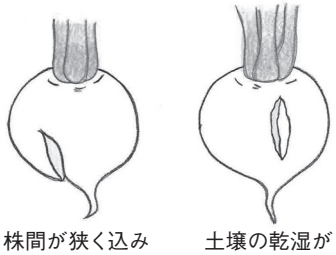
種類	苦土石灰	苦土入り化成肥料8-8-8	堆肥
大かぶ	10kg	35kg	200kg
小・中かぶ	10kg	20kg	200kg

追肥　苦土入り化成肥料8-8-8

種類	1回目（本葉2～3枚）	2回目（本葉6～7枚）
大かぶ	3.5kg	3.5kg

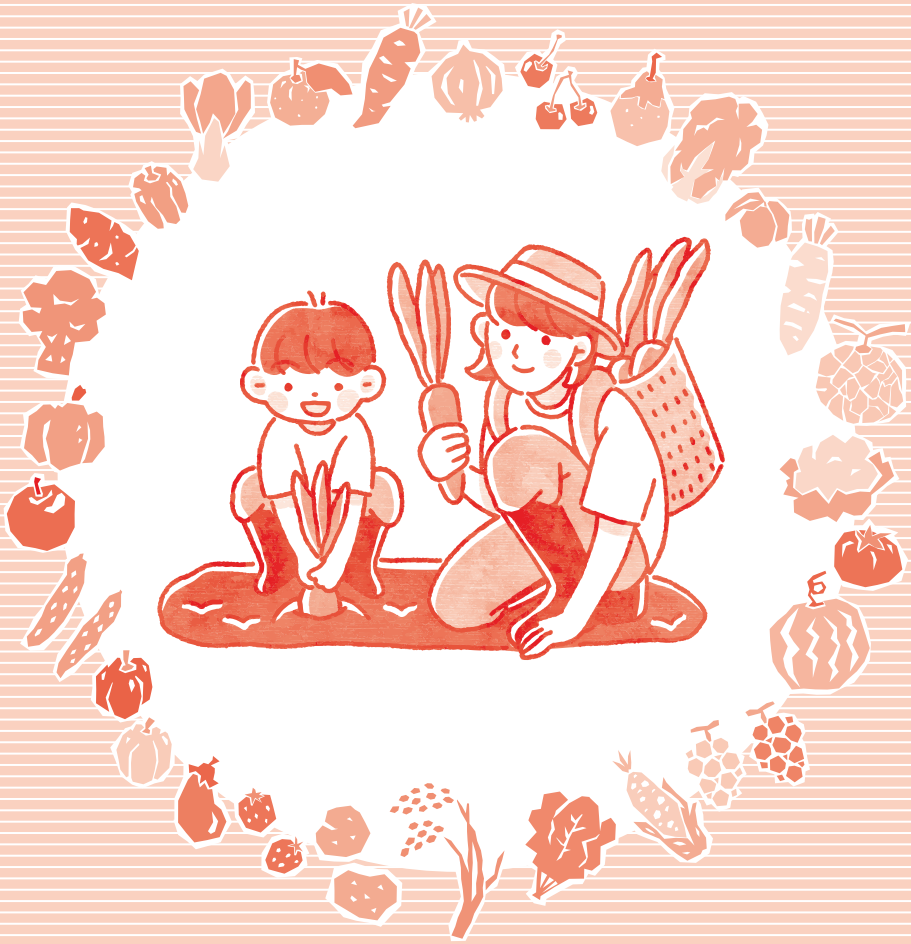
- 間引き、土寄せ：間引きは重要な作業で、良品生産のカギとなる。遅れると軟弱徒長し、残った株が傷む。本葉2～3枚のとき1回目、本葉6～7枚のとき2回目の間引きをして土寄せをする。土寄せは、根の肌を白く美しくするために重要。
- かん水：かぶは乾燥に弱いので、畑の乾き具合を見てかん水する。
- 収穫：小かぶは春、夏まきで約30日。秋まきで約60日、根径約5cmで収穫。大かぶは、秋まきで約60～90日で収穫。

管理が悪いと不良品が多くなる。



株間が狭く込みすぎたときなど。　土壌の乾湿が激しかったとき。

たのしい農産物づくり



農業者向けLINEにて防除等の情報を配信しています!!

病害虫防除は、発生前や発病初期の対応が大切です。組合員のみなさまが作られる作物を守るため、タイムリーな情報をお届けしますので、

是非、お友だち登録をお願いいたします！



2. ごぼう

根菜類《キク科》原産地：地中海沿岸、西アジア

外国原産の植物だが、日本で初めて作物化されたもの。
繊維質が多く、胃腸の洗浄や良性の細菌を増やす効果がある。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 栽培には日当たりが良く、排水が良好で耕土が深い畑が適している。
- 生育適温は20～25℃で、種子の発芽には変温の効果が高く好光性である。
- 連作障害すると極端に生育が悪くなり収量が減るため、3～5年の輪作をする。
- 一定の太さになると、低温と長日の影響で花芽が分化して、とうが立つ（抽台）。
  抽台の早晩性は品種による。秋まき春どりの作型では、抽台しにくい品種を選ぶ。

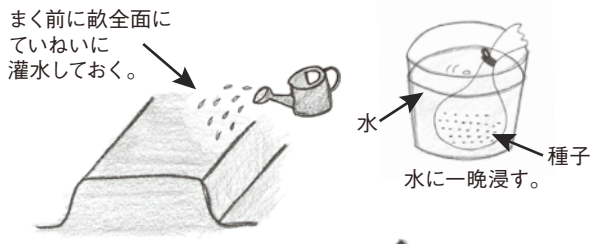
品　種

山田早生、渡辺早生、高山ごぼう（豊能町高山の伝統品種）、滝野川（晩生種）

作　り　方

- 施　　肥：1アールあたり完熟堆肥を200kg、苦土石灰を10kg施用し、土壌酸度を矯正する。元肥は大阪北部エコ有機3号を10kg施用する。
- う　ね　立：元肥施用後、できるだけ深く耕し、幅70cm、高さ30cm以上のうねを立てる。

ごぼうの種子は発芽しにくいので、水に一晩浸しておく。また、発芽には光が必要な種子のため、覆土は厚くならないようにする。



- は　　種：約10cmの間隔で3～4粒ずつ点播きし、切りわらや土で軽く覆土をする。
- 間　引　き：子葉展開時と本葉2～3枚の頃に間引きする。間引きは、生育が中くらいのものを残すようにし、生育が悪いもの、葉の大きいものは間引く。



本葉が1～2枚のころ、伸びすぎや出遅れの苗を間引く。間引きは良いゴボウを作るのにとても大事な作業です。

- 追　　肥：肥料不足になると、す入りになったり空洞になるので、追肥は生育に合わせて、2回目間引き時と本葉5～6枚の頃の2回に分けて行う。1アールあたり大阪北部エコ有機3号10kgをうねの肩の部分にまき、追肥と合わせて軽く中耕して土寄せを行う。
- 収　　穫：ごぼうの収穫期は幅が広い。早生種では、は種後150日くらいで収穫適期になるが、根径が1～2cm程度の頃から収穫を始める。なお、収穫後、保存する場合は、出荷まではビニールで覆って乾燥させないようにする。

3. さつまいも

根菜類《ヒルガオ科》原産地：中央アメリカ

暑さにも強くて、栽培しやすい。
繊維もビタミン類も豊富で、用途も広い。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培					×	×			■	■	■	

× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

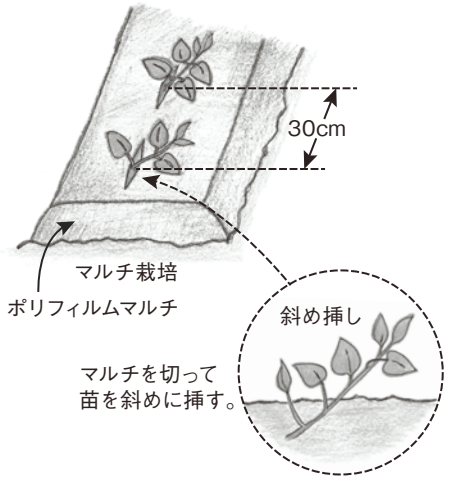
●イモの肥大の適温は20～30℃と高い。強光を好み、乾燥にもよく耐えて生育する。
●チッソ肥料が多すぎると茎葉が茂りすぎ、つるぼけ現象になり、イモが太らない。

品　種

高系14号、紅あずま、鳴門金時、紅はるか、安納芋、シルクスィートなど。

作　り　方

●定 植 準 備：定植の2週間前に、元肥を全面に施し、うね幅80～90cmで、できるだけ高うねにして、黒マルチでうね全面を被覆しておく。
●施　　肥：元　肥（1アールあたり）化成13号を10kg
●マルチ被覆：黒マルチ栽培は雑草防止効果がある。黒マルチを被覆した場合、つる先が日焼けすることがあるので、つる先がマルチに触れないように工夫する。白黒ダブルマルチなら、日焼けは少ない。
●定　　植：株間は30～35cmで、本葉8～9枚、長さ約25cmの苗を、つるの先端が5～10cm上に出るように斜めにさす。
〈マルチ栽培は、マルチを切って、苗を挿す〉
節数を多く土に埋めて挿すと、イモの数は増えるが、小さくなる。逆に、埋める節数が少ないと、数は減るがイモは大きくなる。



4. さといも 根菜類《サトイモ科》原産地：マレー半島

縄文時代にイネより早く渡来したとされる
古くからの主要作物。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ栽培				×	―	―	―	―	■			
普通栽培					×	―	―	―	―	■	■	

× 植え付け（種芋購入）　■ 収穫

栽培のポイント

●乾燥に弱く、生育ざかりの夏期に降雨が少ないと収量が減ったり、イモが硬くなる。
●連作障害が出やすいので、同じ場所では2～3年は作付けを避ける。

品　種

石川早生（8月末から収穫できる早生種、マルチ栽培すると早まる。子芋を食べる品種。）
土　　垂（晩生種で、比較的栽培しやすく収量も多い。子芋を食べる品種。）
唐のいも（晩生種で、比較的作りにくく、赤い葉柄は「ずいき」として利用できる。
親芋も子芋も食べられる品種。）

作　り　方

●植 え 付 け：うね幅120cmで、株間30～45cmの2条植。芽を上にして植える。
●植付け種イモ：芽が2～3cm伸びた種イモ（1アールあたり、約20kg必要）。
●植付けの深さ：排水の良い土壌では深さ10cm。
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　10kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：13kg
追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目：本葉2～3枚頃に4kg
◎2回目：本葉5～6枚頃に4kg

●マルチ栽培：全量元肥（苦土入り化成肥料8-8-8を16kg）で、植え付け後、すぐ黒マルチをする。（芽が伸びてマルチを押してきたら、マルチに穴を開けて芽を出してやる。）
●土寄せ(普通栽培)：追肥を施用した都度、土寄せする。
●か　ん　水：乾燥すると発育、収量、品質が悪くなるので、たっぷりとかん水する。



第1回：5月下旬～中旬

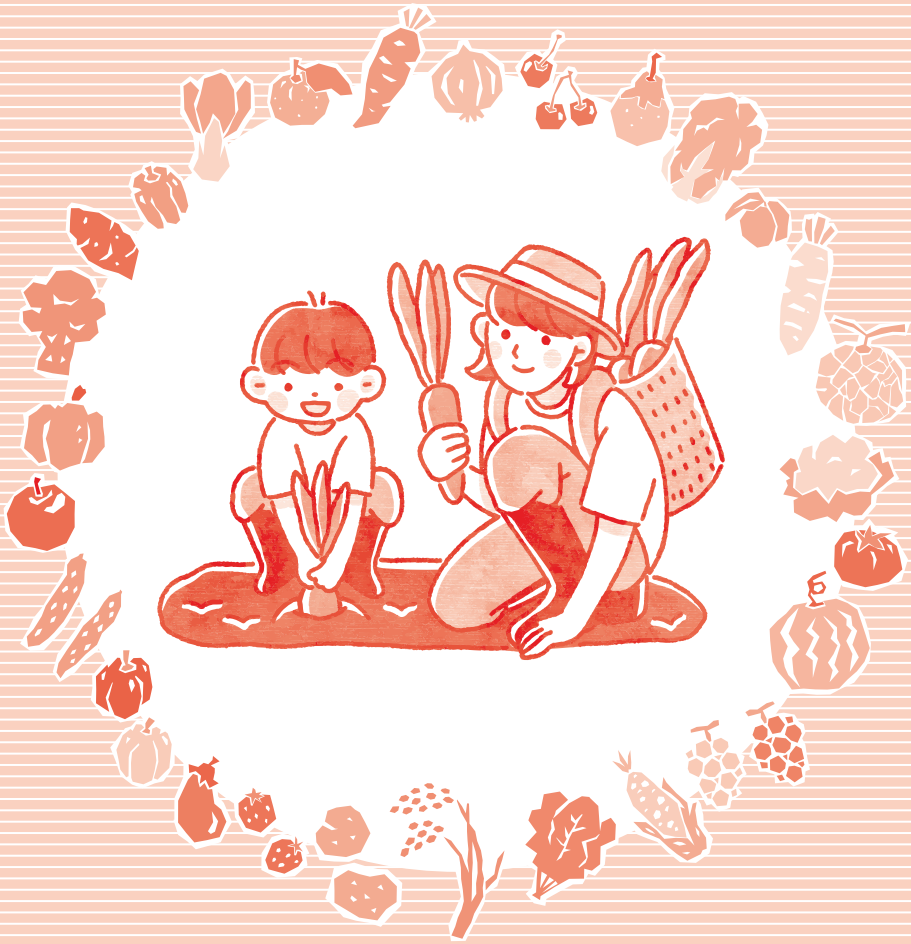


第2回：6月下旬～7月上旬

成功のポイント！

①土寄せが足りないと、子いもの芽が伸びて、いもの肥りが悪くなるため、子いもの芽を埋めるように土をかけて、子いもの肥りを良くする。
②さといもは、高温・多湿を好むため、7～8月にうね間にかん水をすると収量が増える。また、マルチ被覆をしていない場合は、乾燥防止のため、うねに敷きわらをする。

おもしろい農産物づくり



農業者向けLINEにて防除等の情報を配信しています!!

病害虫防除は、発生前や発病初期の対応が大切です。組合員のみなさまが作られる作物を守るため、タイムリーな情報をお届けしますので、

是非、お友だち登録をお願いいたします！



5. じゃがいも

根菜類《ナス科》原産地：南アメリカ

3ヶ月半で種イモの15倍も収穫できる。
品種も多彩になり用途も多い。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春作栽培		×	×			■	■					
秋作栽培								×	×		■	■

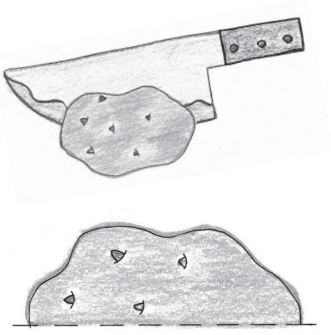
× 植えつけ　■ 収穫

栽培のポイント(春作)

●無病の種イモを使う。(主な品種は、男爵、メークイン、キタアカリ)
●水はけの良いところで栽培する。
●春作は、生育を早めるとともに、雑草防除を兼ねてマルチした方が良い。
●収穫は茎葉が枯れはじめて、土が乾いている時に行う。
●収穫が遅れるとイモは大きくなるが，品質が悪くなり貯蔵性が劣る。
●掘ったイモは、冷暗所で貯蔵し光に当てない。

作　り　方(春作)

●う　ね　幅：1条植…80cm　株間…30cm
　2条植…120cm　株間…30cm(千鳥植)
●種イモ準備：芽の出具合を見ながら、一片が30～40gで芽が2～4個あるように切る。
　切ったイモは1～2日、陰干しして
　切り口が乾いてコルク化してから植える。



●植 え つ け：深さ5～10cmで芽を上に向けて
　植つける。特に霜に弱いので、
　早植えの場合は、やや深めに植える。
●マルチ被覆：植え付け後、一度雨に当て、
　その後うね全面にマルチをする。
　芽が伸びてきたら、暖かい日に
　マルチを破って外へ芽を出してやる。
●芽　か　き：本葉3～4枚になり霜の心配がなくなったら、
　太い芽を2本程度のこす。
●施　肥　例　(1アールあたり)
　元　肥(マルチ被覆の場合は全量元肥)
　◎堆　　肥：150kg
　◎ようりん：　2kg
　◎苦土入り化成肥料8-8-8：15kg

栽培のポイント(秋作)

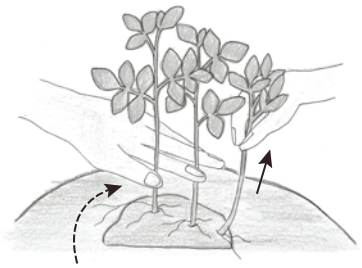
●栽培期間が短いので、休眠の短い品種を選ぶ。(デジマ、ニシユタカ、農林一号)
●肥料は生育が早いので、元肥中心とする。

作　り　方(秋作)

●うね幅・株間：春作と同じ。
●種イモ準備：高温期の植え付けになり、切ると腐りやすいため、種イモは切らずに植える。
①種イモを明るい室内に並べて緑化させる。
②切る場合は植え付け２日前に行い、涼しい所で乾燥させる。
●植 え つ け：8月下旬～9月上旬
高温時期の植えつけのため、わらなどで覆い地温の上昇を防ぐ。
朝夕の涼しい時に、深さ５～10cmで芽を上にして植えつける。
●芽　か　き：芽が10cm位のびた頃に丈夫な芽を2本程度残す。

芽かき





種イモを引き上げないよう
株元を押さえ、斜めの方向に
かき取ると良い。

●土　寄　せ：1回目は芽かき後
２回目は1回目芽かきの20日後(土寄せが浅いと、緑色のイモになってしまう)
●施　肥　例　(1アールあたり)

元　肥
◎堆　　肥：100kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：10kg
◎ようりん：4kg

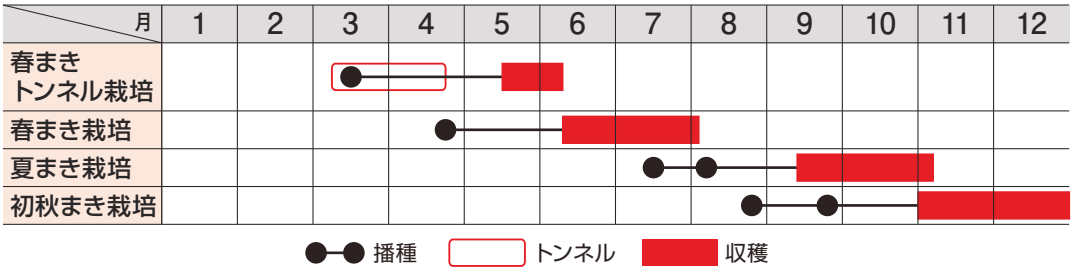
追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎２回目の土寄せ時に5kg

6. だいこん

根菜類《アブラナ科》原産地：地中海沿岸、中央アジア、東南アジアなど諸説ある

古くから栽培され、優れた消化作用と整腸効果がある。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 一般的には暑さに弱く、寒さに強い。
- 耕土が浅すぎたり未熟な有機物、石などがあると根が変形しやすい。そのため、深く耕し、土中の石などを取り除いて栽培する。また排水の良い土壌がよい。
- ウイルス病にかかりやすいので、害虫防除を入念に行う。

成功のポイント！

暑い時期に種まきする場合は、アブラムシの飛来によりウイルス病にかかりやすいので、虫を寄せ付けないように寒冷紗等で被覆する。
未熟な堆肥は、根の変形の原因。堆肥は完熟したものを、早めに施用しておく。



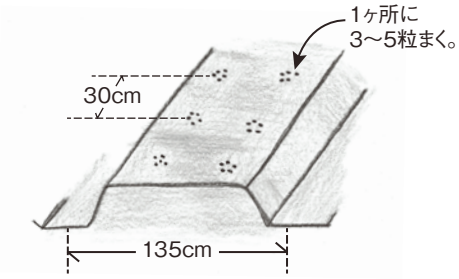
寒冷紗でアブラムシの飛来を防ぐ方法。

品　種

栽培の歴史が古く在来品種も多い。また、品種改良も盛んに行われている。地域や、種まき時期に適した品種を選んで栽培する。たとえば、夏まきには「YRくらま、耐病総太り（タキイ）」、秋まきには「三太郎（タキイ）」、春まきには、とう立ちが遅い（晩抽性）「春神楽、トップランナー（タキイ）」など。

作　り　方

- は　　種：あらかじめ元肥を全面に施用し、深く耕して幅135cmのうねを立てる。うねに2本の浅い条を切り、30cm間隔で種子を3～5粒まく。厚さ約1cmの覆土後、くわで押さえる。は種後は、わらや寒冷紗等で被覆して乾燥を防ぐ。



- 丸大根の場合は、うね幅150cm、株間を45cmと広くする。

●施　肥　例　（1アールあたり）●丸大根は２割多く肥料を施す。

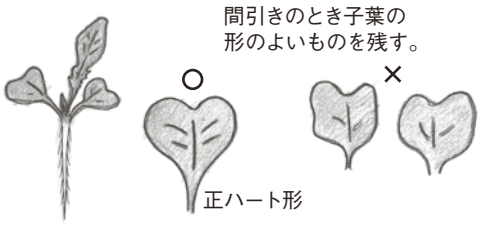
元　肥
◎苦土石灰：15kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：15kg

追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目：本葉2～3枚頃に4kg
◎2回目：本葉5～6枚頃に4kg

●未熟堆肥、鶏糞、油粕類を元肥に入れると、岐根のだいこんになりやすい。

●間引き・中耕：第1回目は、本葉2～3枚頃、2本にして、追肥、中耕、土寄せする。
第２回目は、本葉５～６枚頃、１本にして、追肥、中耕、土寄せする。

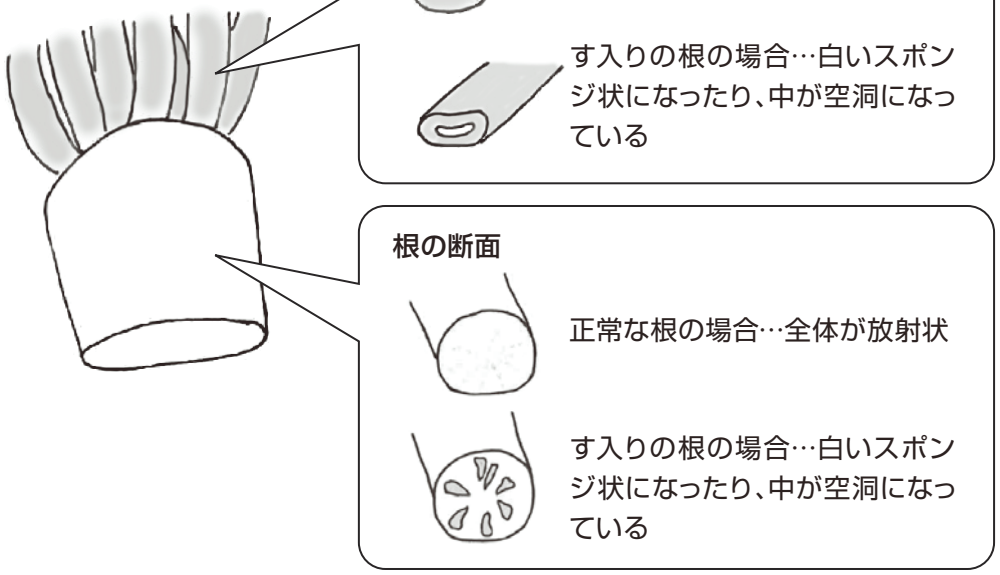
間引きは
①生育の強すぎるもの、遅れたもの。
②葉色が濃く、艶のないもの。
③図のように子葉が奇形のもの。
④病害虫に侵されたものを間引く。



成功のポイント！

間引き時期が遅れないこと。形をよく見定めて入念に行う。間引き後、軽く根元に土を寄せて、ぐらつかないようにする。

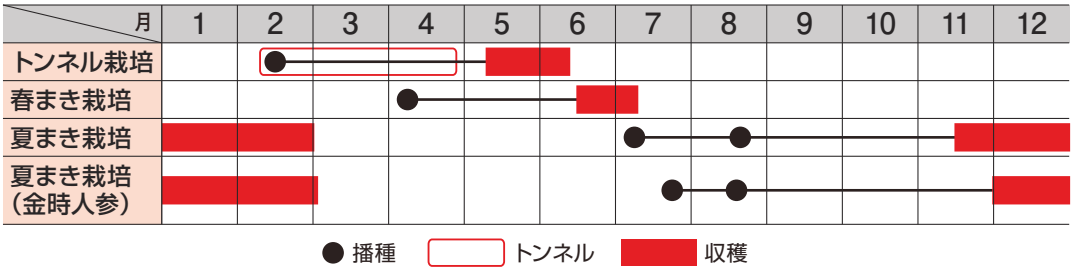
●収　　穫：遅れると根に、すが入って食味が悪くなる。外から２～３枚の葉柄を切ってみて、すが入っているようだと根にも、す入りしている。



7. にんじん 根菜類《セリ科》原産地：アフガニスタン

カロテンを豊富に含み、
ビタミンA効果が高く、B_2、Cも多い緑黄色野菜の代表種。

栽培カレンダー



栽培のポイント

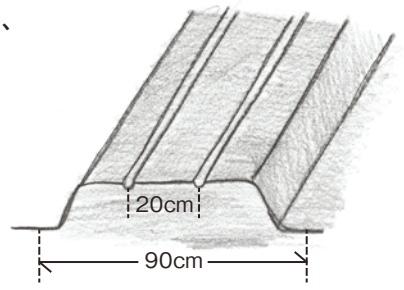
- 涼しい気候を好み、生育適温は15～20℃。生育初期は高温に強いが、生育が進むと夏の暑さで病害が出やすい。このため大阪では、夏まき秋冬どり栽培がしやすい。
- 低温に感応して花芽分化し、高温長日で開花するので春まきでは注意する。
- ネマトーダ(ネコブ線虫)の被害をうけやすいので、前作に被害があったところは避けて栽培する。又初期の雑草は入念に抜き取る。

品　種

品種は金時にんじん等東洋系の長根種と、五寸にんじん等西洋系の短根種に大別されており、現在は短根種の栽培が多い。また長さ10cm程度のミニにんじん等がある。

作り方

- 本ぽ準備：1アールあたり完熟堆肥200kg及び苦土石灰10kgを、土になじませるため、1か月以上前に施しすき込む。
- 施　　肥：元肥を主体とし、1アールあたり苦土入り化成肥料8-8-8を12kg施用する。
- うね立：うね幅90cm。根が十分に伸び、また岐根がでないように、土は細かく砕いて深耕する。排水の悪いところでは、さらに高うねとする。
- は　　種：条間30cmの2条まきとする。にんじんの種子は発芽率が低く、発芽に光が必要なため、まき溝は浅くして、少し厚まきする。は種量は1アールあたり約2dℓ必要。発芽まで時間がかかるため、切りわら・寒冷紗などでおおう。発芽までの間、十分にかん水し乾燥を防ぎ発芽率を上げる。



成功のポイント！

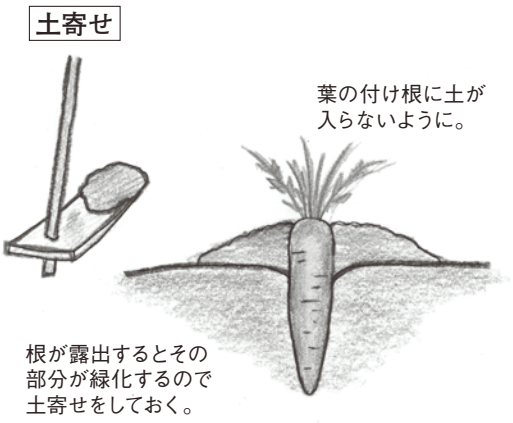
覆土した上に、雨による種子の露出、高温・乾燥防止のため、上に覆いをしておく。

●間　引　き：本葉2～3枚頃に約3cm、本葉5～6枚頃に6～12cm程度の間隔に間引く。間引きが遅れると根の肥大が遅れるので、適期を逃がさないようにする。葉数が多く葉色の濃いものは除く。

成功のポイント！

葉が小さく初期生育は遅いので、雑草にやられやすい。小さいうちから入念に除草し、肥料切れにならないように追肥する。

●追肥と土寄せ：最後の間引きと同時に追肥と土寄せを行う。追肥は1アールあたり苦土入り化成肥料8-8-8を5kg施用する。後半の肥料の効きすぎは根の肥大を悪くし、裂根の原因となるので追肥は遅れないように注意する。



●収　　穫：五寸系ニンジンの場合、地際の根の太さが約4cm程度になったら収穫を始める。品種、作型によって異なるが、収穫までの日数は約100～120日程度が目安である。収穫が遅れると裂根しやすいので注意する。

8. ニンニク 根菜類《ヒガンバナ科》中央アジア

ニンニクは全国で栽培されており、品種も
その地域の気候に合った在来種が多くある。糖質、ビタミンB1が多く、
古くから香辛料や強壮剤として利用。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培						■			×			

× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

- ニンニクの発芽には1ヶ月かかる場合があるので、それ以上かかる場合は丁寧に土を掘って確認する。
- ネダニ類、線虫類の被害が大きいので、健全な種球を購入し栽培する。
- 地域に合った品種を適期に植え付ける。植え付けが遅れると生育が停滞するので注意する。

作り方

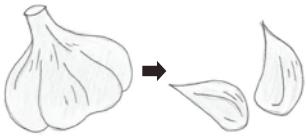
●畑の準備：うね幅120cm、株間12cm、条間20cm、4条植え
1アールあたり約2,700株

●施肥例（1アールあたり）

元肥
◎堆　　肥：200kg
◎苦土石灰：　10kg
◎ようりん：　 4kg
◎苦土入り化成肥料8-8-8：12kg

追肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目：定植40日後に5kg
◎2回目：3月上旬頃に5kg

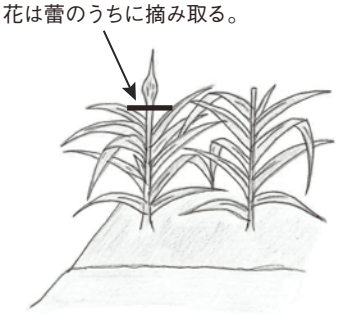
●種球の準備：にんにくの球中に6〜10個のりん片が含まれている。植えつけ前にりん片を丁寧にばらし、病害のついているものは除く。



分球を丁寧にばらし、
小さすぎるりん片は
使わない。

●定　　植：小さすぎるりん片は生育が遅れるので種子に使わない。植え付けの深さは、5cmとし、芽の出る方を上にして植える。

●管　　理：球の肥大をよくするために、わき芽はかきとり1本にする。春になるととう立ちしてくるので蕾は摘み取る。



●収穫・貯蔵：茎葉が3分の2ほど枯れてきたら、晴天の日に抜き取り、根を切り除いて乾かす。10株づつくらいに束ね、風通しの良い軒下などに吊るして貯蔵する。

9. ヤーコン

根菜類《キク科》原産地：南米大陸

整腸効果のあるフラクトオリゴ糖が多量に含まれ、
健康野菜として注目されている。シャキシャキとした食感で
サラダやきんぴらによく合う。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培				×	×						■	

× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

●夏場の高温や乾燥で生長は悪くなる。一方霜にあたると枯れてしまうため、夏場の涼しいところが適地となる。

●圃場は水はけの良い地を選ぶ。高うね栽培が適するが，うね間に滞水しないよう圃場を準備する。

作　り　方

●畑の準備：うね幅100～110ｃｍ、株間40～50cm。1アールあたり200～250株程度用意する。

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥　：200kg
◎苦土石灰　：　10kg
◎大阪北部エコ有機3号：　20kg

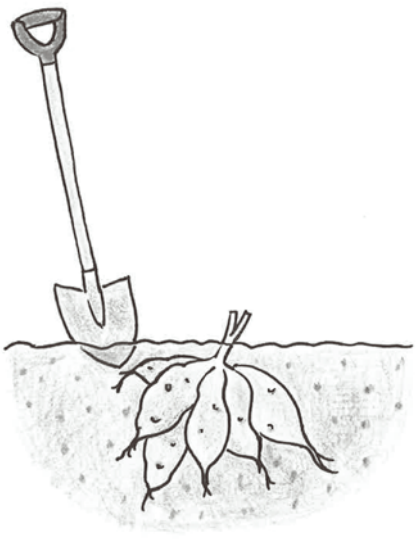
追　肥　大阪北部エコ有機３号
◎植え付け1か月後から1回あたり5kgを1ヵ月ごとに施用する。追肥後は土寄せする。

●育　　苗：苗を購入するか、育苗する場合は一つの種イモから10本程度の芽が出るので、1本ずつポットに鉢上げする。

●定　　植：霜を避けてできるだけ早植えすると生育が進み多収となる。

●か　ん　水：温暖地では、夏から秋にかけての約2か月間生育は停滞し、草勢が衰える。かん水を怠ると年によっては多くが枯れるか、収量は激減する。

●収　　穫：一般に地上部が枯れた頃収穫する。温暖地では、収穫が遅れるほど塊根の裂開が多くなるので、品質を重視する場合は早く掘る。



1. エンドウ

豆類《マメ科》原産地：中央アジア・中近東

紀元前7000年ごろにはすでに栽培されていた非常に古い
栽培作物の一つ。ビタミンB、C、βカロチンのほかタンパク質を多く含み、
収穫の段階によって様々な料理に使える。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき					■	■				●	●	

●―● 播種　■ 収穫

栽培のポイント

●マメ類の連作にならないようにし、日当たりと水はけの良い場所に植え付ける。
●酸性土・過湿を嫌うので、石灰質資材や完熟たい肥を投入し、土づくりに努める。
●種まきは地域に適した品種・時期を選ぶ。
●早まきして大きくなると、厳寒期に寒さで枯れるので注意する。

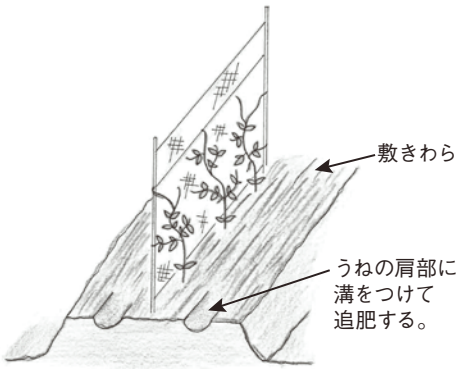
作　り　方

●畑の準備：うね幅150cm、株間30cm。排水が悪いときは高畝にする。
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥　：200kg
◎苦土石灰　：　10kg
◎化成13号：　20kg

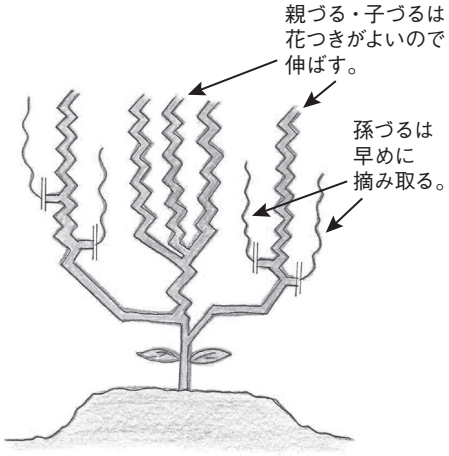
追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
◎1回目：開花期に3kg
◎2回目：収穫始めに3kg

●種　ま　き：1ヶ所に3～4粒まき、3cm程度覆土する。草丈7～8cmのころ、1ヶ所2株に間引く。覆度が浅いと根が浮き上がったり、種皮をかぶったまま発芽してくる。移植を嫌うので直まきがよいが、3号(9cm)ポットに2～3粒タネをまき、本葉が出はじめたころ、畑に植えることもできる。
●支柱立て・追肥：蔓が伸びはじめたら、早めに支柱を立てて誘引する。厳寒期には株元に敷きわらをしたり笹などを立てて、防寒しておく。
畝の肩に追肥をしたときに土を畝に寄せあげる。つるが伸び出したら支柱を立てるか、ネットを張ってつるを誘引し、株元の孫づるを早めに摘み取り、日当たりと風通しをよくして莢つきを促す。



●管　　理：親づると子づるはよく花をつけるので伸ばし、日当たりと風通しを良くするために、花つきの悪い孫づるは早めに摘み取る。

●収　　穫：むき実用品種は開花後35日位で、さやのつやがなくなり、しわが出はじめたころに収穫する。さや用は開花後25日くらい、さやにスジが入らないうちに収穫する。



栽培ミニ知識

実エンドウ・サヤエンドウ・エンドウマメの違い

エンドウは大きく実エンドウ、サヤエンドウ、エンドウマメの３種類に分かれます。実エンドウは未成熟の種子を食べるときの呼び方で、グリンピースがこれになります。サヤエンドウは未成熟の種子をさやごと食べるもので、絹さやのことです。エンドウマメは成熟した種子を収穫するものです。このほか、子実が大きく成熟してもさやごと食べられるスナックエンドウなどもあります。

それぞれ農薬取締法上は別の作物になりますので、農薬を使用するときは、事前に適用作物名をよく確認しましょう。

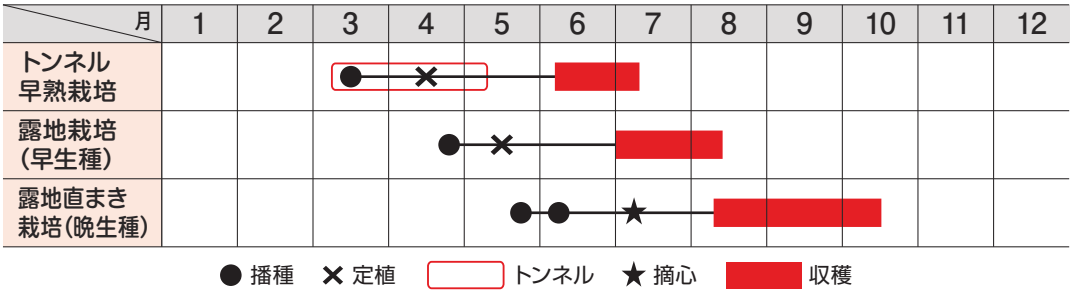


2. えだまめ

豆類《マメ科》原産地：中国北東部

大豆の未熟な若マメ。
「畑のお肉」と言われ、高タンパクで、ビタミンAやビタミンB_1、
植物繊維が豊富で、味よし、色もよし。

栽培カレンダー



栽培のポイント

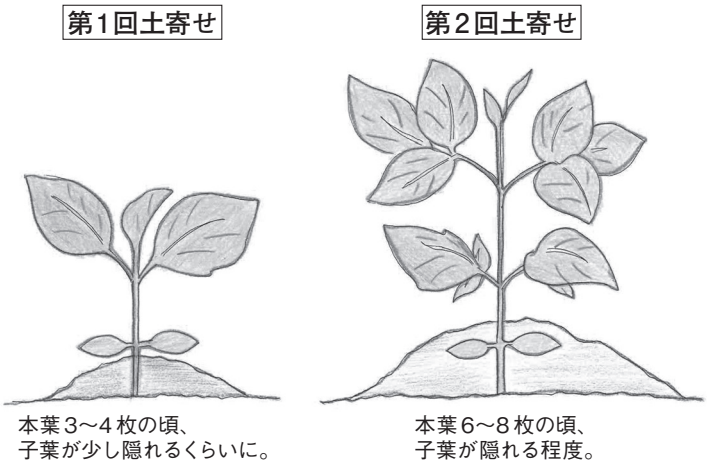
- マメ類の根には空気中の窒素を取り込んで、自分の肥料分として利用する性質があるため、チッソ肥料が多いと茎葉が繁りすぎて子実の着きが悪くなる。
- 品種によって花芽分化の特性が異なり、早生種は感温性、晩生種は感光性であるため、作型にあった品種を選び、適期には種する。

作り方

- 育苗管理：育苗する場合は本ぽ1アールあたり早生種では6dℓ、晩生種で4dℓの種子を準備する。は種は4～5cm間隔に行い、早まきする場合はトンネルなどで保温をしながら育苗する。また、育苗期間中も鳥害対策を行う。
- 本ぽ管理：前作の施肥状況によって苦土石灰等を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 施肥：元肥として1アールあたり化成13号を20kg施用して、全面混和する。前作が野菜の場合はチッソ過多とならないように減らす。
- うね立て：うね幅は早生種で120cm、晩生種で100cmとし、高さ20cmのうねを立てる。
  （直播きの場合）
- は種：1か所に2～3粒ずつは種する。また本葉2枚の頃、1本に間引く。鳥害回避のため、不織布等ベタがけ資材を本葉が出るまで被覆する。
- 定植：早生種は株間25cm、条間40cmの2条植えとし、1アールあたり約660株とする。
  晩生種では株間40cmの1条植えとし、1アールあたり約250株とする。
  植え傷み防止のため、本葉1～2枚の頃までに定植する。

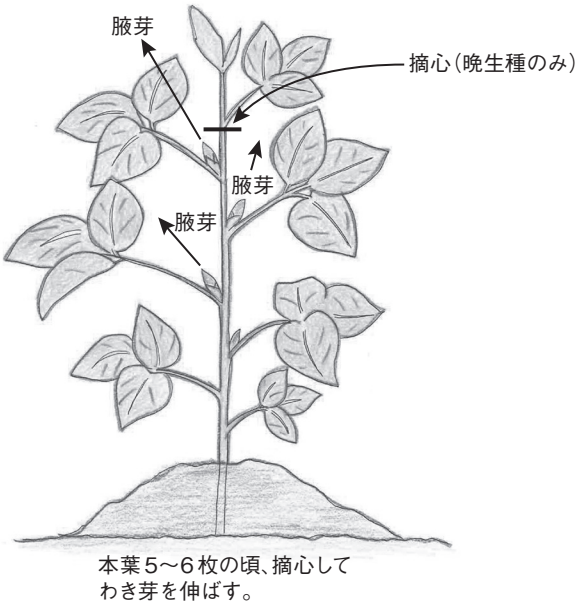
定植後の管理

●土　寄　せ：倒伏防止等を目的に土寄せを行う。



●追　　肥：開花初期に1アールあたり苦土入り化成肥料8-8-8を3kg施用する。
なお、葉色が濃い場合、追肥は不要である。

●か　ん　水：定植時は活着のため、十分かん水する。開花初期には不稔防止のため、うね間かん水を行い、子実の肥大を促す。



●摘　　心：晩生種では子実の肥大や倒伏防止のため、本葉5～6枚時に摘心して、わき芽を伸ばしてサヤの着きを良くする。

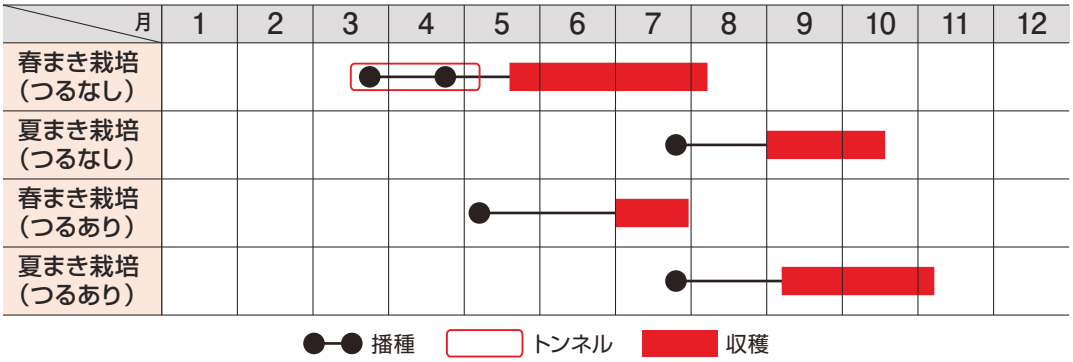
●収　　穫：開花後40～50日頃が目安。普通えだまめはサヤの大部分が充実し、サヤの色が薄緑から鮮緑の残っている頃に収穫できる。
一方、黒えだまめはサヤが薄黄色に熟し、子実が少し黒みを帯びた頃に収穫すると風味が増す。収穫適期は3～4日間と短く、適期を過ぎると過熟になり品質が落ちる。

3. さやいんげん

豆類《マメ科》原産地：中南米

三度豆とも呼ばれ、手軽に短期間で何回もつくれる。
カロテンや食物繊維が豊富で、調理も簡単な便利野菜。
収穫したてがおいしい。

栽培カレンダー

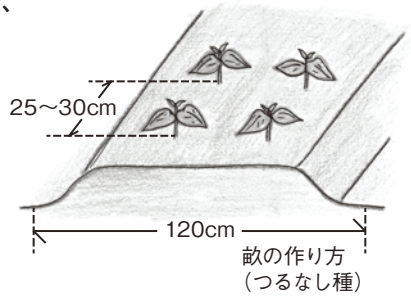


栽培のポイント

●霜に弱いので遅霜に注意。一方、30℃以上では莢つきが悪くなる。
●耐湿性が低いので、排水のよい場所を選ぶ。
●連作障害が出やすいので、同じ場所では2～3年は作付けを避ける。

作　り　方

●うね立て：あらかじめ元肥を全面に施して耕うん後、つるなし種は幅120cm、つるあり種は160cmのうねを立てる。



畝の作り方（つるなし種）

●は　　種：株間は25～30cm（つるなし種）、40cm（つるあり種）の2条植えで、一穴に3粒まきする。種子のへそ部分を下にしてまき、種子が隠れる程度に覆土をする。

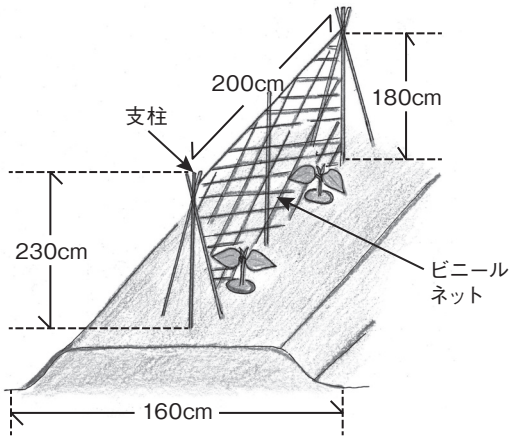
●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
◎堆　　肥　　：200kg
◎苦土石灰　　：　10kg
◎大阪北部エコ有機3号：　15kg

追　肥　大阪北部エコ有機３号（つるあり種のみ）
◎1回目：開花期に5kg
◎2回目：収穫始めの頃に5kg

●間　引　き：本葉2枚の頃に1本（つるなし種は2本）を残し、残りは地際部から切り取る。

● ネット張り：草丈が約20cmの頃に、収穫の作業性を考えて約180cmの高さにきゅう（つるあり種）　りネットを張り、つるを誘引する。



ネットの張り方（つるあり種）

● 敷　わ　ら：敷わらか黒マルチで被覆すれば、乾燥防止・雑草防止や雨水の跳ね上がりで伝染するサヤの腐敗を減らすことができる。また、黒マルチの代わりにシルバーマルチで被覆すれば、アブラムシ類の飛来を避けて、ウィルス病の被害を抑えることができる。

● か　ん　水：開花期に土が乾きすぎるとサヤの着きが悪くなるので、晴天が続いた場合は、かん水をする。土壌マルチをしている場合は、うね間にかん水をする。

4. そらまめ（未成熟）

豆類《マメ科》原産地：アフリカ北部

そらまめは、旬を味わう代表的な野菜で、日本人には
なじみの深い古い野菜。初夏のころ、タンパク質と炭水化物に
富んだ未成熟子実を食用として利用。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき					■	■				●—	—×	

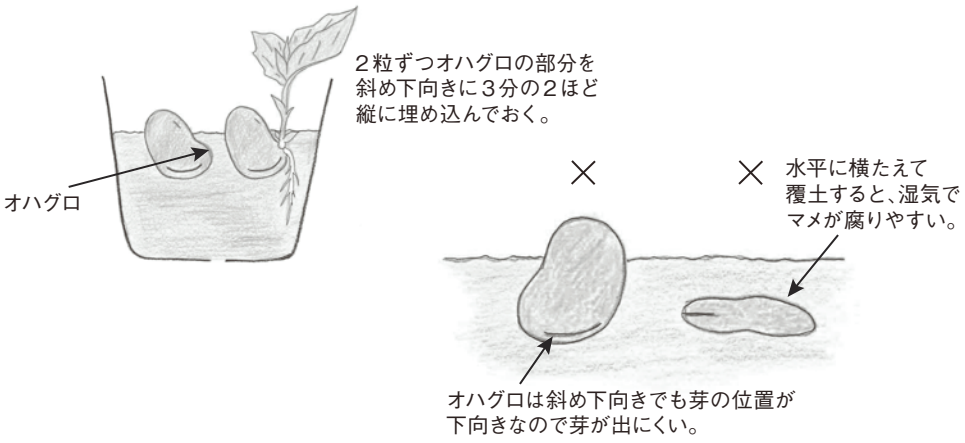
●— 播種　× 定植　■ 収穫

栽培のポイント

- マメ類の連作にならないよう、日当たりと水はけの良い場所に植え付ける。
- アブラムシによりウイルス病が発生するので、縮んだり黄化したりした株は見つけしだい抜き取るようにする。
- マメ科作物の中でも株張りするので倒れないようにビニールひもで引っ張る。

作　り　方

●苗　作　り：直まきもできるが、そらまめは発芽率が悪いので苗作りをした方が得策。3号（9cm）ポットに2粒ずつ、オハグロ部分（へそ）を斜め下にして豆を立て、3分の2ほど用土に埋め込み、水やりする。種を水に漬けたり、横に寝かせてまいて覆土したりすると、腐らす原因となる。



●畑の準備：うね幅120cm、株間30cm、1アールあたり約160株

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥
- ◎堆　　肥：300kg
- ◎苦土石灰：　10kg
- ◎化成13号：　20kg

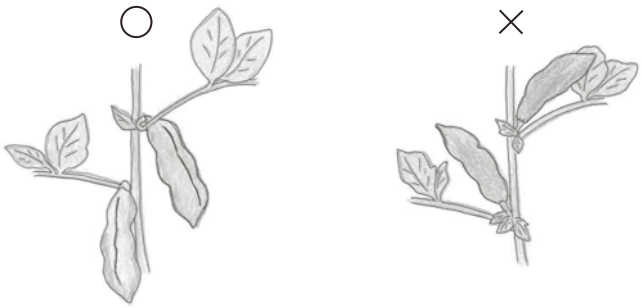
追　肥　苦土入り化成肥料8-8-8
- ◎1回目：開花始めごろに5kg
- ◎2回目：さや肥大期に5kg

●土　寄　せ：12月上旬ごろと3月になって茎の伸長が始まったら、倒伏を防ぐため、株元へ土寄せする。蕾が膨らんで開花し始めたら、根を切らないように畝の肩部に置き肥にし、覆土する。

●か　ん　水：開花結実期は水分を多く必要とする。水分が切れないようにかん水する。

●茎の整理：茎が多く出て込み合ってきたら、遅く出てきた貧弱な茎は切り取って、1株7～8本立ちにする。全体の日当たりをよくしておくとさやつきがよくなり、子実も充実する。

●収　　穫：開花後35～40日が収穫の目安となる。収穫適期はさやが十分に充実し下向きになり、さやに光沢が出て、さやの背筋部が褐色になり、子実の色が緑から緑白色に変わった頃。さやが斜め上に向いているものは未熟。

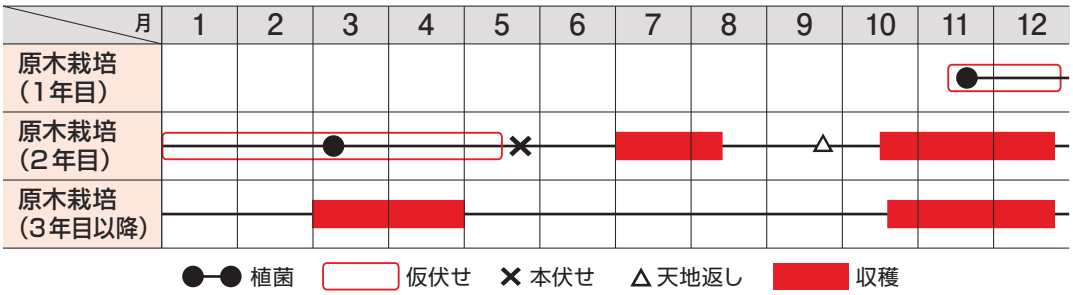


1. シイタケ（原木）

菌類《シイタケ属》原産地：－

食卓に上る機会も多く、最もよく知られたキノコの一つ。
低カロリーにもかかわらず、旨み成分のグルタミン酸や骨を丈夫にする
ビタミンDなど数々の栄養素が豊富に含まれている。

栽培カレンダー

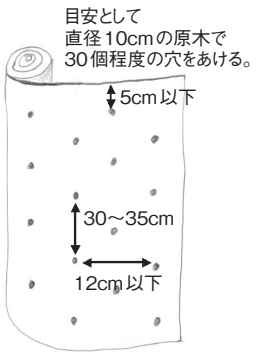


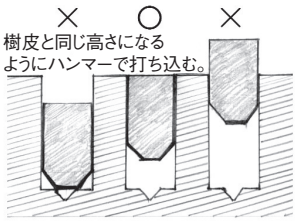
栽培のポイント

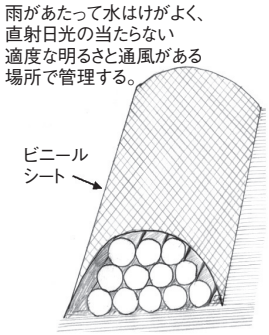
- シイタケはカビの仲間で湿度の高い暖かい環境を好むので、乾燥させないように水分管理に注意する。
- シイタケに使える農薬は数少ないので、病害虫は発生させないよう注意する。

作　り　方

- 原木の調達：シイタケ栽培に用いる木（原木）はコナラ、クヌギが最適で、次いでクリ、シイ、カシが適している。原木は購入するか、秋に紅葉してから芽吹く前までの休眠期（11月から3月頃まで）に伐採したものを使う。伐採後約1ヶ月乾燥させ、栽培に都合の良い1mくらいの長さに切る。
- 植菌（接種）：原木に穴をあけて種菌を植える作業。穴の総数は原木の直径（cm）の3倍程度、列数は直径（cm）の半分以上、1列は6穴とし、千鳥状にあける。種菌の大きさにあったキリで原木に穴をあけ、そこへハンマーを使って種菌を打ち込む。その際、打ち込んだ種菌が樹皮と同じ高さになるようにする。種菌を打ち込んだ木をほだ木と呼ぶ。
- 仮　伏　せ：植菌が済んだら、ほだ木を雨の当たる日陰で薪積みにする。軽く表面がぬれる程度に水をかけ、青色のビニールなどで被覆して、保温・保湿する。ただし、梅雨明けまでこのままにしてしまうと、過湿と高温のため、かびや雑菌が繁殖しやすくなるので、梅雨前に被覆材を取り除く。







●本　伏　せ：ほだ木を雨の当たる日陰で、30～40度くらいに立てかける。適当な壁がなければ、コンクリートブロック2個に片側を乗せる。また、直射日光が当たる場所で日陰がない場合は、遮光率70%以上の遮光ネットで日陰をつくる。この時、ほだ木に直接被せてしまうと、温度が上昇し菌が死滅してしまう恐れがあるので、遮光ネットとほだ木の間には十分な間隔をあける。

●夏場の管理：シイタケは暑さに弱いので、夕方に5分程度十分な散水をしてやると、ほだ木の温度が下がって高温障害を避けることができる。

●天 地 返 し：シイタケを発生させる準備で、気温は20℃くらい、だいたい9月下旬ごろにほだ木の上下を反転させる。

●収　　穫：植菌をした年の秋と年明けの春は、シイタケが発生しないこともある。発生しても基本的に収穫量は少なく、本格的にとれるのは夏を2回越した秋からになる。

●収穫後の管理：夏までは1週間以上降雨がなければ散水し、夏からは「夏場の管理」以降の管理を行う。

V 果　樹

1. 果樹苗木の植え方

果樹植え付けカレンダー

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
落葉果樹	生育		⇒⇒⇒⇒⇒		☆☆	★★	★★☆☆☆☆						▼▼▼	⇒⇒⇒
			休眠		梅		無花果 柿	栗					落葉	休眠
	作業		→→→→→→		○○						→→→	○○○○○○○		
			植穴準備		春植(3月中～下旬)						植穴準備	秋植(秋分～11月)		
常緑果樹	生育		☆☆☆☆			★★	☆☆							☆☆☆☆☆
			びわ				みかん							びわ
	作業		→→→→→→→		○○									
			植穴準備		春植(春分頃)									

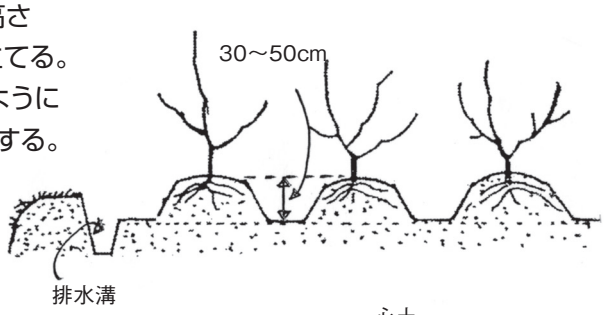
凡例…⇒：休眠、☆：開花、★：発芽、▼：落葉、○：植付け

植える場所を選ぶ　適地適作が成功のポイント。

①日当たりの良い場所(少なくとも半日、できれば午前中は日光が当たる場所。)
②排水の良い場所(果樹が育つためには、養水分を吸収する根を発育させる。)

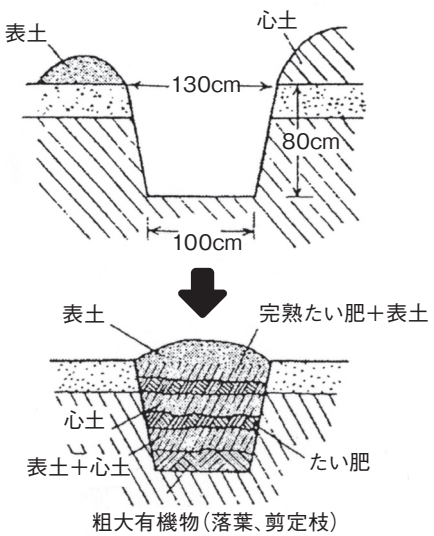
植える場所の整備　水田で果樹を植える場合は、排水対策が必要。

①高うねにする：排水の悪い場所では、高さ30～50cmのうねを立てる。
②排水溝を掘る：園内に水が停滞しないように溝を掘って、園外に排水する。



苗木の植え穴の準備

①野菜と異なり、果樹は一度植付けると、少なくとも10年以上も同じ場所で栽培を続ける。栽培中に樹を植えかえたり、根を掘り起こすのは難しい。
②苗木の植付け前に、右図のようにできるだけ大きな穴を掘り、下層部には落葉や剪定枝などを、その上には掘った土に堆肥(20kg)や石灰(5kg)、ようりん(5kg)を混ぜて埋め戻しておく。植え穴は、植え付けの1ヶ月以上前に準備して、埋め戻した土が沈み込み、投入した資材を土に馴染ませておく。



苗木の準備

①苗木が悪いと活着に時間がかかったり、植え付け後の生育が悪く、病害虫の被害も受けやすくなる。
⇒⇒細根が多く、節間のつまった病害虫にかかっていない苗を選ぶ。

②苗木入手後、根を水に一日浸けて吸水させておく。
（ポット苗は不要）
すぐに植えない場合は、排水が良い場所に仮植えしておく。

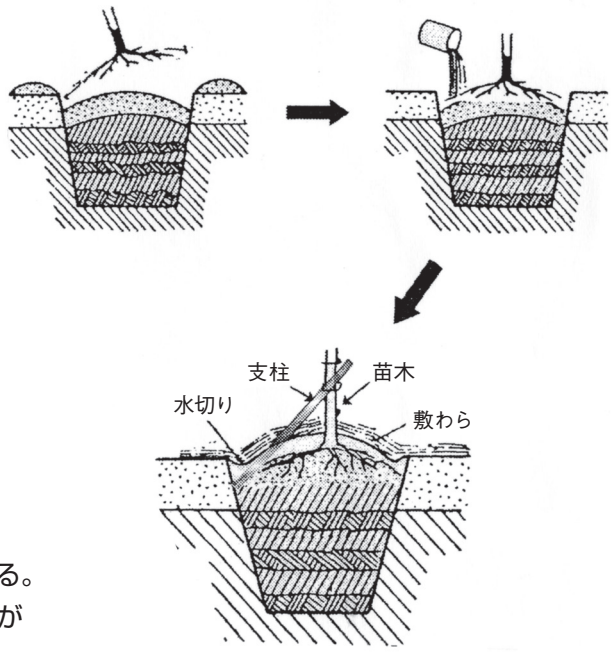
③植え付ける時は、根を乾燥させないようにして、折れた根や太すぎて長い根を切り返す以外、できるだけ切らないようにする。

④苗木は仕立て方により違うが、25～70cmの長さに切り返す。長いまま苗木を植えると、芽数が多すぎて養分が分散され、植え付け後に伸びる新梢が弱くなり、太い主枝が作れない。

⑤多くの果樹では、一品種だけ植えても果実がならない。又、なりにくい性質がある。
⇒⇒うめ、くり、すもも、なし、りんご、さくらんぼ、等
●異なった品種でも、授粉授精の相性が悪く、結実しにくいものもある。
雌花（めしべ）を着ける雌株と雄花（おしべ）を着ける雄株が別々の果樹もある。
⇒⇒キウイフルーツ、さんしょう、やまもも、かき（雄花がない品種もある）、等
⇒⇒2つ以上の品種を、授粉用に混ぜて植える。

苗木の植え付け方法　深植え厳禁！

①埋め戻した植え穴を苗木の根が入る大きさに浅く掘る。苗木を植えたときに根の周囲が下がるように、穴の底を丘状に中央を高くしておく。
②生育中に樹が沈んだり土が流れ込み、接ぎ木部が土に埋まると樹勢が弱まる。
⇒⇒接ぎ木部が土に埋まらないように浅く植え付ける。
③苗木を植え穴に置き、根を広げ、土を入れて根と土に隙間がないように、軽く踏み固める。途中でかん水して根と土を馴染ませる。
敷きわら（草）や堆肥などで被覆する。
④植えた苗木は、支柱を立て、風で根が動かないように固定する。



2. 果樹の整枝・剪定の方法

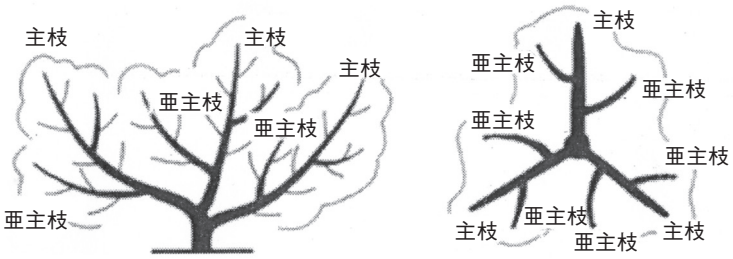
整枝・剪定の目的 美味しい果物を、毎年、楽してつくるために。

①枝を剪定して花芽を減らし、果実がなりすぎて樹勢が弱るのを防ぐ。
②樹全体に太陽が当たるように、また樹の内部や樹間の通風を良くして、果実の品質を高めたり、病害虫の発生を減らす。
③収穫や栽培管理、農薬散布がしやすいように樹高を下げたり、不要な枝を切る。
④日陰をつくる枝を剪定して、枝の枯れ込みを防いだり、充実した枝をつくる。

整枝方法 日当たりが良く、栽培が楽な枝ぶりを目指す。

①開心自然形整枝（うめ、びわ、さんしょう、みかん、もも、他）

骨格となる主枝３本を均等に配置。主枝は地面に対し、約60度の角度で伸ばす。各主枝に、それに次ぐ太さで、主枝より緩い立ち角度で、亜主枝２本を約1m間隔で配置する。（図-1）



開心自然形整枝を横から見る。　開心自然形整枝を上から見る。

（図-1）

②変則主幹形整枝（かき、くり、さんしょう他）

植付け５～６年目までは主幹形で育て、そのあと主幹の途中から間引く心抜きをする。（図-2）



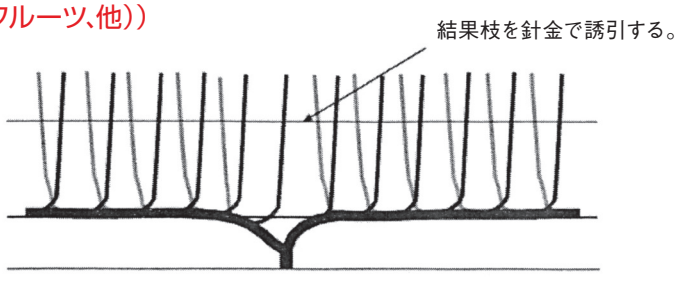
５年～６年目の冬。　心抜き後、変則主幹形が完成。

（図-2）

③一文字整枝（いちじく、他）

主枝２本を水平に伸ばし、その主枝20cm間隔で結果枝を交互に出す整枝方法。（図-3）

④他（杯状形整枝（いちじく、さんしょう、他）、棚栽培用の整枝（ぶどう、キウイフルーツ、他））



一文字整枝の完成図

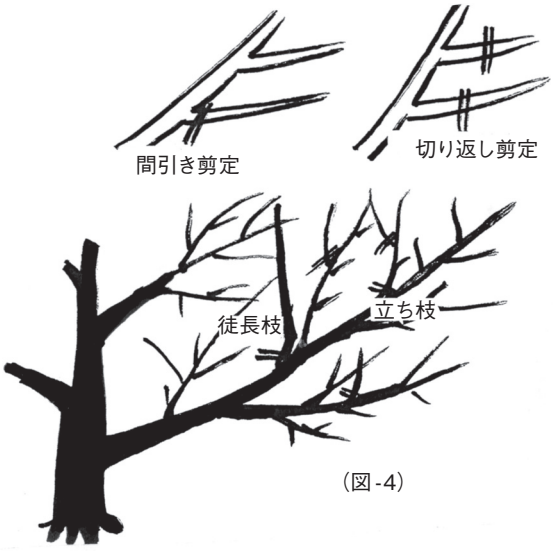
（図-3）

整枝の基本　元気な主枝（骨格）をつくれば、栽培が楽になる。

①主枝、亜主枝は樹の骨格となる太い枝。剪定の前に、樹の周りを回りながら、太い枝の配置をどうするかを決める。

②次に、主枝、亜主枝の生育を妨げる枝
⇒主枝、亜主枝に陰をつくる枝
⇒主枝、亜主枝よりも太くなり
そうな枝（図-4）
を間引き剪定し、主枝を2～4本、亜主枝は各主枝に2～3本配置する。

③幼木・若木の時から、これを意識して整枝剪定すれば、後で大きな切り口をつくらずにすむ。



（図-4）

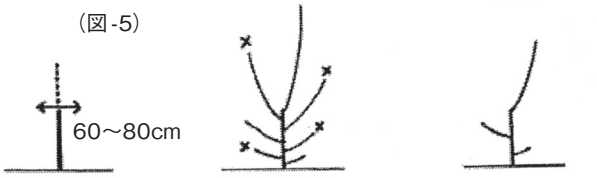
剪定の手順と方法　いつでも間引き剪定。肥培管理も一緒に！

（1）幼木・若木の剪定　主枝をつくる植付け1～3年の剪定が決め手。

①開心自然形整枝や杯状形整枝の場合：

苗木植付け時に、60～80cmまで切り返す。1年目に伸びた枝から、太さや伸びた方向、枝の発生位置から主枝候補2～3本を選び、先端を1/3程度切り返して支柱で誘引する。また、この主枝候補より強くなりそうな枝を間引く程度で、なるべく多くの枝を残す。2年目は、主枝候補から伸びた強い枝を第3主枝候補にして、主枝候補を弱める枝を間引く程度に軽い剪定をする。3年目以降の若木も主枝と競合する枝を間引く。（図-5）

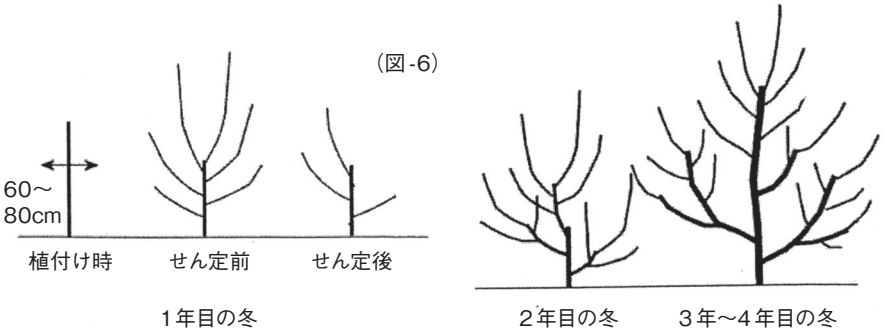
（図-5）



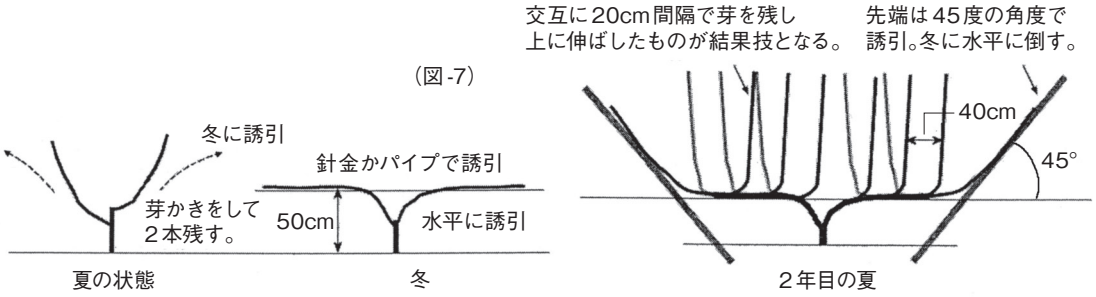
②変則主幹形整枝の場合：

苗木植付け時に、60～80cmまで切り返す。1年目に伸びた枝のうち先端部分の強い枝を主幹として残す。この枝と競合する強い枝は間引く。中間より下部の枝は残す。2～5年目までは、主幹をどんどん伸ばすように、競合する枝を間引き、1本のまっすぐ立ち上がった樹形（主幹形）にする。また主枝候補枝を3～4本選んで育てる。6年目頃に、主枝候補3～4本を残して、それより上の主幹を切る（心抜き）。（図-6）

（図-6）



③ 一文字整枝の場合：苗木植付け時に、30cm前後まで切り返す。上部の左右に２芽残し、他は欠き取る。この２芽を45度の角度で竹などに誘引して伸ばす。冬にこの２本の枝を長さ1m程度で切り返し、地上50cmでパイプに水平に誘引する。２年目の冬に、主枝先端の斜めに誘引した新梢を1m程度で切り返し、水平に誘引し主枝を延長する。(図-7)
結果枝は２芽残して切り返す。



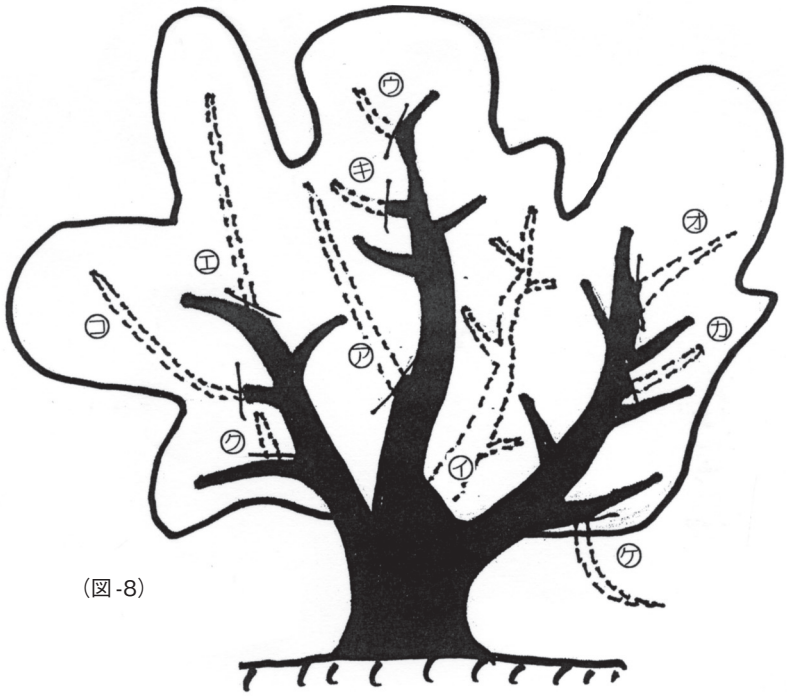
(図-7)

(2)成木(開心自然形)の剪定 主枝を弱める枝と日陰をつくる枝を間引く。(図-8)

① まず骨格をつくる。
㋐、㋑ ：切って、3～4本の主枝を決める。そうすれば、ふところまで光が入る。

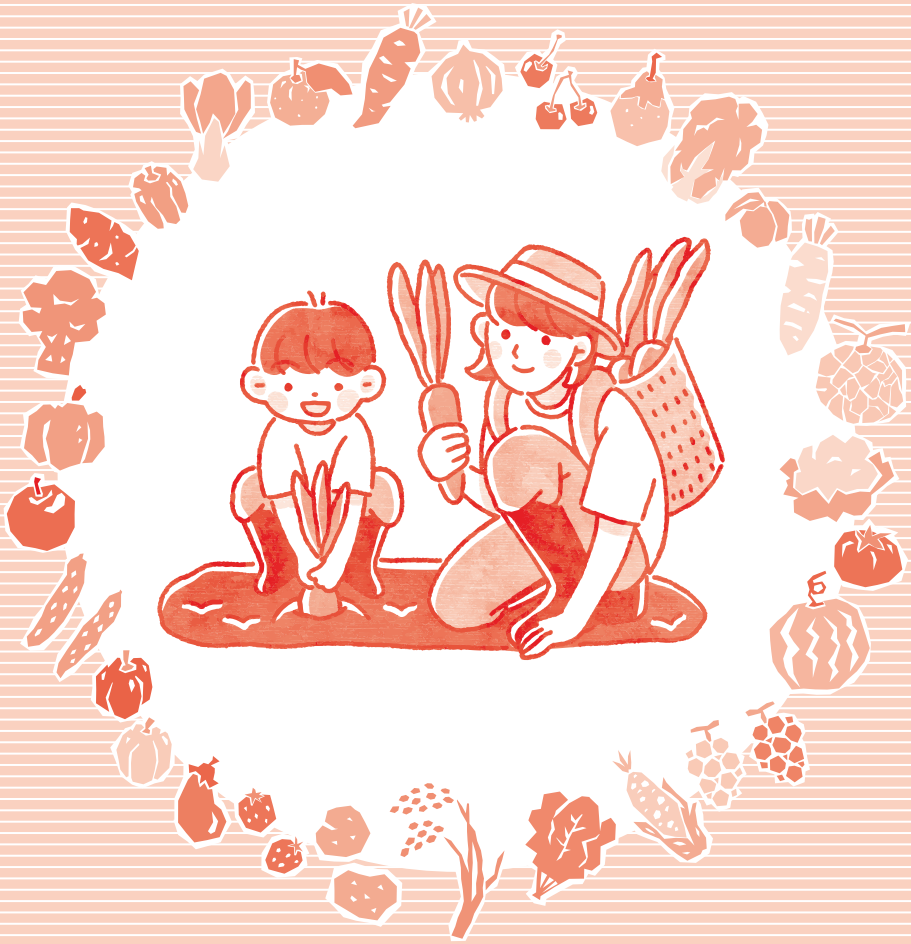
② 主枝の先端から剪定をする。(枝を切りすぎないために)
㋒：主枝先端の競合する新梢は1本だけ切り返し、残りは間引く。
㋓：上に伸びすぎた枝は、外側に伸びる枝まで切り下げる。
㋔：外に広がり下枝に陰をつくる枝は間引く。

③ 亜主枝、その他の枝の剪定。
㋕：亜主枝が重なった枝は、その下枝にも光が当たるように間引く。
㋖：主枝の先端付近の枝が長いと、下枝が陰になり枯れ込みやすいので短く切り返す。
㋗：上向きの強い枝（徒長枝）は、付け根から間引く。
㋘：垂れ枝は、果実の品質が悪く日陰をつくるため、上向きの分岐まで戻して間引く。
㋙：長い枝は、主枝に近い部分で葉や果実を多く着ける樹づくりのため、適当な位置まで切り返す。



(図-8)

やさしい農産物づくり



農業者向けLINEにて防除等の情報を配信しています!!

病害虫防除は、発生前や発病初期の対応が大切です。組合員のみなさまが作られる作物を守るため、タイムリーな情報をお届けしますので、

是非、お友だち登録をお願いいたします！



3. いちじく

果樹類《クワ科》原産地：アラビア半島南部から、シリア、トルコ

日本には江戸時代の初めに
中国華南から伝わったとされる。タンパク質分解酵素が含まれ、
消化を助け、便秘を緩和する働きがある。

栽培カレンダー

●主な品種：桝井（ますい）ドーフィン（果実は80g前後で、品質は中。成熟期は秋果８月上旬
：蓬莱柿（ほうらいし）（果実は60g前後で、品質は中の上。成熟期は８月下旬～）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 休眠				⇒⇒ 発芽	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 新梢伸長						⇒⇒⇒⇒ 落葉・休眠
					⇒⇒⇒ 着果始	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大・成熟						
主な作業	⇒⇒ 土壌改良	⇒⇒⇒ 剪定			⇒⇒⇒⇒⇒ 芽欠き			⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 収穫				⇒⇒ 剪定
			⇒⇒ 元肥			⇒⇒ 追肥①		⇒⇒ 追肥②			⇒⇒ 礼肥	

栽培のポイント

●葉からの蒸散は多く、根が浅いので、夏に乾燥させると果実の肥大や枝葉の生長が悪くなるため、頻繁にかん水が必要。
●一方、いちじくの根は湿害に弱いため、水はけの良い土を好む。
●挿し木で簡単に発根し殖やせる。しかし同じ場所で連作すると生育が悪くなる。
●樹の生長が早く、植え付け間隔は3m以上必要。結果枝は基部の太さが百円玉ぐらいで、斜め上から直立方向に伸ばせば樹勢が安定し、果実も肥大する。

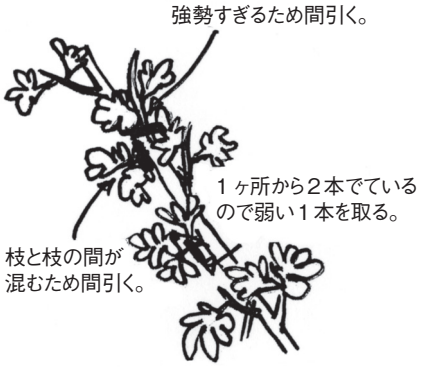
作　り　方

●施　　肥：樹1本当たり、大阪北部エコ有機3号、年間3kg程度を表の時期に分けてやる。（3年生以上の成木の場合）
成木の施肥量に対して、植付け１年目は３割、２年目は７割程度とする。

施肥時期	3月上旬（元肥）	6月上旬（追肥①）	8月中旬（追肥②）	11月上旬（礼肥）
施肥量	1.5kg	0.5kg	0.5kg	0.5kg

元肥は、根が活動を始める直前の３月上旬に施用し、発芽後の新梢伸長を促す。追肥は、枝葉の生長（6月）と果実肥大（8月）のため、樹勢をみて根痛みを防ぐため少しずつ分けて施す。礼肥は、樹勢を回復させ、寒凍害の予防のため、根がまだ活動している11月上旬に施用する。

●芽　欠　き：枝の繁茂を防いで、通風や日当たりを良くして、果実の肥大や着色、糖度を高めたり、病害虫の発生を防ぐ。また結果枝の太さや強さを揃えて、果実品質を揃えたり、管理作業を楽にする。
１回目は５月上旬、葉が２～３枚（長さ５～6cm）の頃に、できるだけ枝の側面から伸びている芽で太さの揃った２本を残して、他は欠き取る。
２回目は６月上中旬、葉が７～８枚（長さ約20cm）の頃に、結果枝が混み合わない程度（結果枝の間隔が約30cm）に弱い枝を欠き取る。



●油処理（熟期促進）：成熟を7日程度早める方法。果実が大きくなり果皮が緑色から黄色味を帯びて、頂部の目の部分が赤くなる頃に、サラダ油を1滴、目の部分に付ける。処理後7日程度で熟する。処理が早すぎると、果実があまり肥大せず正常に成熟しない。

●土 壌 改 良：弱アルカリ性土壌が適しているため、根が活動していない1～2月に、苦土石灰を成木1本当たり10kg施用して、土壌表面を軽く耕うんする。

●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）
：整枝は、一般的には杯状仕立てを、またはパイプ、針金等支柱が必要だが管理しやすい一文字仕立てとする。杯状仕立ては、勢力の強い主枝を3本決め、それぞれに主枝よりも角度の低い亜主枝を、日当たりが良いように配置する。
一文字仕立ては、主枝２本をパイプに水平に誘引して伸ばし、その主枝から20～25cm間隔で交互に結果枝を出す。
成木の剪定は、新梢の基部から２芽残して、３節目のすぐ下で切る。

4. うめ

果樹類《バラ科》原産地：中国（四川省、湖北省）、台湾、日本列島（南部）

初めは観賞用として栽培。
食用としての栽培は江戸時代中期以降。アルカリ食品として
健康への関心の高まりから需要が増加。

栽培カレンダー

●主な品種：南高（なんこう）（果実が大きく、梅干し向き。受粉樹が必要）
鶯宿（おうしゅく）（梅酒用の品種。花粉が多く受粉樹に適している。）
甲州最小（こうしゅうさいしょう）（小梅。花粉が多く受粉樹に適している。）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒ 休眠			⇒⇒⇒ 発芽	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 新梢伸長						⇒⇒⇒ 落葉	⇒⇒⇒ 休眠
		⇒⇒⇒⇒ 開花		⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大			⇒⇒⇒⇒ 来年の花芽分化					
主な作業	⇒⇒⇒ 剪定					⇒⇒⇒ 収穫						⇒⇒⇒⇒ 剪定
					⇒⇒ 追肥		⇒⇒ 礼肥				⇒⇒ 元肥	

栽培のポイント

●同じ品種の花粉では結実しない品種がある（南高、白加賀など）。この品種を栽培する場合は、必ず、受粉樹や異品種を混植する。
●根が浅く、夏の乾燥で樹が枯れることがあるので、梅雨明け前に敷きわら（草）をしたり、冬に深耕して有機物を入れて根を深く張らせる。
●梅は、夏までに収穫が終了する。しかし、来年の生育や開花・結実に必要な養分を作り、貯えるために収穫後の肥培管理が大切である。

作り方

●施　肥：樹1本当たり、大阪北部エコ有機3号、年間7kg程度を下表の時期に分けてやる。（7年生以上の成木の場合）
成木の量に対して、植付け1～2年目は3割、3～6年目は6割程度とする。

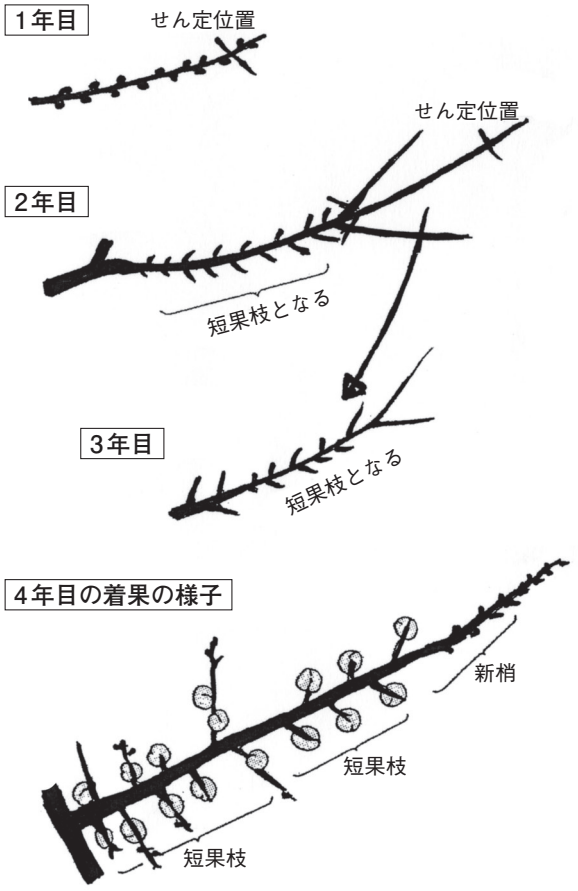
施肥時期	4月下旬（追肥）	7月下旬（礼肥）	11月上旬（元肥）
施肥量	1.5kg	1.5kg	4.0kg

元肥は、根が活動している11月上旬に施用する。そうすれば冬の寒さにも耐え、開花が揃い結実が良くなる。追肥は4月下旬に施用し、新梢を伸ばして果実を肥らせる。礼肥は果実収穫後の7月下旬に施用し、結実による樹勢の衰弱を回復させる。うめは収穫時期が初夏のため、礼肥の施用が早すぎると、夏秋の枝が伸びすぎたり、来春の着花が減る原因になる。

●収　　穫：梅干し用品種は、果皮色の緑色が薄れ、日当たり面が少し着色始めた頃が適期。梅酒用品種は、それよりも早く、果皮が淡黄色に色づいてからでは遅い。果実の温度が低い早朝に、少し回すように引きちぎると簡単に穫れ、果実も傷みにくい。

●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）

：整枝は開心自然形になるように、強い主枝を3本決め、それぞれに主枝より角度の低い亜主枝や側枝を、日当たりが良いように配置。徒長枝には、花は着きにくい。20cm以下の枝に花がよく着く。特に10cm以下の短い枝に、良い果実がなりやすい。剪定は短い枝を多く出させるため、長く伸びた枝を30～50cmに切ると、切った先端付近からは長い枝が伸びるが、基部の方には短い枝が伸びて花芽を着ける。但し、長い枝や徒長枝を途中で切り返すと、毎年徒長枝が多く出て、この枝の下枝の日当たりが悪くなるため、枝分かれした基部から間引く。



5. 温州みかん

果樹類《ミカン科》
原産地：中国から日本に持ち込まれた種から発生

皮が薄くて食べやすいのが特徴。
ビタミンC、カリウム、カロテンなどの多くの機能性成分を含む。

栽培カレンダー

● 主な品種：宮川早生（みやがわわせ）（果実は丸く、皮が薄くて食べやすい。）
：収穫時期10月下旬～11月下旬
興津早生（おきつわせ）（宮川早生にカラタチを受粉して生まれた品種。果実は平たく、味は濃い。）
：収穫時期10月下旬～11月下旬
青島温州（あおしまうんしゅう）（果実は平たく、皮は早生みかんよりも厚めだが、皮は手で剥きやすい。）
：収穫時期12月中旬～12月下旬

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 休眠				⇒⇒ 発芽		⇒⇒⇒⇒⇒ 夏枝伸長		⇒⇒⇒⇒ 秋枝伸長			⇒⇒⇒ 休眠
					⇒⇒ 開花	⇒⇒⇒⇒ 生理落果		⇒⇒⇒⇒ 果実肥大・成熟	⇒⇒⇒⇒	⇒⇒⇒		
主な作業		⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 剪定					⇒⇒⇒⇒ 摘果	⇒⇒⇒⇒	⇒⇒	⇒⇒⇒⇒ 収穫	⇒⇒⇒⇒	⇒
			⇒⇒ 元肥							⇒⇒ 追肥		

栽培のポイント

● 豊作と不作の年が交互にくる『隔年結果』になりやすいが、摘果や剪定などで影響を減らせる。

● 土中の水分が多すぎると品質が悪くなるため、平坦地では排水溝を掘る等の排水対策をする。

作り方

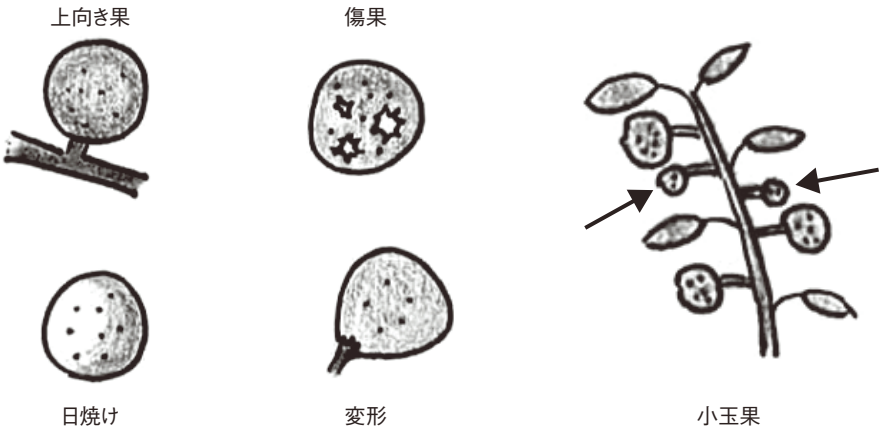
● 施　　肥：樹1本あたり、大阪北部エコ有機3号、年間3kg程度を表の時期に分けてやる。（10年以上の成木の場合）
成木の施肥量に対して、植え付け1、2年目は成木の3割程度、3～4年目は5割程度、5～8年目は7割程度とする。

施肥時期	3月上旬（元肥）	10月中旬（追肥）
施肥量	2.0kg	1.0kg

元肥は、根が活動を始める直前の3月上旬に施用し、発芽後の新梢伸長を促す。追肥は樹勢を回復させるため、10月中旬に施用する。

● 摘　　果：実が着きすぎていると樹にかかる負担が大きく、小玉果が増えて味も悪くなる。6月には生理落果で自然と実が落ちる。開花から50日ほどたち6月末頃になると自然に落ちる実がなくなるため、摘果を始める。9月末までに3回ほどに分けて、下図を参考に葉20～25枚に1個残す程度まで摘果する。もともと着果の少ない樹では9月に一度摘果するだけでも良い。

摘果する果実



●剪　　定：昨年の着果量から整枝･剪定の程度を決め、切る枝は全体の2～3割に抑える。前年の着果が多かった樹の剪定はなるべく遅く、軽めの剪定とする。前年の着果が少なかった樹は早めに剪定を開始し、切り返し剪定を主体として新梢を出すようにする。枝が混み合い風通しが悪い場所は、枝を基部から切り落とす間引き剪定をする。

●収　　穫：果実が完全に着色した実を収穫する。高いところから果実を落とすと傷みが早いため気を付ける。収穫はハサミで2度切りをして、実を傷つけないように気を付ける。

6. か　き

果樹類《カキ科》原産地：東アジア（中国、日本など）

日本原産の果樹で、日本の気候風土に適している。
昔から「柿が赤くなると医者が青くなる」と言われるほどの
健康食品。

栽培カレンダー

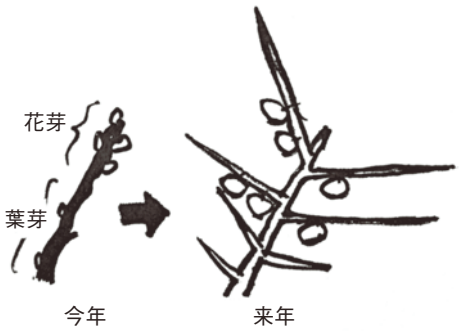
●主な品種：平核無（ひらたねなし）（種なしで、渋柿の代表品種。受粉樹不要。成熟期は10月中旬～）
富有（ふゆう）（種ありで、甘柿の代表品種。受粉樹必要。成熟期は11月上旬～）
禅寺丸（ぜんじまる）（種ありで、甘柿。花粉が多く受粉樹に適。成熟期は10月中旬～）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 休眠			⇒⇒⇒ 発芽	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 新梢伸長		⇒⇒⇒⇒ 来年の花芽分化				⇒⇒⇒ 落葉	⇒⇒⇒ 休眠
					⇒⇒⇒ 開花		⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大・成熟					
主な作業	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 剪定						⇒⇒⇒ 摘果				⇒⇒⇒⇒⇒ 収穫・脱渋	⇒⇒ 剪定
			⇒⇒ 追肥①				⇒⇒ 追肥②					⇒⇒ 元肥

栽培のポイント

●前年に果実のならなかった太く充実した枝の先端部分に花芽が着く。この花芽が発芽して新梢が伸び、それに着花・結実する。

●柿の花は雄花と雌花が別。雄花がない品種（富有）は、禅寺丸などの受粉用品種を混植すると結実も品質も良くなる。平核無は受粉せず種ができなくても良く結実し品質も高い。



●柿は豊作と不作の年が交互に（隔年摘果）なりやすいが、摘果や剪定などで防げる。

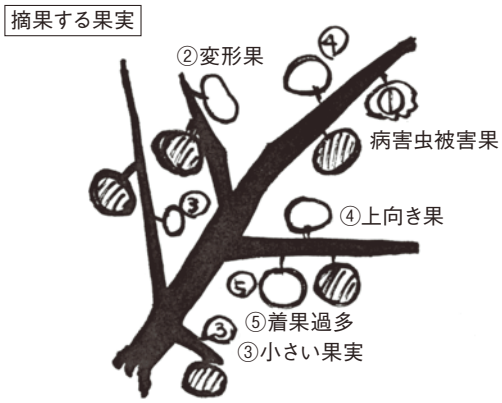
作　り　方

●施　　肥：樹1本当たり、大阪北部エコ有機3号、年間10kg程度を下表の時期に分けてやる。（8年生以上の成木の場合）
成木の量に対して、植付け1～2年目は3割、3～7年目は6割程度とする。

施肥時期	3月下旬（追肥①）	7月上旬（追肥②）	11月下旬（元肥）
施肥量	2.0kg	2.0kg	6.0kg

元肥は根が動いている11月下旬に施用すれば、冬の寒さに耐え、開花が揃い結実が良くなる。追肥は発芽前の3月下旬と、果実が肥大する7月上旬に施用する。隔年結果を防ぐため、元肥と春の追肥は、豊作樹は少し早めに量も多く、逆に不作樹では少し遅く量も少なくする。

●摘　　果：摘果しないと成りすぎて小玉果が多く味も悪くなる。また、養分を使いすぎて翌年の着花・結実が悪くなる。摘果は、6月下旬～7月中旬までに、右図を参考にしてへたが大きな果実を、結果枝に1～2個残す。



●脱　　渋：渋柿の脱渋方法には、干し柿、アルコール、炭酸ガス、湯抜き、樹上脱渋がある。いずれも水溶性タンニンを不溶性に変え、舌が渋く感じないようにするもの。

アルコール脱渋は、度数35度の焼酎を果実10kgに対し100cc使用する。箱に大きなビニール袋を入れ、袋の底に新聞紙を敷き、その上にへたとへたを合わせて並べる。そこに焼酎を吹き付け、これを繰り返し、積み上げて容器を密閉する。脱渋期間は20℃で5～6日。

炭酸ガス脱渋は、10ℓの容器にドライアイス20gを使い、アルコール脱渋と同様に果実を並べ、ドライアイスを新聞紙で包み、果実に直接当たらないように上に乗せ、20℃で3～4日間、密閉する。

●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）

：整枝は、開心自然形になるように、強い主枝を3本決め、それぞれに主枝よりも角度の低い亜主枝や側枝を、日当たりが良いように配置する。

来年花が咲き結実する枝が伸びる花芽は、枝の先端付近に着き、基部の方には花がない葉芽が着く。枝の先端部を切り返すと葉芽だけ残り、果実がならない。そのため、込み合った枝や徒長枝、下垂した枝などを間引く。

7. くり

果樹類《ブナ科》原産地：アジア（日本や中国など）、ヨーロッパ、北アメリカの温帯

古くから栽培され奈良時代には五穀の一つに。
能勢や丹波は最も古い産地。くりには、ビタミンB1や高血圧予防に
効果があるカリウムを多く含む。

栽培カレンダー

●主な品種：銀寄（果粒は20～25gとやや大果で、成熟期は9月下旬から。能勢町倉垣原産）
丹沢（果粒は20g程度で、成熟期は9月上旬から。）
筑波（果粒は銀寄よりやや小型で、成熟期は9月下旬から。）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 休眠			⇒⇒ 発芽	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 新梢伸長						⇒⇒⇒⇒ 落葉	⇒⇒⇒ 休眠
				雌花分化 ⇒⇒⇒		⇒⇒⇒雌花分化 開花	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大				
主な作業	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 剪定						⇒⇒⇒ 摘果		⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 収穫			⇒⇒⇒⇒ 剪定
		⇒⇒ 元肥					⇒⇒ 実肥			⇒⇒ 礼肥		

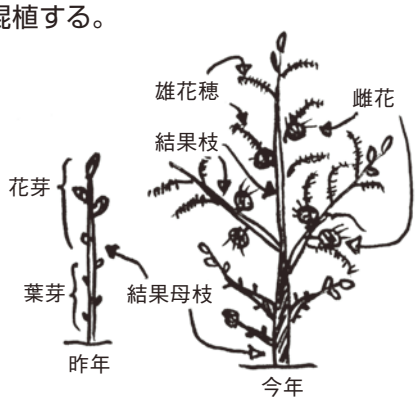
栽培のポイント

●1品種だけでは結実が悪いので、2品種以上を混植する。気候風土に適した能勢町原産の銀寄を中心に、筑波や丹沢を少なくとも2割以上混植する。

●くりは雌雄異花で、花芽から伸びた新梢の基部に着く雌花と上部に長い雄花穂が着く。

●6～7月（前期）と8月（後期）に生理落果がある。雨が多い年や樹の栄養が悪いと、落果が多くなる。

●晩夏～秋口に、くりの樹の立ち枯れが増えている。原因は、病害虫や管理不足による樹勢低下が多い。



作り方

●施　　肥：樹1本当たり、大阪北部エコ有機3号、年間8kg程度を下表の時期に分けてやる。（8年生以上の成木の場合）
成木の量に対して、植付け1～2年目は2割、3～7年目は5割程度とする。

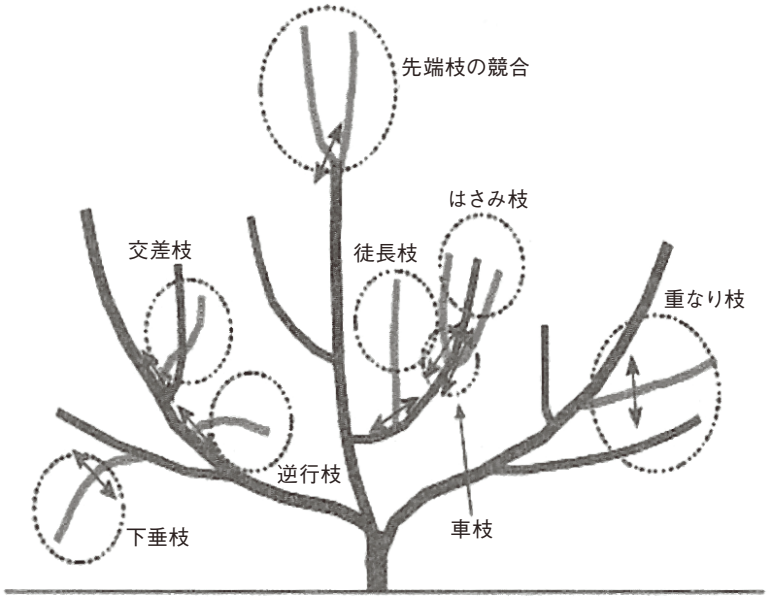
施肥時期	2月下旬（元肥）	7月上旬（実肥）	10月中旬（礼肥）
施肥量	4.0kg	2.0kg	2.0kg

元肥は、新梢の生育や開花・結実を良くするため、根が活動する前の2月下旬に施す。実肥は、果実の肥大充実を図るため7月上旬に施す。施用が遅れたり施肥量が多すぎると、果実が腐る実炭そ病が多くなる。礼肥は、弱った樹勢を回復させ、来年の生育に使う養分を貯えるため、10月中旬に施す。

●収　　穫：毬栗（いがぐり）を毎日集めて、中から果実を取り出す。拾い忘れや数日間置いておくと、すでに果実に産卵されているクリシギゾウムシ、モモノゴマダラノメイガ、クリミガが孵化して、その幼虫による食害が増えるので注意する。

●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）：

：若木の間は、樹形を乱す逆行枝や重なり枝を間引く程度にする。樹が大きくなると、日陰になり枝が枯れ込むため、混み合っている太枝や徒長枝・垂れた枝を間引き、長すぎる枝は途中で切り返す。
（下図参照）



剪定の時に切るべき枝（図の矢印の位置で切る）

8. さんしょう 果樹類《ミカン科》原産地：日本の山野に自生。中国や韓国の一部にも分布

古くから日本人に利用されていたが、栽培は明治以後に始まった。
箕面市止々呂美地区は古い産地で豊能町、能勢町でも谷川沿いの山麓などで栽培。
花さんしょうは、佃煮や吸い物に入れて食べる。実さんしょうは未熟果で最も香りと辛みが強く、
食欲増進効果が高い。佃煮、漬物など用途が広い。

栽培カレンダー

●主な品種：朝倉種止々呂美系（箕面市止々呂美地区一帯で昔から栽培されている。
棘がなく、1房100粒前後も着く大房で、市場評価も高い）
ぶどうさんしょう清水系（和歌山県有田郡清水町で改良された乾果専用種）
花さんしょう（種類を問わず、雄株はみんな花さんしょうという。）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 休眠			⇒⇒ 発芽			⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 新梢伸長					⇒⇒ 落葉 ⇒⇒ 休眠
					⇒⇒ 開花	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大		⇒⇒ 花芽分化				
主な作業		⇒⇒⇒⇒ 剪定			⇒⇒ 花蕾収穫		⇒⇒⇒ 生果収穫	⇒⇒⇒ 乾果収穫				
			⇒⇒ 追肥		⇒⇒⇒ 敷わら	⇒⇒⇒ 捻枝誘引		⇒⇒ 礼肥		⇒⇒ 元肥		

栽培のポイント

●ミカン科の落葉低木で、雌株と雄株があるため混植が必要。鳥獣の被害は少ない。
●排水の悪いところでは栽培は難しい。
●環境の変化に敏感で、特に霜に弱いため冷気が停滞するところを避ける。
●根が浅く、強風で根が動いたり倒伏を防ぐため、植付け後は支柱を立てて、固定する。
また、倒伏防止のため年に一度は株元へ土を与える。
●連作を嫌うので、同じ畑に再び植える場合は、前作の株間に植える。
●４年目から結実させる。３年目から結実させると、樹が大きくならず収量が上がらなく、寿命も短くなる。収穫には短時間に多くの労力がいる。

作　り　方

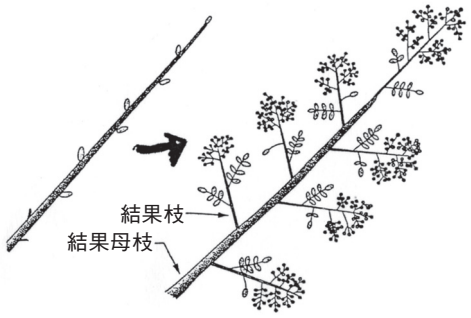
●施　　肥：樹1本当たり、元肥で鶏糞2kgと菜種油粕1kgを、追肥と礼肥で大阪北部エコ有機3号0.5kgを次表の時期に分けてやる。（6年生以上の成木の場合）成木の量に対して、植付け1～2年目は2割、3～5年目は5割程度とする。

施肥時期	10月上中旬（元肥）	3月上旬（追肥）	8月上旬（礼肥）
鶏糞	2.0kg		
菜種油粕	1.0kg		
大阪北部エコ有機3号		0.3kg	0.2kg

翌年の発芽や開花のための養分となる元肥は、根痛みをおこす恐れがあるため、鶏糞や菜種油粕などの有機質肥料を、寒くなり根が活動を停止する前に、無機に分解される時間を見込んで10月上中旬に施用する。追肥は、新梢の生育を促し開花・結実を良くするため、根の活動が始まる直前の3月上旬に施用する。礼肥は、弱った樹勢を回復させるため、8月上旬に施用する。

●収　　穫：①花さんしょう：実さんしょう（雌株）の交配樹（雄株）として植付けることも多い。新芽の発生が早く大きく、芳香が良い。収穫は4月下旬～5月上旬で、開花するまでの蕾のうちに収穫するため、期間はわずか7～10日間しかない。

②実さんしょう：新梢を傷めないように丁寧に収穫する。実は早めに全て収穫して、樹の衰弱を防ぐ。



●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）

：実の付き方は、前年に伸びた枝の先端から6～7節までに花芽ができる。3月中下旬に発芽し、各節から約10cmの結果枝が伸びて、それぞれの先端に花房を着ける。整枝は、変則主幹形や樹高が低い開心自然形や杯状形に仕立て、植付け3年で樹形をつくる。剪定をしないと交互に豊作年と不作年ができる。また豊作年後に樹が弱り、枯れることもある。

剪定は、半数の枝は花芽の着いた部分を切り返し、1年後に結果枝を出させる枝（結果母枝）にする。また結実させた枝から収穫後に伸びる枝も充実していないため、切り返して結果母枝にする。残る半数の枝は切らずに結実させる。冬期の剪定だけでなく、5月に捻枝や誘引で新梢の伸長を抑えることで、翌年の結果母枝をつくる。

捻　枝：強い新梢の付根をねじって、養水分の流れを抑える。

誘　引：立っている強い新梢を横向きに引っ張ることで、勢いを抑える。

9. びわ

果樹類《バラ科》原産地：東アジアの南部温帯から亜熱帯（日本や中国）

果樹としての栽培は、江戸時代後期からとされる。
βカロチンの量は果実の中でもトップクラス、体内でビタミンAに変わり
体の免疫力を高める。

栽培カレンダー

● 主な品種：茂木（果実は40g前後で、成熟期は6月上中旬から。耐寒性はやや弱い。）
田中（果実は60g前後で、成熟期は6月中下旬から。比較的耐寒性がある。）
長崎早生（果実は40g前後。成熟期は5月下旬。）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過			⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 春枝伸長				⇒⇒⇒⇒ 夏枝伸長			⇒⇒⇒ 秋枝伸長		
	⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 開花			⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大・成熟				⇒⇒⇒⇒⇒ 花芽分化				⇒⇒⇒⇒ 開花
主な作業			⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 摘果・袋かけ				⇒⇒⇒ 収穫			⇒⇒⇒ 剪定		⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 摘房・摘蕾
			⇒⇒ 追肥	⇒⇒⇒ 芽欠き			⇒⇒ 礼肥	⇒⇒ 芽欠き		⇒⇒ 元肥		

栽培のポイント

● 温暖な気候に適する。特に真冬に開花・結実するため、寒害で花が枯れたり、幼果が低温障害で果実表面に鉢巻き状の傷がつく。寒害や低温に最も弱いのは幼果で、次いで花、比較的強いのは蕾である。箕面市止々呂美地区が経済栽培の北限地に近い。

● 産地の多くが傾斜地に植えられているのは、平地より受光が良く暖かいためで、最低気温が高いこと、夜間に空気が動きやすく、凍害を受けにくいためである。

● 1房に100前後の花が着くので、摘果して、果実を肥大させる。

作り方

● 施　　肥：樹1本当たり、大阪北部エコ有機3号、年間10kgを下表の時期に分けてやる。（8年生以上の成木の場合）
成木の量に対して、植付け1～3年目は3割、4～7年目は7割程度とする。

施肥時期	9月上下旬（元肥）	3月上旬（追肥）	7月上旬（礼肥）
施肥量	5.0kg	3.0kg	2.0kg

元肥は枝葉を充実させ養分を貯えるため、夏に一時停止していた根の活動が再開する9月に、追肥は果実を太らせるため、3月に施用する。礼肥は樹勢を回復さるために、収穫直後の7月上旬に施用する。根が浅くて少ないため、礼肥後にかん水や敷きわら（草）をすると、乾燥害防止とびわの樹や果房の生育が良くなる。

●芽欠き（4月と7月）

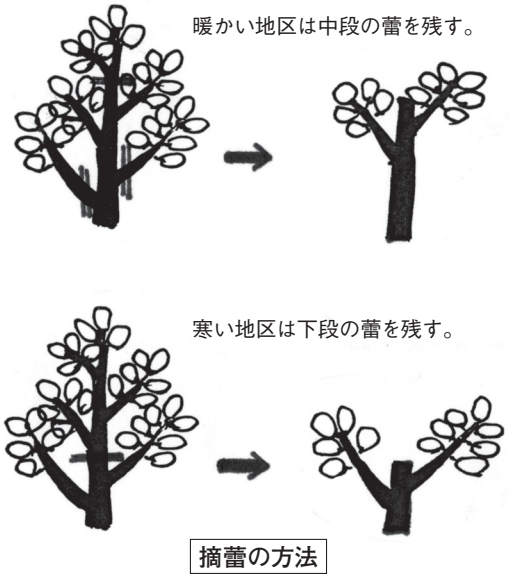
：芽を多く残すと茂りすぎ、枝が充実せず良い果実がならないため、強い芽を1～2残し、他の芽を欠く。

●摘房（10月中下旬）

：花房が多いと樹が弱るため、弱い枝や樹内部の貧弱な花房を取り除く。

●摘蕾（摘房の後）

：蕾を間引いて残った蕾の開花を遅らせる。開花期間が長くなり、寒害対策や果実肥大・着色向上を図る。
一つの花房の中で、中段の蕾は開花が早く、下段の蕾は開花が遅い。そのため暖かい地区では中段を残し、寒い地区では下段の蕾を残して、花房の半分程度を切り取る。



摘蕾の方法

●摘果と袋かけ（3月上中旬の寒害を受けなくなった頃から）

：摘果は、果実品質を高めたり肥大させるため、丸く艶があり、傷がなく大きさが揃った果実を、「茂木」など小粒品種では1果房に3～5果を、「田中」などの大粒品種では2～3果を残す。摘果後は果房単位ですぐに袋をかける。

●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）

：整枝は、樹が直立する「茂木」や「長崎早生」では、主幹を3mまでの高さで切る変則主幹形を、樹が開張する「田中」では、主枝を横に広げるように仕立てる。
剪定は、収穫や花芽分化が終わった9月上中旬に、密生している枝や徒長して樹形を乱す枝を間引き剪定する。葉が少なく間伸びした枝は、20cmぐらい残して切り返し剪定をすると、切り口付近から発芽して結果枝になる。

●収　　穫：びわは収穫後、追熟しないため、果実全体が橙黄色に完熟してから収穫する。

10. ぶどう(種なし栽培)

果樹類
《ブドウ科》原産地：西アジア・北アメリカ

紀元前4000～3000年と古く、古代エジプトの壁画にも栽培の様子が描かれている。ブドウの皮には、視力回復や活性酸素の除去に効果があるポリフェノールが多く含まれる。

栽培カレンダー

●主な品種：デラウエア(小粒赤系。種なしぶどうの代表的な品種。)
巨峰(大粒黒色。大粒系の代表的な品種。種あり、種なしでも作られる。)
ピオーネ(大粒黒色。果粒は巨峰より大きく、種なしで作るのが一般的。)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育経過	⇒⇒⇒⇒ 休眠		⇒⇒⇒ 発芽	⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ 新梢伸長							⇒⇒⇒⇒⇒ 休眠	
					⇒⇒⇒ 開花	⇒⇒⇒⇒⇒ 果実肥大		⇒⇒⇒ 収穫				
主な作業	⇒⇒⇒⇒ 剪定		⇒⇒⇒ 荒皮削り		⇒⇒⇒ ジベレリン処理		⇒⇒⇒ 袋かけ					⇒⇒⇒ 剪定
					⇒⇒⇒⇒ 花房の整形			⇒⇒ 礼肥				⇒⇒⇒ 元肥

栽培のポイント

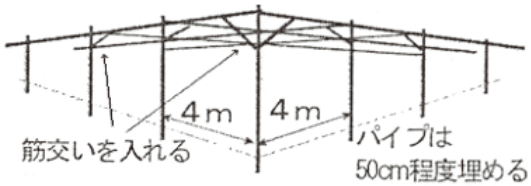
●ぶどうの多くの品種は雨にかかると病気が出やすく、露地栽培には向かない。雨よけ栽培にするか比較的病気に強いデラウエアなどは露地栽培に向いている。

●ぶどうは棚仕立てのため、1本の樹は成木になると40 ～ 80㎡の広さが必要になる。2本以上植えるときは間隔を十分に取り、6 ～7mの間を空ける。

●落葉果樹なので、苗木の植えつけは落葉後の12月頃に行う。水田に植える場合は暗きょを掘るか、高うねにして十分に排水できるようにする。

作　り　方

●棚の準備：太さ48.6mmの足場用パイプを4m間隔で立てて、地中に50cm程度埋め込む。このパイプに2m間隔で針金を引き、さらにその間に40cm間隔で針金を引く。



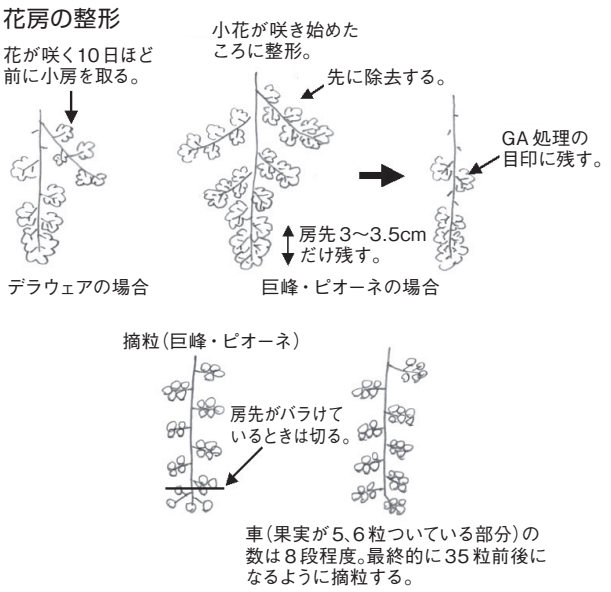
●施　　肥：樹1本当たり、大阪北部エコ有機3号、年間8kg程度を12月中旬と8月下旬にわけて施す。(6年生以上の成木の割合)
成木の量に対して、植えつけ1年目は3割程度、2～3年目は5割程度、4～5年目は7割程度とする。

施肥時期	12月中旬(元肥)	8月下旬(礼肥)
大阪北部エコ有機3号	6.0kg	2.0kg

●芽　欠　き：1本の結果母枝から3本程度の新梢が発生すれば十分なので、生育のよい新梢３本を残し、それ以外は元からかき取る。

●花房の整形・摘粒

：全ての花が結実すると実のつきが悪くなり、果実の肥大も劣るので、花が咲く前の蕾のときに、花の一部を切り落とす。巨峰・ピオーネはさらに1房35粒前後になるように、果実の結実を確認してから間引いていく。



●種なし処理：ジベレリン（GA）という植物成長調整剤をつかって種なしの果実をつくることができる。ぶどうは品種によりジベレリンの処理濃度が異なるので、農薬のラベルを確認して使用する。

◎デラウェアの場合：満開予定日約14日前（第1回目）と満開約10日後（第2回目）に花房全体を浸漬する。

◎巨峰・ピオーネの場合：満開時～満開3日後（第1回目）と満開10～15日後（第2回目）に花房全体を浸漬する。

●傘かけ・袋かけ

：果実を病気の被害から守るため、デラウェアは2回目のジベレリン処理終了後、すぐに果房の上にデラウェア用の紙の傘をかける。巨峰・ピオーネは摘粒終了後、すぐに果房にぶどう用の袋をかぶす。

●整枝・剪定（果樹の整枝・剪定のページ参照）

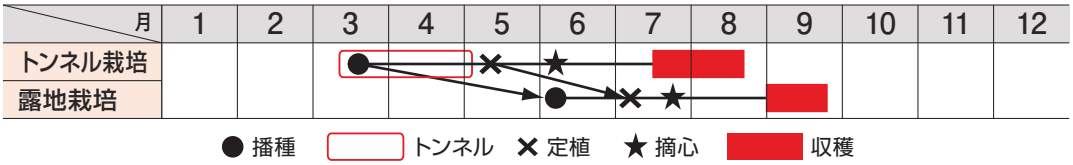
：若木は勢いよく枝が伸びるので、新梢が伸びるにあわせて50ｃｍ間隔くらいで棚の針金に誘引・固定し、まっすぐに伸ばす。1年で2～4m前後伸びるので、伸びた長さの半分くらい切り落とす。4年目～6年目で骨格がほぼ決まるので、前年伸びた枝（結果母枝）の芽の数を数えながら、残す枝の本数を決めていく。

Ⅵ 花き類

1. けいとう 花き類《ヒユ科》原産地：インド

熱帯、亜熱帯原産で、寒さには弱いが高温には強い。
夏～秋にかけての花壇には欠かせない。草丈、花の色や形など
多くの種類がある。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 種まき時に地温が低いと発芽しにくいので、予めトンネル掛けして地温を上げておく。
- 切り花用には摘心して、側枝を出させ草姿を良くする。
- 生育後半は、肥料が切れるようにする。

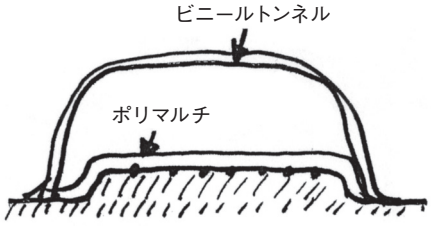
品種・系統

- きもの系：は種後、約50日に草丈10cmで出穂し、花穂は草丈の半分ほどに大きくなる。
- キャッスル系：草丈20～25cmで側枝が旺盛に出て、草姿のまとまりが良い。
- わい性トサカケイトウ：花壇や鉢植えに適する。
- 久留米系やコロナ系：草丈が高く切り花用に適する。
- 他に、ヤリケイトウ、玉ケイトウ、羽毛ケイトウなど種類が豊富。

作り方

は種

- は種床は排水の良い、平床（床幅1m）を作り、種子を均一にばらまきするか、5cm間隔に条まきする。（種子量は1アールあたり0.3dℓ）
- 発芽適温が高く、地温に左右されるため、3～4月まきは最低15℃以上保つように、ビニールで二重トンネルを作り、蒸し気味にすると発芽が早い。



- 発芽し始めたら二重トンネルを取り、日中は換気とともに、日光を良く当てる。本葉5～6枚までに間引きして、しっかりした苗を作る。
- 定植2～3日前からかん水を十分に行い、できるだけ根土を付けるようにする。

定　植

●本葉が5～6枚になった時に、うね幅1mの2条植え、株間15cmで定植する。けいとうは、直根性で本来移植を嫌うので、できるだけていねいに作業を行う。

施　肥

●生育初期に肥料が多いと茎が太くなり過ぎるので、元肥を控え追肥を主にする。一般的には、元肥に完熟堆肥を1アールあたり100kg施して無肥料栽培とする。

●やせ地では、普通化成肥料の苦土入り化成肥料8-8-8を1アールあたり5kg施用してから土寄せをする。収穫時に下葉が少し黄ばんで色が抜けるぐらいが理想的。

●カリ分の多い肥料を施用すると、花冠が発達しやすい。また、追肥には生育状況を見て薄い液肥（液肥2号の500倍液）をかん水代わりにやる。

●施肥例　（1アールあたり）

元　肥	追　肥
◎堆　　肥：100kg	液肥2号：500倍液
◎苦土入り化成肥料8-8-8：5kg	

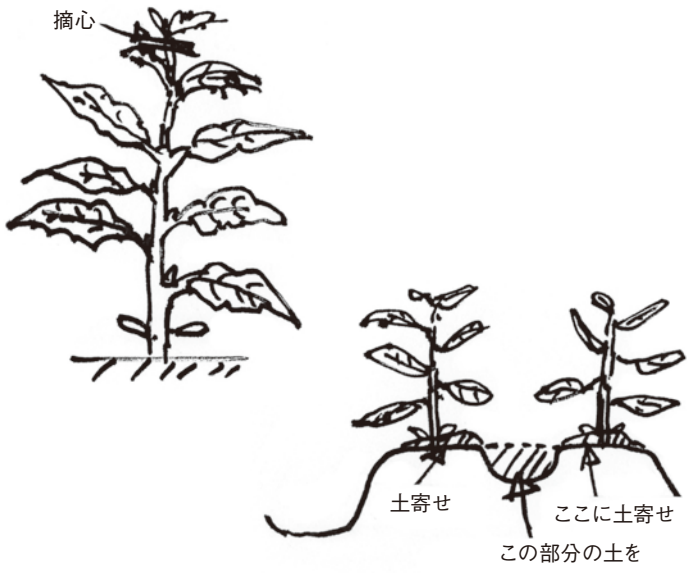
その他の管理

●定植10日後頃に、摘心し、側枝を出させる。

●摘心直後に、条間を軽く耕し、除草とともに土を柔らかくする。また倒伏防止のため土寄せを行う。

●生育に合わせて2回目の土寄せとともに、早めに支柱を立てネットを張っておくと良い。

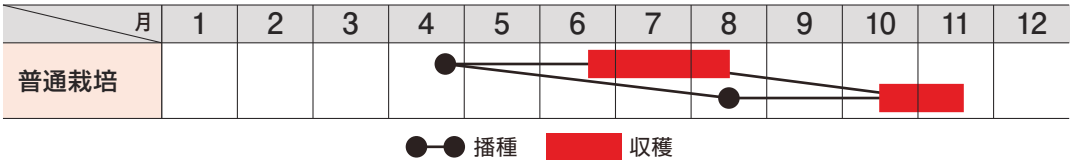
●土が排水不良で過湿になると、生育ムラや立枯れが出やすいので、排水に注意する。



2. コスモス 花き類《キク科》原産地：メキシコ

外来品種だが、日本の風景にとけ込んでいる。
台風などで倒れても、茎の途中から根を出し、また立ち上がって
花を着けるほど強い。

栽培カレンダー



栽培のポイント

●栽培期間が短く、種まき後60日前後で収穫できる。
●肥料が多いと草丈が伸びすぎ、茎も太くなりやすく、切り花後の水揚げが悪くなる。
●本葉6～7枚頃に摘心すれば、わき芽が出て草姿が良くなる。

品種･系統

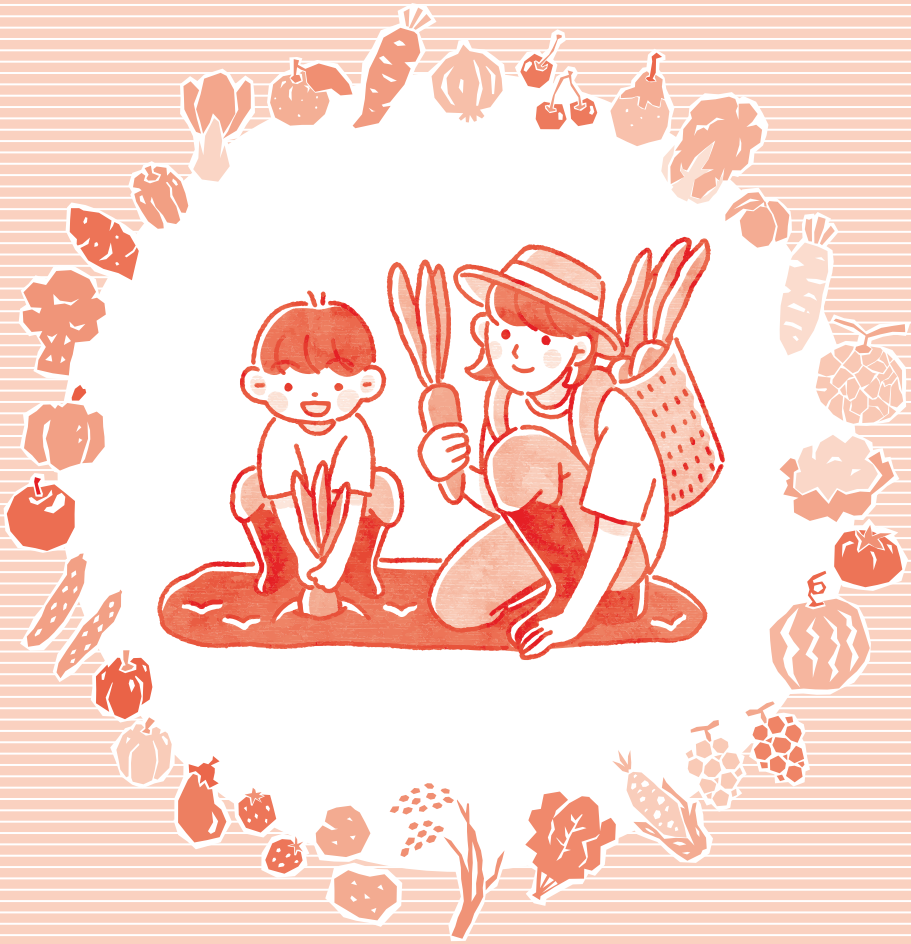
●ベルサイユ：桃色地に紅の蛇の目咲。側枝の発生が少なく、花梗が太く切り花向き。
●センセイション系統：花径12～20cmの大輪系の早生種。特に水揚げが良く切り花用に最適。
●ソナタ混合：花径7cmの一重咲。草丈50～60cmの矮性種。花色は赤紫、桃、白色など混合。
●キバナコスモス系統：多花性だが草丈が短く花壇苗用の矮性品種。
※早生系の品種以外は、日長が短くなる秋まで開花しない場合があるので注意が必要。

作　り　方

は　種

●ハウス促成栽培以外は、直播きが一般的。うね幅120cmで、条間20cm、4条に1～2粒点まきし、覆土は種子が隠れる程度で発芽するまで乾かないようにする。
●本葉1～2枚の時に5～6cm間隔に間引きする。
●施　　肥：肥料分が多いと軟弱徒長気味となって開花が遅れる。そのため、やせ地でも1アールあたり、苦土入り化成肥料8-8-8を3kg、元肥に施用する。
●その他管理：草丈が伸びると風雨で倒れやすくなるため、1～2回株元に土寄せをする。また、15～18cm間隔のフラワーネットを1段張っても良い。

たのしい農産物づくり



農業者向けLINEにて防除等の情報を配信しています!!

病害虫防除は、発生前や発病初期の対応が大切です。組合員のみなさまが作られる作物を守るため、タイムリーな情報をお届けしますので、

是非、お友だち登録をお願いいたします！



3. つつじ

花き類《ツツジ科》原産地：日本ほか北半球温帯

4～5月の代表的な落葉低木。
サツキもシャクナゲもツツジ科の仲間。ツツジはサツキに先立って
咲き出す。公園や街路、庭など需要が多い。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
挿し木・育苗（1年目）			▼	▼		▼			▼			
定植・養成（2年目）			×		×							
養成（3年目）												
養成・出荷（4年目）									■	■	■	■
出荷（5年目）	■	■	■	■	■							

▼ 挿し木　× 定植　■ 出荷

栽培のポイント

- 系統・品種が多いため、販路などを決めて、その需要に適したものを選ぶ。
- 根は、細根が多く土中でも浅く横に張るため、排水の良い所で浅く植える。

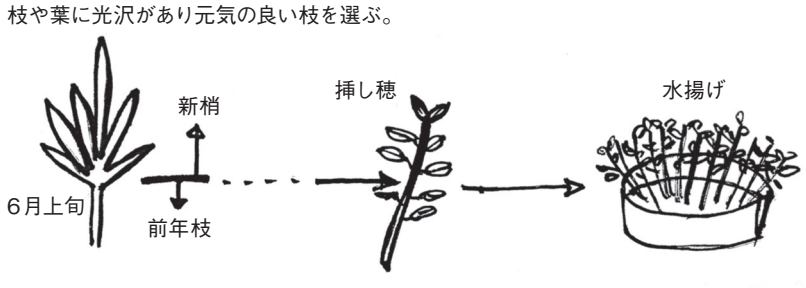
種　類

- 久留米ツツジ、キリシマツツジ、ヤマツツジなど日本には約50種が自生し、古くから栽培されている。そして、それぞれ改良されて園芸品種が数百品種もある。

作　り　方

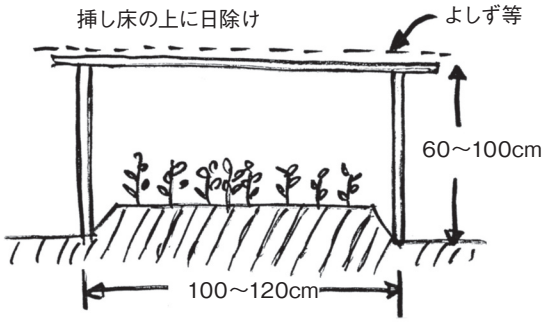
育　苗

- 1アールあたりの親株は、10～15株が必要。
- 挿し木の適期は、3月下旬～4月上旬（前年枝を利用）、6月上中旬と9月（今年枝を利用）の3回あるが、春挿しの方が生長が1年早くなる。
- 挿し穂は、太く充実した新梢を約10cmに切って、下葉を1/3程度取り除いた後、穂木がしおれないように1～2時間水揚げをしておく。



- 床土は、弱酸性で保水力があり、無病で清潔な用土（真砂土、鹿沼土）を選ぶ。

●床幅100～120cmのうねを立て、挿し木の間隔は3×3cm(3,000本／坪)で、穂の長さの1/3程度を挿し込む。
●挿し床は風当たりが少なく、冬暖かで、夏涼しい所を選ぶ。萎れを防ぐため60～100cmの高さで、よしずや黒寒冷紗で日除けをする。
●挿し木後にかん水し、以降、夏には毎日1回、春と秋は2～3日おきに1回の割合でかん水する。
●挿し木後60日位で発根するので、9月に菜種油粕を少し施用し、11月に簡易な防寒をして苗を保護する。

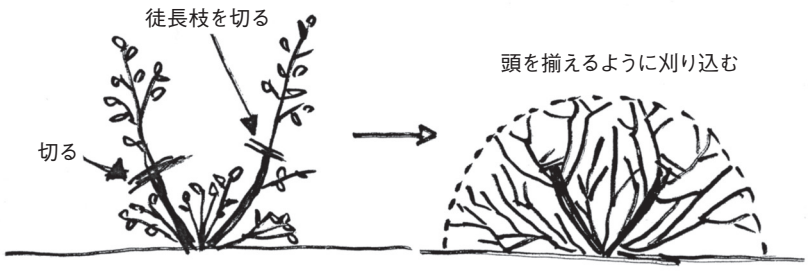


本　田

●定 植 準 備：定植の半月前に元肥を全面施用し、耕うん後、幅120cmのうねを立てる。
●定　　植：3月下旬～5月上旬に、株間20cmの3条植えとする。植え付け後は、敷きわらをして乾燥を防ぐとともに、活着するまで十分かん水をする。
●施　肥　例　(1アールあたり)

施肥／時期	1年目		2年目以降
	元肥(3～4月)	5～8月に毎月分施	4～8月に毎月分施
肥料の種類と量	完熟堆肥　200kg 過リン酸石灰　10kg 菜種油粕　8kg	苦土入り化成肥料8-8-8を毎月5kgずつ施用。	

●その他の管理：定植2年目の6～7月と、3年目の3月に1回刈り込みをする。後は、生育に応じて1回、徒長枝などを間引きせん定する。



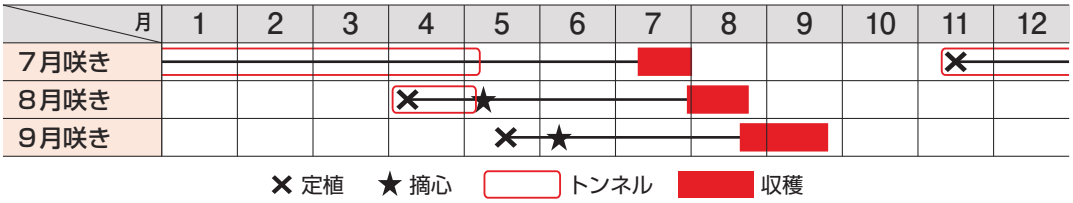
●出　　荷：定植後2～3年で30×30cmの規格品となったものを掘り取り、根土をつけずに出荷する。(9月中旬～5月下旬)

4. 夏ぎく(小ぎく)

花き類《キク科》原産地：中国北部で改良

菊は古くから秋の花として親しまれてきた。
今では品種改良や栽培技術の開発で年中出回るようになった。
仏花用としても安定需要。

栽培カレンダー



栽培のポイント

●春に定植するきくは、品種の開花時期によって定植時期を合わせること。
●品種によっては定植時期が遅れると蕾ができない(ブラインドという)品種もある。
●定植が早すぎると草丈が長くなり、柳芽が発生して形が悪くなる。

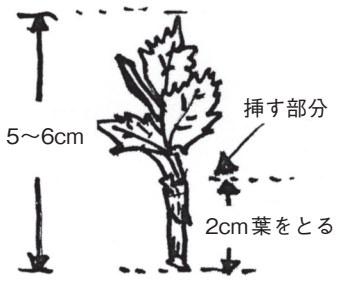
品種・系統

●7月咲き：しおり、いずみ、夏の月、七夕こまち、等
●8月咲き：こばと、はずき、メロディ、花秀美、等
●9月咲き：あずさ、一休、いこい、えびす、等

作　り　方

育　苗

●親株は、収穫直後に地際から刈り取り、株を整理する。病気の出ている株は捨て、健全な株だけを残す(1アールあたり、約100株の親株が必要)。
●挿し芽予定の約2ヶ月前に新芽を摘心して、挿し穂を確保する。
●挿し床は排水、保水の良いパーライトを使う。日当たりが良く保温しやすいハウス内でないと、発根まで長時間かかり草丈が短くなる。



●挿し穂は展開葉2～3枚をつけ、5～6cmの長さに調整後、葉がふれあう程度の間隔に挿し芽をする。挿し芽後、日除けをし、発根とともに徐々に取り、日光に馴らして丈夫な苗をつくる。

定　植

●きくは根が浅く過湿に弱いため、排水が良く有機質に富む土が良い。そこで、植え付け２週間前までに、堆肥と苦土石灰を施用して耕しておく。
●定植予定の２～３日前に、挿し床に十分かん水しておく。
●うね幅120cm、条間30cm×株間10cmの２条植え。挿し芽後２週間で、根が1～2cm伸びた苗を植える。定植後は十分かん水し、敷きわらで乾燥や雑草防止をする。

施　肥

●施肥例　（1アールあたり）

元　肥（定植２週間前までに施用）

◎堆　　肥　　：200kg
◎苦土石灰　　：　15kg
◎菜種油粕　　：　10kg
◎大阪北部エコ有機3号：　10kg

追　肥（7月中下旬までに２回）

◎大阪北部エコ有機3号：4kg×2回

その他の管理

●７月咲きは、草丈を確保するため摘心しないで栽培する。
●８月咲きや９月咲きは、頂芽が伸び、活着が確認されたら、展開葉４～５枚の所で摘心し、4～6本のわき芽を出させる。（定植7～10日頃）
●摘心後、すぐに除草を兼ねて土寄せをする。（第１回目の追肥と同時に行う。）この作業で、株の草勢が旺盛になる。
●草丈が15～20cmの頃、２回目の土寄せを行い、発根を促し、生育後半の下葉の枯れ上がりを防止する。
●草丈30cmの頃に、フラワーネットや針金を張り、倒伏を防止する。
●乾燥するときには、うね間かん水をし、梅雨期にはうね間を深く掘って排水を良くする。乾燥防止と保水や地温上昇防止を目的に条間に敷きわらをする。

5. 葉ぼたん 花き類《アブラナ科》原産地：ヨーロッパ南部

明治時代になってから、
正月用の飾りとして需要が高まり、広く栽培されるようになった。
花壇や鉢植え、切り花など利用方法も広い。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培	■						●―	―●	✕			■

●―● 播種　✕ 定植　■ 収穫

栽培のポイント

●気温25℃以上になると生育が抑えられる。

品　種

●F1丸葉系
　は　と（紅、白）：小型で耐寒性に優れ、葉数が抜群に多い。
　つぐみ（紅、白）：小型わい性で、葉数が多い。
●F1ちりめん系
　すずめ（紅、白）：小型わい性で、葉数が多く、耐寒性も強い。
　かもめ（紅、白）：小型のわい性品種
●F1切れ葉系
　くじゃく（紅、白）：葉が深く切れ込んだ形状で、耐寒性が強い。

作　り　方

は　種

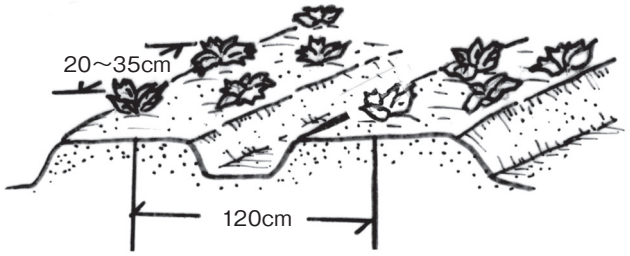
●F1種は、7月末～8月上旬に種まきをする。遅れると、十分な葉数が確保できない。
●は種1週間前に、1アールあたり苦土入り化成肥料8-8-8 1kgを施用し、耕しておく。
●は種床の面積は、定植畑の1/15を準備する。幅1mの平床に、5cm間隔に浅く溝をつけ、約1cm間隔に種をまき、種子がかくれる程度に軽く細かい砂で覆土する。
●切りわらなどで覆ってから十分かん水する。
●トロ箱やセルトレイ（200穴）に、種をまいても良い。
●種まき後は、黒寒冷紗などで日覆いをする。発芽が揃えば徒長させないために、寒冷紗をとる。
●かん水は朝に行い、夕方は土が少し乾く程度にする。
●本葉が出始めた頃に、葉が重なり合わないように間引きする。

移　植

●本葉２～３枚の頃に、仮植の平床（は種床の５倍の面積）に10×10cm間隔に仮植し、十分かん水する。葉色の緑色が薄くなれば、液肥２号を500倍で散布する。

本　田

●定　　植：定植の20日前までに堆肥や苦土石灰を施用し耕しておく。うね幅120cmで、元肥は定植の1週間前にうねに施用して軽く耕しておく。定植は、株間20～35cmの2条千鳥植えで、適期は9月上中旬で本葉6～8枚の苗。



株間は大株か小株仕立てかで調整する

●施　肥　例　（1アールあたり）

元　肥

◎堆　　肥　　：200kg
◎苦土石灰　　：　15kg
◎化成肥料14-10-13：　10kg

追　肥

◎1回目：定植10日後　苦土入り化成肥料8-8-8：15kg
◎2回目：定植20日後　化成肥料14-10-13　　：10kg

●生育初期～中期に肥料切れになると、葉数が少なく商品価値が下がる。
●生育後期までチッソ肥料が残ると色ぼけするため、10月中旬以降は追肥しない。
●発色後、外側の葉が黄色くなりだしたら、液肥２号の500倍液を散布する。

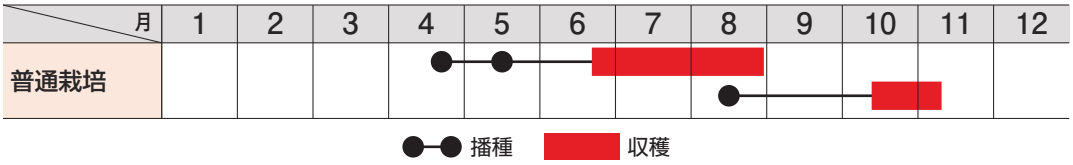
●霜　よ　け：霜が降り始めたら、不織布（パスライト等）の浮きがけで霜よけをする。（ちりめん系の白色品種が、特に霜害に弱く葉が傷みやすいので注意。）

6. ひまわり

花き類《キク科》原産地：北アメリカ中央部（カリフォルニア州ほか）

南米ペルーの国花で、太陽の花といわれる。
草丈の高い品種から花壇用のわい性品種や一本立ちタイプや
分枝タイプ、また花色も豊富。

栽培カレンダー



栽培のポイント

- 吸肥力が強いので、肥料を与えすぎないこと。
- 大きな花を咲かせるためには、蕾を2～3残し、その他は摘み取る。
- できるだけ日当たりの良い場所に植えると、花つきが良くなる。

品種・系統

- サンリッチ系統：日長に関係なく、種まき後約2ヶ月で開花する。温度さえあれば冬でも花を咲かせる極早生品種で、切花が周年出荷される。
- 太　陽：草丈150cm。花径12～20cm。特に水揚げが良く切り花用に最適。
- かがやき：花粉が出ないため、長期間黒褐色の花芯を楽しめる切り花用品種。
- ミニひまわり：草丈は鉢植え20cm、花壇60cm。
- ハイブリッドサンフラワー：花は小ぶりで、観光ひまわり園でよく見られる採油種。

作　り　方

は　種

- 発芽適温が高いので、十分に気温が上がってから、は種する。40～50cm間隔に2～3粒ずつまいて、発芽後に生育の良いものを1本残し、その他は間引く。

施　肥

- 元肥は、特に土地がやせていない限り施さない。吸肥力が強いので与えすぎに注意。下葉が黄色く肥料切れと思われる場合は、化成肥料14-10-13を少量追肥する。

その他の管理

- 草丈を70～80cmに抑えるためには、密植、節水、少肥で栽培する。4～5月に種をまく場合は、背が高くなるので本葉3～4節で摘心する。

用語解説

あ

秋まき栽培
秋に種をまき、冬から春にかけて収穫する栽培。

い

移植
成した苗を苗床や本圃に植えること。通常は播種床→苗床を仮植または移植、苗床→本圃は定植（ていしょく）という。

一番花
株の中でいちばん最初に咲く花。

いやち現象
同じ場所で同じ種類をつづけて栽培すると成績がおちる。この現象を忌地（いやち）、または連作障害（れんさくしょうがい）という。土中の肥料など各種の栄養分のバランスが崩れたり、その一部がひどく少なくなったり、栽培した作物の根から分泌した特殊な有害成分なり、あるいは土中の微生物の具合いや、土の性質の変化など、忌地の原因はさまざまである。

う

ウイルスフリー
株分けや挿し木、接ぎ木、球根等で増やす植物はウイルス病に一度侵されると病気を取り除けない。ところが生長点を培養するとウイルスに侵されていないウイルスフリー株が得られるため、これを増殖し無病苗として生産販売している。

畝立て・畝幅（うねたて・うねはば）
畝立ては畑に作物を植えつけるため、間隔をおいて土を高く盛り上げる作業で、その間隔を畝幅といい作物によって異なる。

え

栄養生長
花や子房などの生殖器官に対し、葉や茎のことを栄養器官という。栄養器官のみを茂らせる生育のことを栄養生長という。

栄養繁殖
タネでの繁殖に対して、挿し木、接ぎ木、取り木、株分け、組織培養などで繁殖する方法をいう。

液肥
普通の肥料は粉状または粒状であるが、液状の肥料を液肥あるいは液体肥料という。

か

塊茎（かいけい）
地下茎の一種地中の茎の先がでんぷんなどの養分をたくわえて、塊状に肥大したもの。ジャガイモ、キクイモなど。

化成肥料
チッソ、リン酸、カリを化学的に合成して2種類以上配合した肥料。速効性、緩効性の両方がある。

活着
移植や挿し木をした植物が十分に根づいて生育すること。

株間
作物の株と株とのあいだ。作物によって適正な間隔があり、播種・間引きなどで、等間隔に取ることがより揃いをよくする。

株分け
根株を分割して繁殖する栄養繁殖の一つ。

仮植え
苗木などの移植で、本植えの前に一時的に植えておくこと。

カリウム
肥料の三要素のひとつ。根の発育を促進し、根肥ともいわれる。

緩効性肥料（かんこうせいひりょう）
肥料の有効成分が少しずつ土壌中にとけ出して、有機質肥料に似た効き方をする化成肥料で、肥効が長時間続く。1回の施肥量を多くしても濃度障害が出にくく、一般には元肥主体栽培に使われる。

かん水
水を与えること。

寒冷紗
綿やビニロンなどの化学繊維で網目模様に編んだ布状の被覆資材の一種。目の粗さや色の違いで遮光率が異なるので、一般に遮光用にするが、防寒や防風、水分の蒸散防止などの目的でも利用される。

き

休眠
植物は開花・結実、球根形成などが終わると生育活動が停止するか、停止に近いほどに弱まり、あと時期がくると再び活動を始めるものがある。このような活動の一時的な休止を休眠という。

く

苦土石灰

苦土（マグネシウム）と石灰（カルシウム）の両方を含む肥料だが、それが酸度の調整に役立つことから、肥料としてよりも酸度調整剤として使われることのほうが多くなっている。また、マグネシウム、カルシウムともに肥料の五要素に含まれているので、肥料としても十分役立つ。

クラウン

一般的には根と茎の境界部のことであり、茎の基部とそこから発生している多数の根の基部（茎に近い部分）をひとまとめにしてクラウンというが、いちごなどでは特に発根した新株全体あるいはその株元の部分を指していう。

け

茎葉（けいよう）

地上茎につく葉のこと。

こ

光合成

光合成は、炭素同化作用、炭酸同化作用あるいは簡単に同化作用とも呼ばれ、緑色植物が光のエネルギーを利用して、炭酸ガスと水から糖やデンプンなどのような炭水化物を合成する働きをいう。

耕種的予防法（こうしゅてきよぼうほう）

栽培環境や栽培方法を工夫して病害虫の発生を予防する方法のこと。詳しくはP128の参考資料②を参照。

さ

催芽（さいが）

種をまく前に、発芽を始める状態にすることを催芽という。発芽を早めたり、発芽の不揃いをさける効果があり、方法としては、十分吸水させた種を、その種の発芽適温よりいくらか高い温度に保って発芽状態にする。

作型

作物はつくる時期やつくり方によって、いろいろの場合があるが、それらを作型という。たとえば促成・抑制栽培、夏秋穫り、冬穫りなどいずれも作型である。

挿し木

切り取った枝や茎、根などを挿し床に挿し、新しく根や芽を出させる繁殖方法のひとつで、家庭園芸で広く行われている。

JA OSAKA-HOKUBU

し

子房
めしべの一部で受精すると中に種子を作り果実になるところ。

種子繁殖
野菜や草花の多くは、種子によってふやす。このように種子によってふやすことを種子繁殖という。樹木や花木は普通、接ぎ木や挿し木によってふやすが、これを栄養繁植という。

条間
種のまき条とまき条、または苗の植え条と植え条の間の間隔。狭すぎると軟弱徒長しやすく、広すぎると本数がはいらず収量が上がらない。

条まき
地面にすじをつけてその上に種をまくこと。すじまきともいう。

人工授粉
人の手を介して行われる受粉（花粉が雌しべの先端に付着すること）。自然状態では受粉しにくい場合や、育種を目的とする場合などで行われる。

せ

整枝
枝や蔓の数を適当に制限したり、またその配置を図って作柄をよくすることを整枝という。

セル成型苗
根茎が数センチ以内の成型された容器にセル専用培土を使用して育苗する方法。プラグ苗と呼ばれることが多い。規格された苗の大量一括生産に適している。移植・定植時の取扱が容易であり、輸送性がある。また省力・機械化が図りやすい。根巻を生じやすいため、適期の移植等が大切。

そ

促成栽培
収穫の前進をねらって、育苗から収穫の終わるまで、ハウスあるいは温室で栽培する方法をいい、特別な温暖地は加温しないがほかは加温する。

速効性肥料
効き方の早い肥料を速効性肥料という。たとえば硫安や尿素などがある。

た

耐寒性
低い気温に耐えて生育する性質を耐寒性という。

台木
植物を接ぎ木する場合、根部に当たるものを台木という。たとえば、スイカの双葉苗をユウガオの双葉苗に挿し込んで接ぎ木すると、根はつる割病（つるわれびょう）に侵されないし、地上の蔓には目的のスイカが実る。この場合のユウガオを台木といい、スイカを接ぎ穂（つぎほ）という。なお、果樹等は病害防止の目的ではなく、品種の形質を正しく保持する苗木をつくる目的で、それぞれ必要な台木に接ぎ木する。

耐暑性
高温によく耐える性質。

耐病性
病気にかかりにくい性質。

単為結果（たんいけっか）
受精しなくても果実ができることをいう。普通は種なしとなる。花粉やそれにかわる物質の刺激によって、受精せずに結果するものを他動的単為結果といい、受粉やその他の刺激なしに結果する自動的単為結果（キュウリ、いちじく、ぶどう）と区別する。

単粒構造（たんりゅうこうぞう）
土が単一の粒子でできている場合、この状態を単粒構造という。

団粒構造（だんりゅうこうぞう）
土の粒子が集合したものを団粒（だんりゅう）といい、団粒でできている土の状態を団粒構造という。植物栽培上、好ましい土壌状態である。

ち

チッソ
植物の肥料成分として、最も重要なものの一つである。窒素が不足すると作物は小型となり、葉は黄色を帯びて子実の収量も低下する。一方、過多の場合は、葉は濃緑となり軟弱徒長し病虫害を受けやすく成熟も遅れる。

中耕（ちゅうこう）
栽培中、畝の表層が硬くなるため、通気性を良くする目的で浅く耕す作業を中耕という。除草と同時に行うことが多く、この場合中耕除草という。

つ

追肥
作物の生育期間中に施す肥料。肥料の種類や量、施肥の回数や時期は作物の種類、気候、土壌、生育状況により異なるが一般には速効性肥料を用いる。

接ぎ木苗
寒さや病気に強くするためあるいは生育を強くして収量を増すなどのために、病気に強く生育旺盛な台木を利用して接ぎ木した苗。

土寄せ
作物の株元に土を寄せる作業をいう。一般には株もとを保護するために軽い程度に行うが、根深ネギの長い白根は、特に深い土寄せでつくられる。

つるぼけ
すいか・メロン・かぼちゃなど、蔓もの野菜の場合、蔓や葉が茂りすぎて開花や着果が妨げられる状態を、蔓ぼけ現象という。

て

定植

苗床などで育苗した苗を最終的に畑に植える作業を定植という。

摘芯（てきしん）

枝や蔓の先端を芯（しん）といい、これを摘み取ることを摘芯という。夏栽培に用いるきゅうりの品種には、蔓に着生する花の数が少ないので、最初に伸び出す蔓（これを親蔓という）の芯を早めに摘み取って、わき芽の伸びとその数の増加を図るなど、摘芯の一例である。

と

とう立ち

花を着生する茎が伸び出すことがとうだち（苔立ち）で、これを抽苔（ちゅうだい）ともいう。温度や日長がその大きい要因になっている。

徒長（とちょう）

チッ素や水分過多、日照不足などで、植物の茎や枝が通常以上にやわらかく長く伸びること。

ね

根鉢

鉢の中などで植物の根と根についた土壌の集まりのことをいう。

は

播種

種まきのこと。

鉢上げ

苗床から鉢に移植すること。庭植えの木や草を鉢に移植する場合にも使われる言葉。

春まき栽培

春に種をまいて夏の前に収穫する栽培。

ふ

覆土

種子をまいた上にかぶせる土を覆土という。

分げつ

分けつともいう。イネ科植物の、根に近い茎の節から枝分かれすること。

ひ

pH値

pH（ピーエッチ）は溶液の酸性やアルカリ性の度合いを示す単位で、土壌溶液のpHは植物の生育に大きなかかわりを持つ。0～14の段階であらわし、中性はpH7、酸性度が強まるにしたがって順次にpH6、pH5、pH4 ……、またアルカリ度が強まるにしたがって順次にpH8、pH9、pH10 ……のようにあらわす。主な作物・野菜が好む土壌pHはP131の参考資料⑤を参照。

へ

べたがけ栽培

春まきニンジン、秋冬・春まきダイコン、春植えレタスなどに保温、防霜、防風、防虫のためにベタ掛けをする資材用いて栽培する方法。軽くて通気性もよく、取扱の容易なもので、寒冷紗等が使われる。

ほ

穂木

接ぎ木で増やすために、台木に接がれる部分。増やしたい植物の枝で、接ぎ木用に調製したもの。接ぎ木の場合も穂木という言葉を使うが、区別するために「接ぎ穂」といわれることもある。

本圃

苗床などのように、栽培のある期間だけでなく、その栽培を完了するまで引き続き使用する圃地を本圃といい、苗床から別の苗床に植え替えることを移植、苗床から本圃へ植え付けることを定植という。

ま

間引き

苗床や直まきの畑で、密生している部分の苗を適当に取り去り、また、奇形や徒長したもの、育ち遅れたものを取り除く作業をいう。なお、以上の場合に限らないで花や果実、枝であっても、その一部を取り除くことを一般に間引くという。

マルチ栽培

ワラやモミガラ、またはポリエチレンフィルム等を使って、株の周囲や畝の上を覆うことをいう。マルチ効果としては、地温調節、水分保持、雑草防止、土の膨軟保持、病害防除等がある。詳しくはP130の参考資料④マルチの種類と効果を参照。

め

芽かき

余分に出た芽を若いうちに摘み取って、樹形を整えたり、果実・花の生育を調節すること。

も

元肥

作物を栽培する前にあらかじめ田畑に施しておく肥料。種類・施用量は、作物や栽培型により異なる。

ゆ

誘引

きゅうり・かぼちゃなど蔓性の野菜はもちろん、倒伏懸念のある作物は支柱を立ててひもなどでくくる。この作業を誘引という。

有機質肥料

油粕、魚肥などのように有機質を含んでいる肥料をいう。これに対して化学肥料を無機質肥料という。

よ

葉身（ようしん）
葉の広がった部分。

葉柄（ようへい）
葉身（葉の主要部分）を支えて茎に付着する柄のように細くなった部分。

ら

ランナー
いちごやオリヅルランは、親株からツルを横に伸ばして子株をつくる。その際のツルをランナーという。

り

鱗茎（りんけい）
地下茎の一種。葉が養分をたくわえて多肉となって重なり、球形や卵形になったもの。タマネギ、ネギなど。

輪作（りんさく）
いくつかの作物を一定の順序で繰り返し栽培することを輪作という。これは圃地の生産力保持と営農成果向上が狙いであり、種類の選択、組合せ、作付順のほかに圃地の使用順序をも合理的に計画しなければならない。

リン酸
肥料の三要素の一つ。開花、結実を促進する。実肥ともいう。

れ

連作障害
連作によって起こる作柄の不良を連作障害または忌地（いやち）現象という。原因は、特定の病害が甚だしくなる、特定の土中養分の欠乏、塩積（えんせき）、根が分泌した有害成分のためなど場合によって様々である。

わ

わき芽
葉のつけ根にできる芽。普通、葉の基部の上側にできるが、葉柄の内側に生ずるものも多い。腋芽。

JA OSAKA-HOKUBU

参考資料 ①

使用単位の相互関係

1. 長　さ

●1m(メートル)=100cm(センチメートル)=1000mm(ミリメートル)=3.3尺(しゃく)
●1cm=10mm
●1間(けん)=6尺=1.818m=181.8cm
●1尺=10寸(すん)=30.3cm
●1寸=3.03cm

2. 面　積

●1ha(ヘクタール)=100a(アール)=1町(ちょう)=10反(たん)
●1反=10畝(せ)=10a=1000㎡
●1a=1畝=100㎡
●1坪=3.3㎡

3. 容　積

●1ℓ(リットル)=10dℓ(デシリットル)=1000mℓ(ミリリットル)=1000cc(シーシー)
●1dℓ=100mℓ=100cc
●1斗(と)=10升(しょう)=18ℓ
●1升=10合(ごう)=1800mℓ
●1合=180mℓ

4. 重　さ

●1t(トン)=1000kg(キログラム)
●1kg=1000g(グラム)
●1貫(かん)=3.75kg

主な病害の耕種的予防法

区分 / 耕種的予防法	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
抵抗性品種を選ぶ	○	○	○	○
無病な種苗を使う	○	○	○	○
肥料のやり方に注意する	○	○		
排水をよくする	○	○	○	
土壌の酸度(pH)を矯正する			○	
風通し、採光をよくする（密植や雑草を防止する）	○	○	○	
かん水に注意する	○	○	○	
輪作や間作を行う	○		○	○
被覆する（土壌の跳ね上がりの防止防虫、雨よけなど）		○	○	○
被害株、被害茎葉を取り除く	○	○	○	○
冬季越冬場所の清掃を行う	○	○		
土壌を熱消毒する			○	

(注)病害の区分「Ⅰ」：べと病、灰色かび病、うどんこ病、えき病
「Ⅱ」：炭そ病
「Ⅲ」：立枯病、萎ちょう病、菌核病、白紋羽病、腐敗病
「Ⅳ」：ウイルス病

主な害虫の耕種的予防法

区分 / 耕種的予防法	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
抵抗性品種を選ぶ			○	
害虫のいない種苗を使う			○	○
風通し、採光をよくする（密植や雑草を防止する）	○	○		○
輪作や間作を行う		○	○	
被覆する（土壌の跳ね上がりの防止防虫、雨よけなど）		○		
被害株、被害茎葉を取り除く			○	○
冬季越冬場所の清掃を行う	○	○		○
土壌を熱消毒する			○	

(注)害虫の区分「Ⅰ」：ハマキムシ、シンクイムシ、カミキリムシ、ハモグリバエ類
「Ⅱ」：アブラムシ類、ハダニ類、オンシツコナジラミ
「Ⅲ」：タネバエ、ネダニ類、ネキリムシ類、土壌センチュウ類
「Ⅳ」：カイガラムシ類

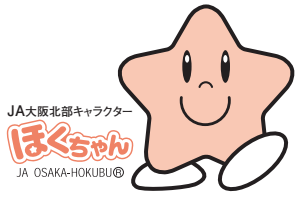
散布液の希釈量早見表

希釈倍率（倍）	作りたい散布液の量（単位gまたはml）						
	500ml	1l	3l	5l	10l	18l	50l
250倍	2	4	12	20	40	72	200
500倍	1	2	6	10	20	36	100
1,000倍	0.5	1	3	5	10	18	50
1,500倍	0.3	0.7	2	3.3	6.7	12	33
2,000倍	0.25	0.5	1.5	2.5	5.0	9	25

農薬の登録で誤認しやすい適用作物

下表の「作物名1」「作物名2」「作物名3」は作物の名前や形状が似ていますが、農薬の適用が異なります。一方に使用できても一方には使えない場合があるため注意しましょう。

	作物名Ⅰ	作物名Ⅱ	作物名Ⅲ
1	ブロッコリー	茎ブロッコリー	
2	トマト	ミニトマト（直径3cm以下のもの）	
3	ネギ	ワケギ	アサツキ
4	シュンギク	キク	食用ギク
5	芽キャベツ（子持ちカンラン）	非結球芽キャベツ（プチヴェール）	
6	にんにく	葉にんにく	
7	未成熟とうもろこし（スイートコーン）	ヤングコーン（ベビーコーン）	
8	にんにく	葉にんにく	
9	たまねぎ	葉たまねぎ	
10	大豆	えだまめ	



参考資料 ④

好光性種子と嫌光性種子

発芽するときに光が必要な「好光性種子」、光が必要ない「嫌光性種子」があります。このどちらの性質に属するかで、種まき後の覆土の厚さを調整しましょう。
好光性種子…発芽に光が必要なので、播種時の播種溝と覆土は浅めにしましょう。
嫌光性種子…発芽に光が必要ないため、種の直径の2〜3倍の厚さに土をかけましょう。

野菜種子の光と発芽の関係

	分　類	野　菜
好光性種子	アブラナ科 キク科 セリ科 シソ科	キャベツ類、カリフラワー、ブロッコリーなど ごぼう、レタス、しゅんぎく ミツバ、セルリー、にんじん シソ
嫌光性種子	アブラナ科 ヒガンバナ科 ナス科 ウリ科	だいこん ねぎ、たまねぎ、にら、リーキ トウガラシ、なす、トマト すいか、かぼちゃ、とうがん、きゅうり

マルチの種類と効果

マルチの種類	地温上昇	地温抑制	雑草防除	水分調節	害虫防除
透明ポリマルチ	◎	×	×	◎	△
黒ポリマルチ	○	○	◎	◎	△
シルバーポリマルチ	△	○	◎	◎	◎
白黒ダブルマルチ	×	◎	◎	◎	○
稲わら	×	◎	△	○	△

マルチとは、作物を育てている畑の畝を覆う資材のことです。種類によって様々な効果が期待できるため、目的とする効果や使用時期によって使い分けましょう。

参考資料 ⑤

野菜の肥料の効かせ方のタイプ

タイプ	野菜の種類	肥料の効かせ方
スタートダッシュ型	ほうれんそう、レタス、さつまいも さといも、じゃがいも	●元肥主体に　●全層施肥 ●後半からは窒素を効かさなくてよい
スタートダッシュ型 （中間）	キャベツ、はくさい、たまねぎ ながいも	●元肥を主体にやや長持ちする肥料を ●生育中期までは肥切れさせず、後半は控えめ
コンスタント型	きゅうり、トマト、ピーマン、なす、ねぎ さやいんげん、えだまめ、にんじん	●元肥には肥効が長持ちする緩効性肥料を ●追肥は少量ずつ回数多く、肥切れさせない
ラストスパート型 （中間）	アスパラガス、とうもろこし エンドウ、いちご	●元肥は控えめに　●追肥は早めに ●肥切れさせぬように
ラストスパート型	かぼちゃ、とうがん、すいか、メロン だいこん、ごぼう	●つるぼけ防止のため、元肥は控えめに ●中期から後期にかけて、追肥で生育調整

野菜の種類によって元肥と追肥のバランスを調整して、効果的に施肥をしましょう。

◎本書で記載の多い肥料の特徴

・苦土入り化成肥料8-8-8…速効性で、低成分のため肥料焼けしにくく、多くの野菜に使える。
・化成肥料14-10-13……速効性で、高成分のため施用量が少なくて済む。均等に散布するよう気をつける。
・大阪北部エコ有機３号……緩効性で、有機質原料を60%以上含み、多くの野菜に使える。

主な作物・野菜が好む土壌pH

	土壌pH	作物・野菜
アルカリ性	6.5～7.0	ほうれんそう
	6.0～7.0	トマト、アスパラガス、キャベツ、だいこん、エンドウ
中性	6.0～6.5	かぼちゃ、きゅうり、すいか、とうもろこし、なす、ピーマン メロン、カリフラワー、こまつな、しゅんぎく、チンゲンサイ、にら ねぎ、はくさい、ブロッコリー、レタス、さといも、えだまめ さやいんげん、そらまめ
酸性	5.5～6.5	水稲、いちご、かぶ、ごぼう、たまねぎ、にんじん
	5.5～6.0	さつまいも
	5.0～6.5	じゃがいも

作物・植物が最もよく育つpHの目安は、一般的にpH6.0～6.5くらいです。多くの作物が中性を好みますが、アルカリ性、酸性を好むものもあるため、栽培する作物・野菜に合わせて、土壌のpHを調整しましょう。

参考資料 ⑥

栽培を楽しもう!

Q&A

初めて栽培する作物、以前栽培したがうまくいかなかった作物、うまく栽培できるがもっと楽に栽培したい。などなど…

何に一番気をつけたらよいのだろう?

1. **果菜類や果樹など**、花を咲かせ実をつける作物は、草勢や樹勢が弱すぎたり、強すぎないように施肥や水管理、芽かきや新梢管理等で調整します。

   ①果菜類のうち、トマト、すいか等の甘さを重視し完熟して収穫するものは、
   ⇒⇒⇒**特に、葉や果実に光が良く当たるような管理をします。**

   ②果菜類のうち、なす、きゅうり、ピーマンなどは、未熟な果実を食べるため、
   ⇒⇒⇒**穫り遅れると草勢が弱ります。**

   ③果樹類は、少なくとも10年以上も同じ所で管理します。そのため、植え付け時に
   ⇒⇒⇒**大きな植え穴を掘り、有機物などで埋め戻して根が張りやすいようにしたり、若木の間に骨格となる主枝をつくることです。**

2. **葉茎菜類**は、**発芽から生育を揃え**、収穫作業を楽にするため、うねたて、種まき、かん水、間引きなどの管理が重要になります。

3. **根菜類**は、柔らかくて、排水の良い土で、**土寄せなどをこまめにします。**

4. 何よりも、目には見えませんが、作物を地下で支えている根の生育が悪いと、地上部も生育が悪くなります。しんどいですが、そのための**土づくりは、健康な作物を作るためには重要です。**

要は、自分がその作物の立場になったら、人間にどんな管理をしてもらいたいかです。もちろん、作物の立場だけでは、草勢や樹勢が強くなりすぎて、花や果実をつけなくなります。そのため、強くなりすぎないようにする必要もあります。その代わり、いい果実をたくさんならせたら、すぐ効く栄養を与えて、体力を回復させるなど、**作物をよく観察して、気付いたことを栽培記録簿やこの本に記録しておけば、次にとても役立ちます。**

Memo



JA大阪北部キャラクター
ぼくちゃん
JA OSAKA-HOKUBU®

2025年2月発行

JA大阪北部

大阪北部農業協同組合　本 店
〒562-0043 箕面市桜井2丁目8番8号　TEL.072-725-0751

大阪北部農業協同組合　営農生活部
〒563-0013 池田市中川原町331-1 2F　TEL.072-748-1701

萱野支店	箕面市萱野2-6-16	TEL.072-722-4123
箕面支店	箕面市桜井2-8-8	TEL.072-721-2071
豊川支店	箕面市粟生新家3-5-25	TEL.072-729-7161
豊能支店	豊能郡豊能町余野160-1	TEL.072-739-0555
能勢支店	豊能郡能勢町栗栖58-1	TEL.072-734-0006
東郷支店	豊能郡能勢町野間中682-1	TEL.072-737-0515
櫻井谷支店	豊中市桜の町4-1-9	TEL.06-6852-6875
麻田支店	豊中市蛍池中町1-4-30	TEL.06-6855-0661
小曽根支店	豊中市北条町3-4-40	TEL.06-6331-0643
庄内支店	豊中市庄内幸町4-7-23	TEL.06-6332-0181
南豊島支店	豊中市利倉東1-10-36	TEL.06-6863-6941
服部穂積支店	豊中市服部西町1-10-1	TEL.06-6864-0695
細河支店	池田市中川原町331-1	TEL.072-751-2668
池田支店	池田市上池田2-1-7	TEL.072-750-2127
資産管理センター	箕面市萱野2-6-16 2F	TEL.072-725-0800
農産物直売所	箕面市萱野2-6-13	TEL.072-720-5711
箕面営農経済センター	箕面市白島2-3-4	TEL.072-749-3818
豊能ライスセンター	豊能郡豊能町切畑241-1	TEL.072-732-2477
能勢ライスセンター	豊能郡能勢町大里221-1	TEL.072-734-2112
能勢営農経済センター	豊能郡能勢町宿野172-1	TEL.072-734-0017

VEGETABLE OIL INK　この冊子は環境に優しいインクで印刷しています。